

~~意見募集資料~~

意見募集は、終了しました。

福岡市総合計画（原案）

（福岡市基本構想・基本計画）

福岡市総合計画審議会

福岡市総合計画の体系

福岡市総合計画は、福岡市の将来の健全な発展を促進するために策定する市政の総合的計画のことで、「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」の3つで構成されています。

- 基本構想・・・福岡市が長期的にめざす都市像を示したもので、福岡市のさまざまな計画や市政運営の基本になるとともに、市民をはじめ、まちづくりに携わる産学官民の多くの主体が共有するものです。
- 基本計画・・・基本構想で定めた都市像の実現に向けた方向性を、まちづくりの目標や施策として総合的・体系的に示した10年間の長期計画です。
- 実施計画・・・基本計画を推進するにあたって、福岡市が取り組む具体的な施策や事業を示した4年間の中期計画です。

～ 目 次 ～

福岡市基本構想

I 目的	2
II 都市像	2

第9次福岡市基本計画

第1章 総論

1 基本計画策定の趣旨	6
2 基本計画の位置付けと目標年次	6
（1）基本計画の位置付け	6
（2）計画の目標年次	6
3 都市経営の基本戦略	7
4 基本計画の目標	10
（1）分野別目標	10
（2）空間構成目標	10
（3）区のまちづくりの目標	10
5 基本計画推進にあたっての基本姿勢	11
（1）行政運営の基本姿勢	11
（2）基本計画の着実な推進	11
6 福岡市を取り巻く状況	12
（1）福岡市のあゆみ	12
（2）現状と課題	14
① 人口等	14
② 高齢化・コミュニティ	18
③ 環境・まちづくり	20
④ 経済	22
（3）福岡市の広域的な役割	26

第2章 計画各論

1 分野別目標と施策	29
目標1：一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている	30
目標2：さまざまな支え合いとつながりができている	34
目標3：安全・安心で良好な生活環境が確保されている	36
目標4：人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている	40
目標5：磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている	44
目標6：経済活動が活発でたくさんの雇用が生まれている	48
目標7：創造的活動が活発で、多様な人材が新しい価値を生み出している	52
目標8：国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている	54
2 空間構成目標	59
3 区のまちづくりの目標	67

福岡市基本構想

福岡市基本構想

I 目的

福岡市は、恵まれた自然と豊かな歴史に育まれた都市です。糸島半島と海の中道のふたつの腕で博多湾を抱き、背後には緑の山々が連なっています。有史以前から大陸との交流の歴史をもつこの地で、福岡市はいきいきと発展しています。

福岡・博多は古来、大陸との交流窓口の役割を果たし、遣新羅使・遣唐使等の発着地として「鴻臚館」が設けられるなど、外交・貿易の拠点となってきました。中世には、対外貿易の拠点として個性豊かな自由都市として多くの商人が海外へ雄飛する地となりました。

福岡市は、先人たちの叡智とひたむきな努力によって、九州の中核都市としてたくましく成長しました。昭和62年に「海」と「アジア」を都市像として掲げた「福岡市基本構想」を策定し、他都市に先駆けてアジアに開かれたまちづくりを進めてきました。いまや、経済、行政、情報、教育、文化などにおいて広域的な機能を持ち、福岡都市圏はもちろん、九州全域の発展に寄与しています。この福岡市の役割と責任は、今後ますます重要性を増し、その豊かな自然と歴史を継承しながら発展を続けるでしょう。

福岡市は、いつの時代にあっても、市民一人ひとりがその能力を十分に生かし、希望と生きがいを育んでいく都市であり続け、独自の文化を生み出し、日本、アジア、世界の平和と繁栄に貢献していきます。そして、この素晴らしい都市を、未来を担う子どもたちに引き継いでいきます。

このような思いのもと、ここに、福岡市がめざす都市像を掲げ、地域の産学官民がその力を結集して、将来に向けて都市づくりに取り組みます。

II 都市像

住みたい、行きたい、働きたい。アジアの交流拠点都市・福岡

- 1 自律した市民が支え合い心豊かに生きる都市**
- 2 自然と共生する持続可能で生活の質の高い都市**
- 3 海に育まれた歴史と文化の魅力が人をひきつける都市**
- 4 活力と存在感に満ちたアジアの拠点都市**

1 自律した市民が支え合い心豊かに生きる都市

福岡市は、大陸との交流の歴史に育まれた、自由かつ達で進取の気性にあふれた自治都市です。市民一人ひとりの力が、自治と支え合いを基盤とした地域コミュニティをつくり、住みよいまちをつくってきました。

市民生活が豊かであるためには、まず市民一人ひとりが自らを律し、交流と対話を通じて相手の立場を理解し合い、人権を尊重しあうことが大切です。年齢や性別、障がいの有無、国籍などにか

かわらず、誰もがすべての人への思いやりを持ち、住んでいる人にも、訪れる人にも優しいまちをめざします。また、市民一人ひとりが生きがいと希望を持って健康に暮らしていけるよう、さまざまな仕事や地域活動などの活躍の場をつくります。

さらに、将来を支える子どもたちを育むことも大切です。子育てしやすいまちとして子どもの健やかな育ちを地域全体で支えるとともに、次代を担う子どもや若者が、自ら学ぶ意欲と志を持ち、心豊かにたくましく自立して生きていくことができるよう、社会全体で育んでいきます。

福岡市は、すべての市民がかけがえのない存在として大切にされ、一人ひとりがあたたかく支え合う心を共有し、それぞれが社会の一員としての役割を果たし、ともに心豊かに生きることできる都市をめざします。

2 自然と共生する持続可能で生活の質の高い都市

福岡市は、豊かな自然と穏やかな風土に恵まれ、魅力ある景観、快適な生活基盤と、充実した都市機能がコンパクトに整っている都市です。

将来にわたってこの都市の素晴らしさを持続していくために、豊かな自然を大切に守り、環境負荷が小さい低炭素・循環型のまちづくりを進めるとともに、これまでに築いてきた都市の財産を、最大限有効活用し、長く大切に使用していきます。また、都市の安全性向上を図るとともに、日常的な安全の確保はもとより、大規模災害にも耐えられるまちづくりを進めます。

福岡市は、自然の恵みを大切にしながら、環境にやさしく、美しく、快適で安全・安心、かつ質の高い生活を送ることのできる都市をめざします。

3 海に育まれた歴史と文化の魅力が人をひきつける都市

福岡市は、海を通じて世界とつながり、その長い歴史の中で独自の文化、個性を育んできました。それは、祭りや食、芸術やスポーツなどさまざまな都市の魅力を創り出してきました。

これからも、市民が海と接する多様な機会を創造し、都市的魅力と美しい自然が織りなす福岡市の個性づくりを展開します。また、福岡市固有の歴史文化と融合した都市的魅力により、多くの人をひきつけ、多様な人が住みやすく活動しやすい環境づくりを進め、情報が行き交い、混ざり合う中で、新しい世界を創り出していきます。

福岡市は、独自の魅力と多様な交流が新たな価値を創造し、世界中の人をひきつける都市をめざします。

4 活力と存在感に満ちたアジアの拠点都市

福岡市は、地理的にも、歴史的にも、アジアとの深いつながりの中で育まれた都市です。国際的な都市間競争がますます激化していく中、福岡都市圏の核として、九州さらには隣接するアジアの諸地域との連携を図り、日本を牽引していく都市としての役割を担っていきます。また、アジアとの交流を、市民、学術、文化、経済などすべての面で深化させ、アジアの活力を取り込み、アジアと共に成長していく都市をめざします。さらには、アジアの中の成熟都市として蓄積した知識や経験を生かし、アジア地域が抱える社会課題の解決や生活環境の向上に寄与することで、アジアの諸地域のモデルとなる都市をめざします。

福岡市は、福岡都市圏、九州、アジアとともに成長し、世界中から人、投資、物、情報、そして夢が集まる、活力と存在感に満ちたアジアの拠点都市をめざします。

第9次福岡市基本計画

第9次福岡市基本計画

第1章 総論

1 基本計画策定の趣旨

- 福岡市は、恵まれた自然環境や豊かな食文化などに加え、水道、下水道、道路、鉄道、情報通信、文化、スポーツ施設など社会資本の整備の充実、公共交通ネットワークの充実、大学や商業機能の集積、住民自治や子育て支援の充実などにより、国内外から住みやすい都市との評価を得ています。
- しかしながら、地球温暖化や生物多様性の減少、世界人口の増加に伴う水や食糧の危機など、世界規模の問題は確実に進行しています。また、東日本大震災を経て、防災やエネルギー、首都機能の代替拠点のあり方などが検討され、企業の拠点分散化の動きも始まるなど、国のかたちも大きく変わろうとしています。
- また、日本における少子高齢社会の進展やそれに伴う人口構造の変化は、今後も確実に進行し、経済、社会、地域コミュニティなどについて、今までの延長線上の考え方では維持していくことが難しくなっていきます。東日本大震災を経て、すでに絆やつながりに対する人々の意識は高まっていますが、さまざまな面でこれまでのライフスタイルや価値観を転換せざるを得ない時代となっています。
- 一方、アジアの急速な発展の中、国や地域を越えて社会経済活動が活発に行われ、都市間競争が世界規模で激しさを増し、経済社会の先行きはますます予測困難なものになってきています。福岡市はこれまで他都市に先駆けてアジアとの交流を掲げてまちづくりに取り組んできましたが、今後も活力を維持し続けるためには、アジアとの関係においても、共に発展するステージへと進むことが求められています。
- このような認識のもとで、今後の都市経営の方向を明らかにし、新たな時代にふさわしい、新しい基本計画を策定します。

2 基本計画の位置付けと目標年次

(1) 基本計画の位置付け

「第9次福岡市基本計画」は、「福岡市基本構想」に掲げる都市像の実現に向けた方向性を、まちづくりの目標や施策として総合的・体系的に示した10年間の長期計画です。

(2) 計画の目標年次

本計画の目標年次は、2022年度（平成34年度）とします。

また、計画の期間は2013年度（平成25年度）から2022年度（平成34年度）までの10年間とします。

3 都市経営の基本戦略

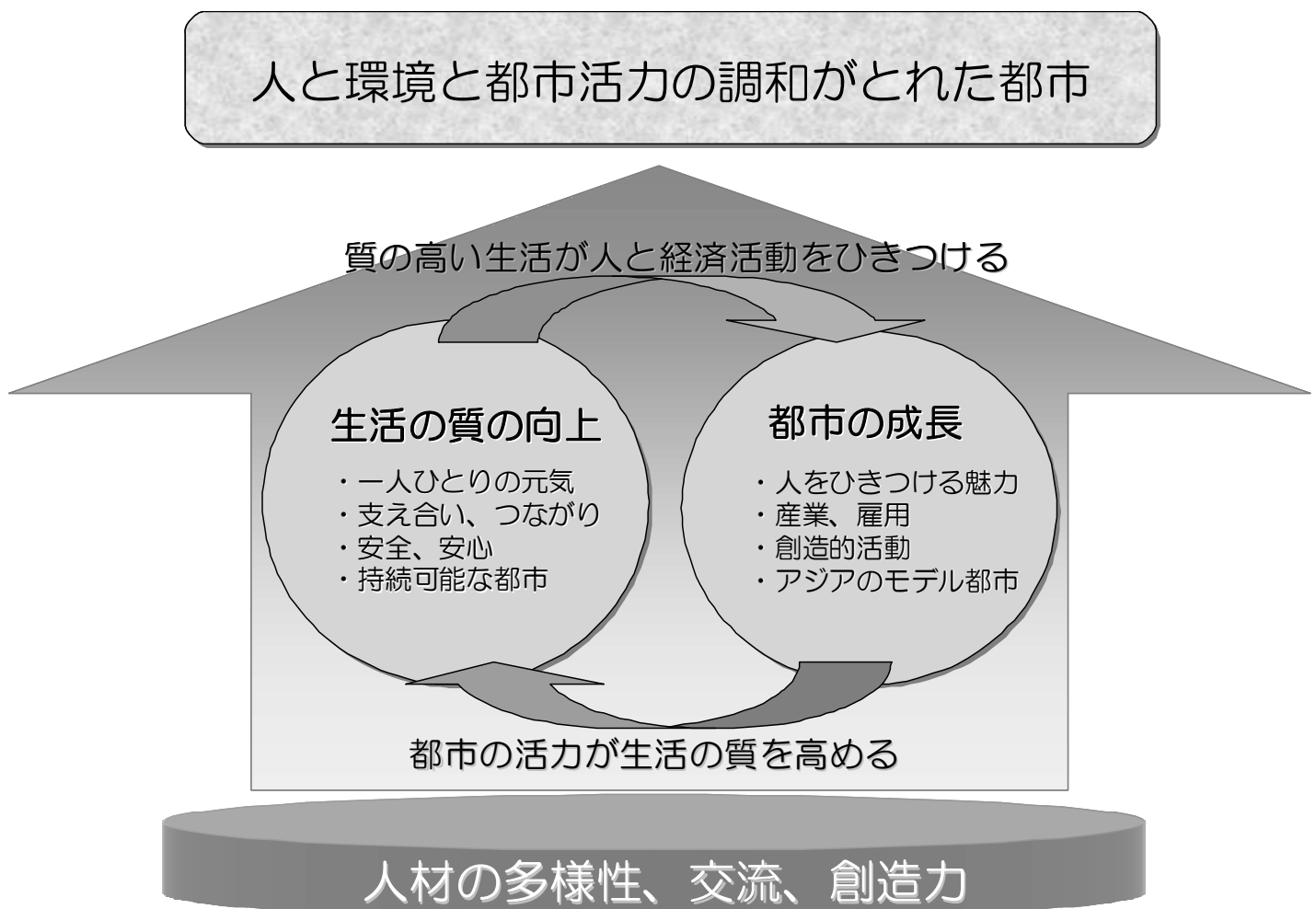
日本全体が成熟社会に移行していく中、福岡市はアジアの活力を取り込みながら、常に躍動する都市として発展を続け、九州、日本の成長を牽引していくとともに、経済的な成長と安全・安心で質の高い暮らしのバランスがとれた持続可能な都市として、世界中からさまざまな人をひきつけ、アジアと共に成長し、時代の先頭を切って新しいまちづくりに挑戦していきます。

《基本戦略》

- (1) 生活の質の向上と都市の成長の好循環を創り出す
- (2) 福岡都市圏全体として発展し、広域的な役割を担う

(1) 生活の質の向上と都市の成長の好循環を創り出す

- 福岡市の「住みやすさ」に磨きをかけて市民生活の質を高め、質の高い生活が人と経済活動と呼び込み、都市の成長を実現させ、さらに生活の質が高まるという好循環をつくっていきます。
- そのためには、人材の多様性とその交流から生まれる創造力が必要であり、それを支える基盤として、さまざまな人材が育ち、集まり、活躍できる環境づくりに取り組みます。



① 生活の質の向上

- ・地域コミュニティを、生活の質を高める基盤として大切にします。
- ・安全・安心が確保された、質の高い生活を送ることのできる環境をつくります。
- ・住みよいまちとして国際的にも高い評価を得ていますが、高齢化の進展の中で、既存の仕組みでは対応できなくなっていくため、さまざまな新しい仕組みづくりにチャレンジします。
- ・独自の歴史や文化を尊重し、教育の振興や景観の保持に努め、都市の魅力に磨きをかけます。
- ・質の高い生活で人と経済活動をひきつけ、都市の成長につなげます。

② 都市の成長

- ・人と環境と都市活力の調和がとれたまちづくりの経験をもとにアジアに貢献し、アジアとの緊密なネットワークを生かしながら都市の国際競争力を強化し、アジアとともに成長することをめざします。
- ・短期的には、クルーズ需要への対応や、歴史や文化を生かした観光・集客、MICE ※ の拠点機能の強化に取り組みます。
- ・中期的には、MICE などでの交流をビジネスや研究の交流へ、そして新たなビジネス開発や実験などのスタートアップにつなげます。
- ・長期的には、域外で活躍する企業の立地、創業につなげていきます。
- ・このように、新たな価値を創造し、経済活動を活性化させ、都市の成長を実現することで、生活の質の向上につなげます。

※MICE(マイス)とは、企業等の会議(Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行(インセンティブ旅行)(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字のこと。多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。

③ 人材の育成と集積

- ・次代を担う子どもたちが夢を持ち、自ら行動する力を身につけることのできる教育を推進します。
- ・大学、企業などと連携のもと、若者の人材育成に取り組みます。
- ・大学等の高等教育機関が集積しているほか、多様な専門学校がある福岡市において、教育・研究機能をさらに充実させるとともに、若者、留学生など多様な人材が国内外から集まる、魅力ある教育環境をつくります。
- ・労働力人口が減少する中で、今後重要な活力となる女性や高齢者の活躍を支援します。
- ・多様な人材がそれぞれの能力を発揮し、働き、活躍できる環境をつくるとともに、人材の定着を図ります。

（２）福岡都市圏全体として発展し、広域的な役割を担う

生活圏・経済圏が一体化した福岡都市圏では、これまで交通、水、福祉、環境などの共通の課題と一緒に取り組んできました。

福岡都市圏を取り巻く環境は、少子・高齢化の進行、人口減少社会の到来や情報化・国際化の進展など急激に変化しています。このような社会情勢の変化に対応していくためには、都市圏各市町の連携を一層深め、一体となって福岡都市圏の発展に取り組んでいくことがより重要となります。

このような考えのもと、安全で安心して生活でき、文化や仕事が充実し、成熟した社会にふさわしい市民生活の場を提供するとともに、九州そして日本全体の発展を牽引する経済成長のエンジンとしての役割を担う国際競争力を持った都市圏を実現していきます。

【九州における役割】

- 九州においては、災害時における市域を越えた支援など、九州全体の安全・安心に貢献するとともに、多様な都市間の連携の中で、文化、教育、経済、情報などさまざまな高次機能を備え、情報発信や域外とのネットワークの機能を持ち、九州全体の成長を促進する役割を担っていきます。

【日本における役割】

- 日本においては、福岡市は日本海側最大の都市であり、アジアに近い位置にあることから、我が国におけるアジアを向いた都市として、学術、文化、経済などさまざまな面で日本とアジアをつなぐ役割を担っていきます。
- 東日本大震災以降、福岡市に企業の本社機能の一部などを移転する事例が増加しているほか、首都圏の中核機能の継続が不可能となった際の、首都機能の代替拠点の候補にも挙がっており、首都圏に集中する各種機能の補完や機能分散の受け皿としての役割を担っていきます。

【アジアにおける役割】

- アジアにおいては、経済発展と質の高い生活のバランスがとれた持続可能な都市として、今後発展していくアジアの諸都市のモデルになるとともに、人材や交流の蓄積を生かし、アジアとともに、文化的にも経済的にも継続的に発展する拠点としての役割を担っていきます。

4 基本計画の目標

10年後、2022年度（平成34年度）の都市の望ましい姿を、まちづくりの目標として掲げます。まちづくりの目標は、「分野別目標」、「空間構成目標」、「区のまちづくりの目標」で構成します。

（１）分野別目標

「分野別目標」は、都市像の実現に向けて、人やまちをどのような状態とするかを目標として示したものです。

「分野別目標」ごとに、「めざす姿」、「現状と課題」を記載し、分野別目標の達成に向けた取り組みとなる「施策」と、その達成度を測る「成果指標」を示します。

< 8つの目標 >

○自律した市民が支え合い心豊かに生きる都市 ○自然と共生する持続可能で生活の質の高い都市	目標 1	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている
	目標 2	さまざまな支え合いとつながりができている
	目標 3	安全・安心で良好な生活環境が確保されている
	目標 4	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている
○海に育まれた歴史と文化の魅力が人をひきつける都市 ○活力と存在感に満ちたアジアの拠点都市	目標 5	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている
	目標 6	経済活動が活発でたくさんの雇用が生まれている
	目標 7	創造的活動が活発で、多様な人材が新しい価値を生み出している
	目標 8	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている

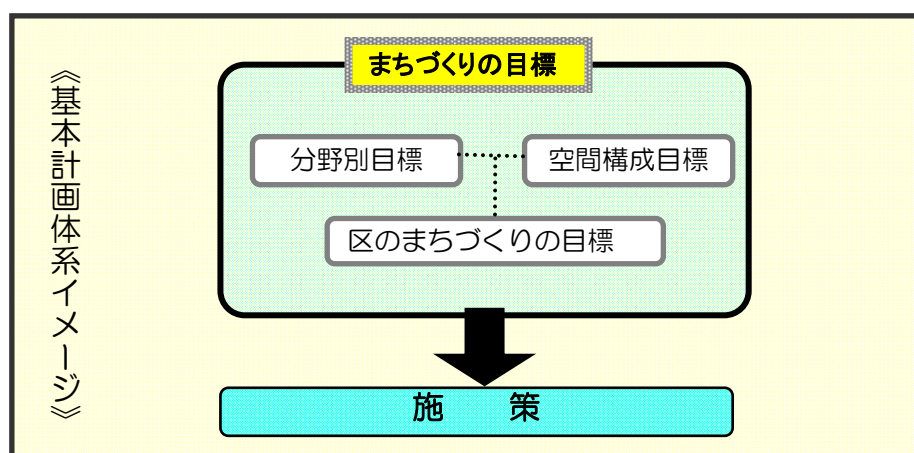
（２）空間構成目標

「空間構成目標」は、市民生活や都市活動の場となる都市空間を、どのように形成し、どのように利用する空間とするかを目標として示したものです。

「空間構成目標」と「現状と課題」、「めざす姿」、「空間構成目標の実現に向けた土地利用の方向性」などを示します。

（３）区のまちづくりの目標

「区のまちづくりの目標」は、「分野別目標」や「空間構成目標」を踏まえ、市民及びさまざまな主体が、地域のまちづくりに取り組むために共有する目標として、行政区ごとにまちづくりの目標を示したものです。行政区ごとに、「区の特徴」、「現状と課題」、「区のまちづくりの目標と取り組みの方向性」を示します。



5 基本計画推進にあたっての基本姿勢

(1) 行政運営の基本姿勢

① 市民との共働（※）による行政運営

まちづくりの主役は市民であり、行政運営は市民との共働が基本です。

そのため、積極的に情報を発信し市民との情報共有を図ることにより、市民の納得、共感を得ながら、市民に分かりやすく、透明性の高い行政運営を推進します。

また、誰もが住みやすいまちであり続けるためには、さまざまな課題解決に向けて、市政の主役である市民と企業、行政などが、それぞれの役割を認識し、責任を果たしていくことが不可欠です。こうした取組みには、福岡市を愛し、地域を育てる、情熱と地道な活動が必須であり、行政はこれらを下支えするため、市民、地域、NPO、企業、大学など多様な主体と対話し、相互に理解し、緊密な連携・共働を進めます。

※共働…相互の役割と責任を認め合いながら、対等の立場で知恵と力をあわせて共に行動すること。

② 持続可能な行財政運営

高齢者人口の大幅な増加に伴う社会保障費の増大、公債費の高止まり、高度経済成長期や政令市移行期に整備した社会資本の大量更新期の到来など、今後さらに厳しい財政状況が見込まれます。

こうした厳しい財政状況において、重要施策の推進や新たな課題に対応していけるよう、

- ・経常的経費の見直しや施策の選択と集中により、多様な財源を確保し、生活の質を高め都市の成長を図る分野への投資の重点化をより一層進めます。
- ・将来世代に過大な負担を残さないよう、市民一人当たりの市債残高を着実に減少させます。
- ・今後更新時期を迎える大量の市有施設については、維持更新に係る投資額の低減や平準化を図りつつ、良質な公共サービスを持続的に提供するアセットマネジメントを推進します。
- ・こうした取組みにより、高齢化の進展にも対応できる足腰の強い「持続可能な財政構造」の確立を図ります。

また、社会経済情勢や市民ニーズに的確かつ迅速に対応するため、行政運営の仕組みや発想、手法を抜本的に見直します。

③ 時代に合った柔軟で果敢にチャレンジする市役所

さまざまな変化に対応できるよう、常に時代の変化への感度が高く、コミュニケーションを重視し、新しいことに果敢に挑戦する組織をつくります。

職員一人ひとりが、市民から信頼されるプロフェッショナルとして絶えず自己研鑽に努め、まちづくりに全力を尽くすことに誇りと喜びをもてる組織風土をつくります。

市民に身近な区役所については、市民生活に密着したサービスの拠点、地域の個性を生かしたまちづくりの拠点と位置づけ、市民サービスの向上やコミュニティ支援機能の強化を進めます。

(2) 基本計画の着実な推進

計画の推進にあたっては、社会情勢の変化などを踏まえながら、4年間の実施計画で具体的な施策や事業を示すとともに、毎年度の予算編成の中で、その必要性や緊急性を検討しながら予算化を行っていきます。

計画の進行管理として、施策ごとに成果指標を掲げ、その達成状況を毎年評価、公表します。さらに、目標の実現に向け、毎年の評価結果を踏まえ、取組みの見直しを行い、改善策を実行していきます。

6 福岡市を取り巻く状況

(1) 福岡市のあゆみ

<古代～近世>

- 日本列島の中でも朝鮮半島や中国大陆に近いという地の利に恵まれた福岡市の歩みは、常に海とともにあり、後漢と倭の奴国の親交を示す「金印」の出土や唐や新羅からの使節を接待・宿泊させる外交施設であった「鴻臚館」にも象徴されるように、古くから大陸と結ばれた人と文化の往来の中で発展してきました。
- 平安時代末期には、平清盛が日本初の人口港である「袖の湊」を博多に築いたといわれ、日宋貿易の拠点として繁栄したことで、栄西をはじめとした多くの著名な僧侶が博多に宋文化を伝えるなど、アジア有数の国際都市として栄えました。
- 以来、江戸時代初期に至るまで、博多は、アジア諸国との国際交流の拠点都市として、その地位を確立し、博多の豪商に代表される博多商人達は、朝鮮、中国はもちろんのこと、タイ、フィリピンといった東南アジアにまでその経済活動の範囲を広げ、そのような博多商人達の進取、自由、自治の精神によって中世博多は大いに発展を遂げました。
- 1600 年、黒田長政が藩主となり、翌年から福岡城の築城が開始されました。これにより「福岡」という城下町が誕生し、その後福岡・博多の双子都市として発展してきました。

<近代以降>

- 福岡市は、1889 年（明治 22 年）に公布された「市制及び町村制」により誕生しますが、その当時の人口規模は、九州では鹿児島市、長崎市に次ぐ 3 番目の都市でした。その後、中央官庁をはじめ、東京や大阪に本店のある会社などが、福岡市に次々と進出し、支店を設置するようになりました。1911 年（明治 44 年）には、九州帝国大学が創立しています。このように、中央官庁の出先機関や帝国大学の誘致に成功した福岡市は、次第に九州の中核都市としての機能を担うようになっていきました。
- 1899 年（明治 32 年）には博多港が対外貿易港として開港、1936 年（昭和 11 年）には雁の巣国際飛行場が開設しました。また、戦後、1951 年（昭和 26 年）に博多港が最重要港湾に指定されるとともに、福岡空港の民間航空路線が開設、さらには 1975 年（昭和 50 年）に博多駅に山陽新幹線が開通したことで、広域交通の拠点性も向上し、九州経済を牽引していく都市としての役割が高まっていきました。
- 1972 年（昭和 47 年）に政令指定都市となり、1975 年（昭和 50 年）には市の人口が 100 万人を突破するなど急激な人口増加が進む中、福岡都市高速道路の開通や地下鉄空港線の開業などにより、都市基盤の整備を進めてきました。
- 近年では、地下鉄七隈線の開業、九州新幹線鹿児島ルートの中線開通、福岡都市高速道路環状線の完成などにより、市民生活や都市活動を支える基盤整備が行われたほか、アジア太平洋博覧会をはじめ、アジア太平洋子ども会議、アジアマンス、福岡アジア美術館の開設などのアジア施策を推進し、アジアとの交流拠点として国際都市づくりに取り組んできました。

今後、これらの財産とこれまでのアジアとの交流により蓄積された福岡市の歴史、文化、豊かな自然などの魅力にさらに磨きをかけ、生かしていくことが求められています。

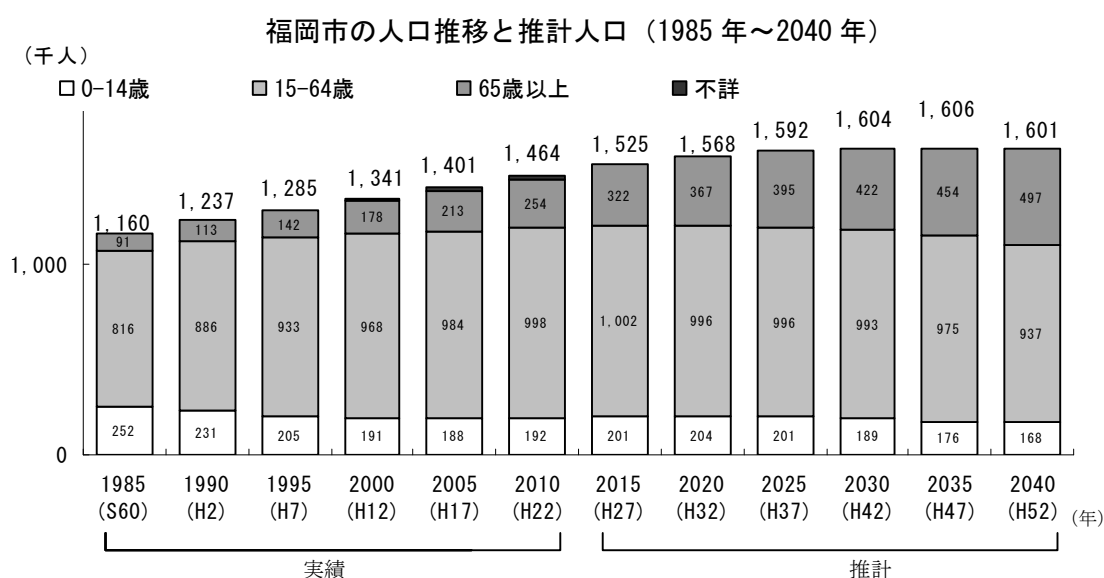
(年 表)

西 暦	主 な 出 来 事
紀元前 4 世紀頃～	板付遺跡 [大陸から稲作技術をいち早く導入]
紀元前 2 世紀 ～紀元前 1 世紀	吉武高木遺跡 [最古級の王墓、クニの萌芽]
57 年	奴国王が後漢に朝貢し「漢委奴国王」の金印を授受
536 年	大和朝廷が那の津の口に「那津官家」を設置 [九州を統括する大宰府の前身]
7 世紀後半～	筑紫館(後の鴻臚館)を設置 [日本初の迎賓館、その後貿易拠点に]
11 世紀後半 ～12 世紀	貿易拠点が鴻臚館から博多へ移行 [日本初のチャイナタウン、博多の国際都市化]
1274 年、1281 年	文永の役・弘安の役(元寇防塁を築く) [九州の軍事、政治、貿易の拠点化]
1401 年	博多商人肥富の勧めにより足利義満が遣明船を派遣し、日明貿易が開始
1587 年	豊臣秀吉、博多の町割りを命じる [博多の復興]
1601 年～1607 年	福岡城築城 [福岡と博多の双子都市誕生]
1889 (明治 22) 年	福岡市の誕生
1899 (明治 32) 年	博多港が対外貿易港として開港
1905 (明治 38) 年	博多～釜山 定期航路開設
1911 (明治 44) 年	九州帝国大学の創立
1936 (昭和 11) 年	雁の巣国際飛行場開設
1945 (昭和 20) 年	博多港が海外引揚援護港に指定される
1951 (昭和 26) 年	博多港が最重要港湾に指定される、福岡空港の民間空港化
1963 (昭和 38) 年	福岡市民会館開館
1972 (昭和 47) 年	政令指定都市となり、5 区が誕生
1975 (昭和 50) 年	市の人口が 100 万人突破、山陽新幹線が博多まで開通
1978 (昭和 53) 年	渇水のため給水制限 (287 日間)
1979 (昭和 54) 年	福岡市美術館開館
1980 (昭和 55) 年	福岡都市高速道路開通
1981 (昭和 56) 年	地下鉄空港線開業
1982 (昭和 57) 年	行政区の再編成により 7 区制開始
1983 (昭和 58) 年	筑後川受水開始
1989 (平成元) 年	アジア太平洋博覧会「よかトピア」開催
1990 (平成 2) 年	「アジア太平洋都市宣言」制定、アジアマンス開幕、福岡市博物館開館
1993 (平成 5) 年	博多港国際ターミナル開設
1995 (平成 7) 年	ユニバーシアード福岡大会開催、マリンメッセ福岡開館
1996 (平成 8) 年	福岡市総合図書館が開館
1999 (平成 11) 年	福岡都市高速が太宰府 IC へ接続、福岡アジア美術館開館
2003 (平成 15) 年	福岡国際会議場開館
2004 (平成 16) 年	町世話人廃止、自治協議会制度導入
2005 (平成 17) 年	地下鉄七隈線開業、福岡県西方沖地震発生、アイランドシティのまちびらき、九州大学伊都キャンパスへの移転開始
2011 (平成 23) 年	九州新幹線鹿児島ルート全線開通

(2) 現状と課題

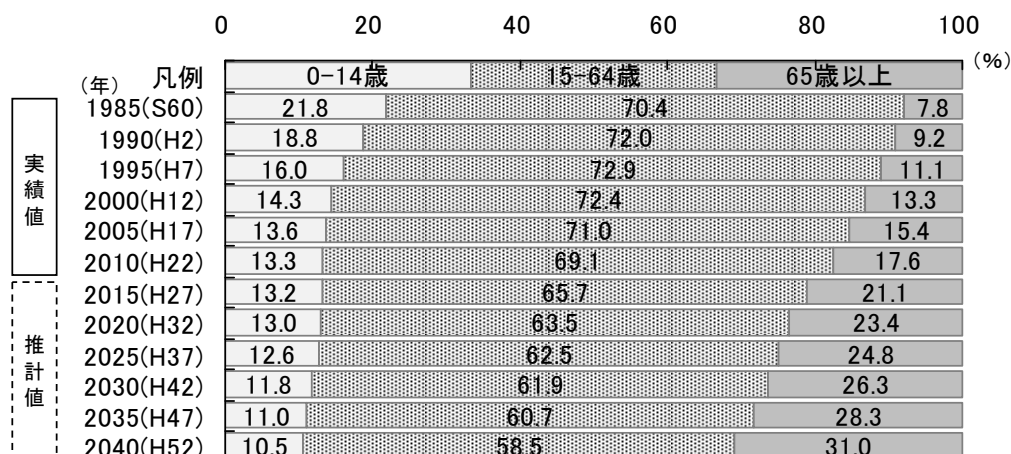
①人口等

- 福岡市の人口は、2010年（平成22年）の国勢調査で約146万4千人であり、前回調査時点2005年（平成17年）と比較した増加率は4.5%です。
- また、65歳以上人口は総人口の17.6%と、前回より2.2ポイント上昇しており、高齢化が一段と進んでいます。
- 今後減少していくことが見込まれる日本全国や九州等と異なり、福岡市の総人口は、転入超過による社会増が続くことなどから、2035年（平成47年）頃まで約20年の間、増加が見込まれ、2030年（平成42年）には160万人を超える見込みです。
- 年齢区分別では、生産年齢人口（15歳～64歳）は、全国的には既に減少している中、2030年頃まではほぼ横ばいで推移し、その後、徐々に減少に向かいます。また、年少人口（0～14歳）は2005年頃から増加していますが、2020年頃をピークに減少に向かいます。一方で、老年人口（65歳以上）は継続して増加し、2040年には31%に達します。



資料：実績…国勢調査、推計…福岡市総務企画局（2012年3月推計）

福岡市の人口・推計人口における年齢構造の変化（1985年～2040年）



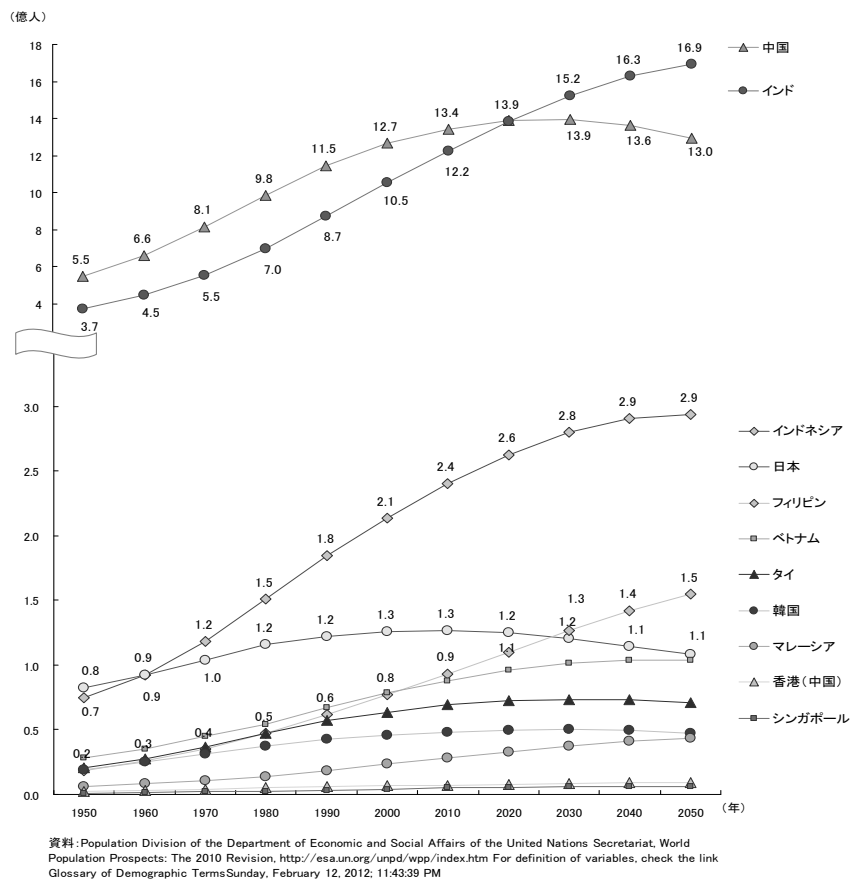
資料：実績…国勢調査、推計…福岡市総務企画局（2012年3月推計）

(注) 実績値の構成算出に当たっては総数から年齢不詳を除外している

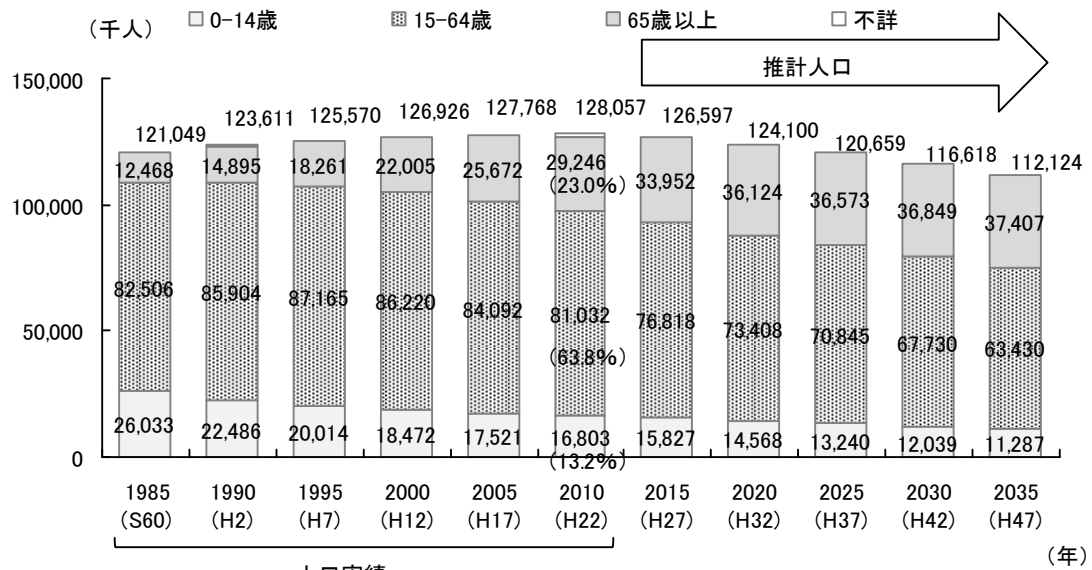
<外部の状況>

- ・世界の総人口は、2011年10月時点で、それまでの12年間で10億人増加し、70億人を突破しました。また、「世界人口白書 2011」（国連人口基金）によると、今後12年間でさらに10億人増加することが予想されています。
- ・アジアでは、中国が13.4億人（2010年時点）と世界で最も人口の多い国ですが、2030年頃人口のピークを迎え減少に転じ、中国に代わってインドが2020年から2030年の間に世界で最も人口の多い国となる見込みです。
- ・日本では、人口減少や少子高齢化が進展し、生産年齢人口の減少は、経済社会に大きな影響を与えることが懸念されています。
- ・九州では、2000年（平成12年）から既に減少し、全国平均より少子高齢化が進んでいます。福岡都市圏では、現在も人口が増加しています。

アジア各国の人口推移と予測（1950～2050年）



全国の人口推移と推計人口（1985年～2035年）

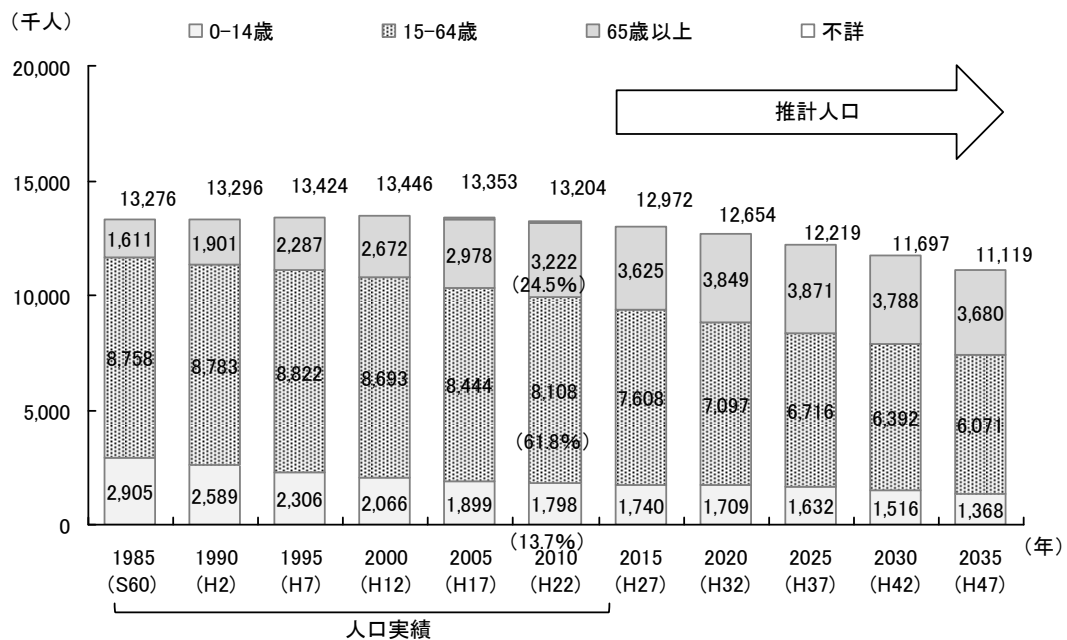


資料：実績…国勢調査

推計…国立社会保障・人口問題研究所 推計人口

「日本の将来人口推計（平成24年1月推計）」

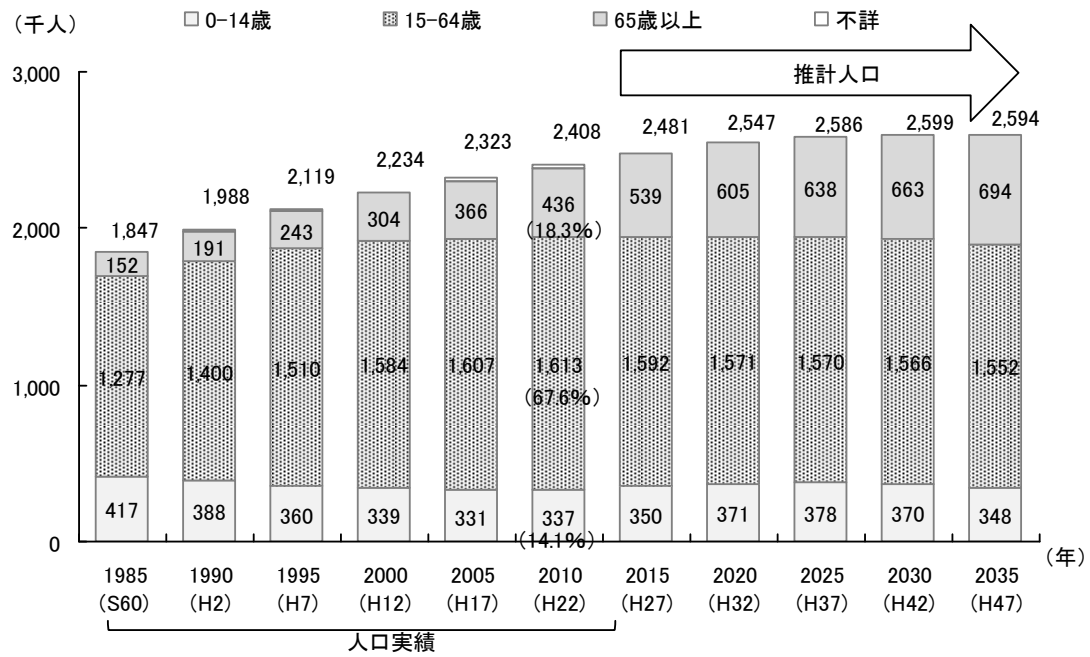
九州の人口推移と推計人口（1985年～2035年）



資料：実績…国勢調査

推計…(財)九州経済調査協会(2012年2月推計)

福岡都市圏の人口推移と推計人口（1985年～2035年）



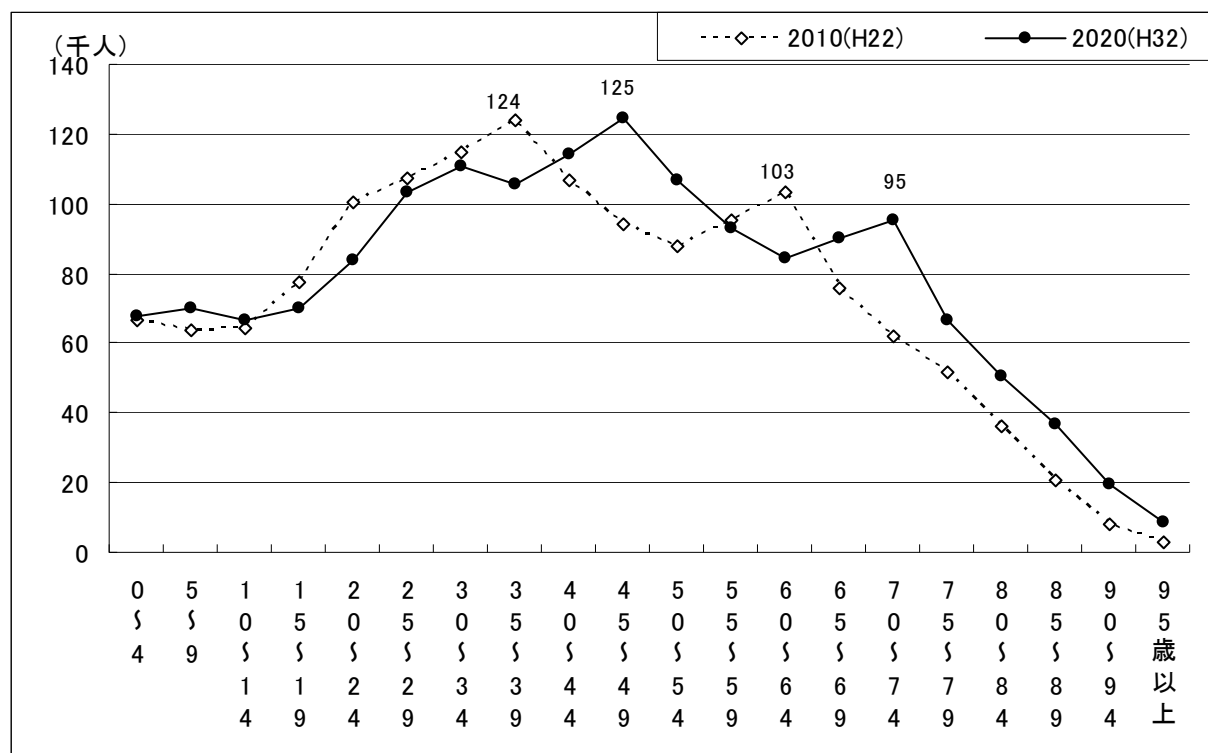
資料:実績…国勢調査

推計…(財)九州経済調査協会(2012年2月推計)

②高齢化・コミュニティ

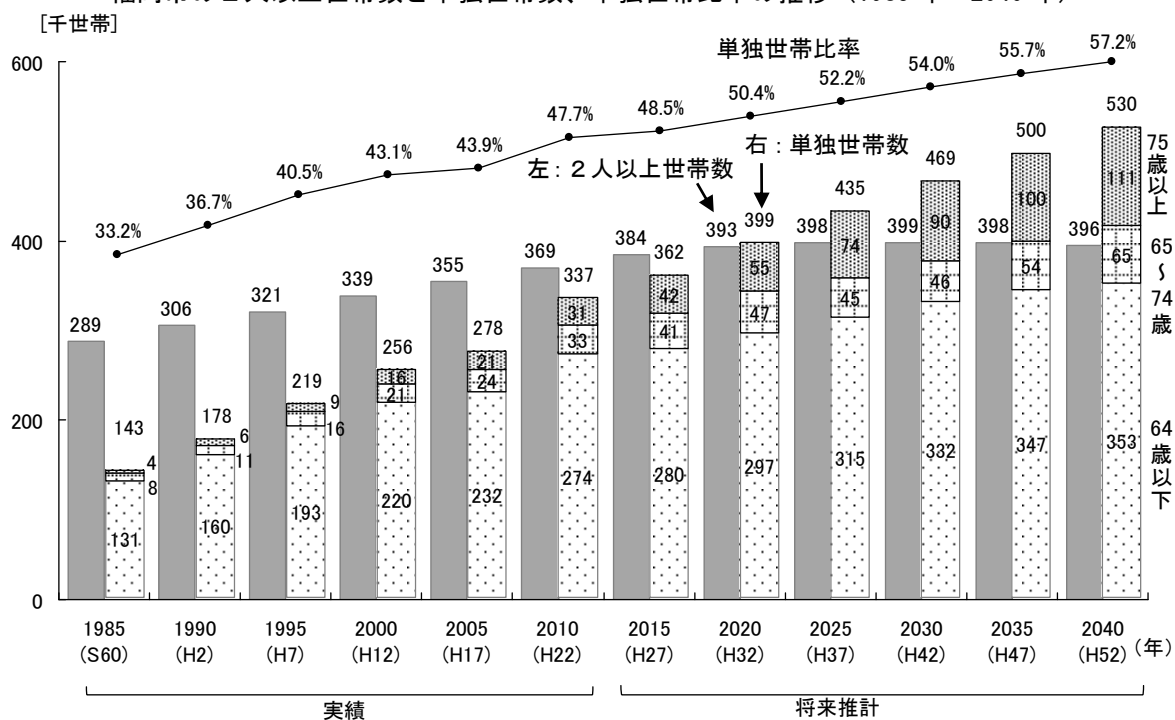
- 小学校区単位では、急速な高齢化や人口減少が課題となっている地域があり、全市でも今後は急速に高齢化が進みます。
- 福岡市の世帯数は一貫して増加が続き、2020年（平成32年）頃には、単独世帯数が2人以上世帯数を超えます。また、特に高齢者の単独世帯数の増加が顕著です。
- 世帯当たり平均人員は低下しており、単独世帯、中でも高齢単身世帯が増えるなど、暮らしやコミュニティのあり方が変わってきています。医療や介護など家族が果たしてきた機能の低下や、地域社会との関係の希薄化などの課題が生じています。
- 若者が多いまちといわれていましたが、近年では、若者が減少しています。

福岡市5歳階級別将来推計人口(2010年・2020年)



資料:実績…国勢調査、推計…福岡市総務企画局(2012年3月推計)

福岡市の２人以上世帯数と単独世帯数、単独世帯比率の推移（1985年～2040年）



資料：実績…国勢調査、推計…福岡市総務企画局（2012年3月推計）

※単独世帯には、年齢構成別内訳を付した

＜外部の状況＞

- ・中国をはじめ、アジアでも近い将来の高齢化の進展が見込まれ、人口構造の変化に対応した都市のあり方は、世界的に問われていきます。
- ・日本、九州では、すでに高齢社会が進展し、高齢社会における活力あるまちづくりは喫緊の課題となっています。

③環境・まちづくり

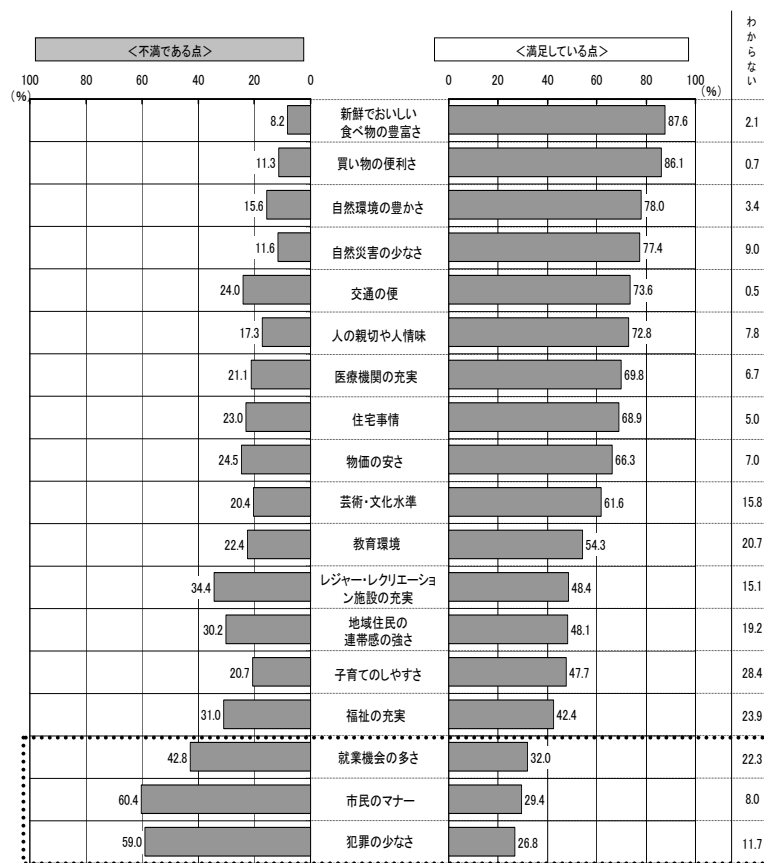
○恵まれた自然環境や豊かな食文化などに加え、公共交通ネットワークの充実、道路や地下鉄などの都市基盤や文化施設などの生活基盤の充実、都市機能の集積などにより、国内外から評価される住みやすい都市となっています。

○一方で、平成 23 年度の「市政に関する意識調査」によると、福岡市の都市環境について不満な点として、犯罪の多さ、市民のマナーの悪さ、就業機会の少なさが上位を占めています。

○九州新幹線鹿児島ルートの特快全線開通や地下鉄七隈線の整備、都市高速道路の環状化により、広域交通網の整備が進んでいます。

○人口が 2035 年（平成 47 年）頃にはピークを迎える見込みのため、これを踏まえた効率的な社会資本整備・更新を行う必要があります。

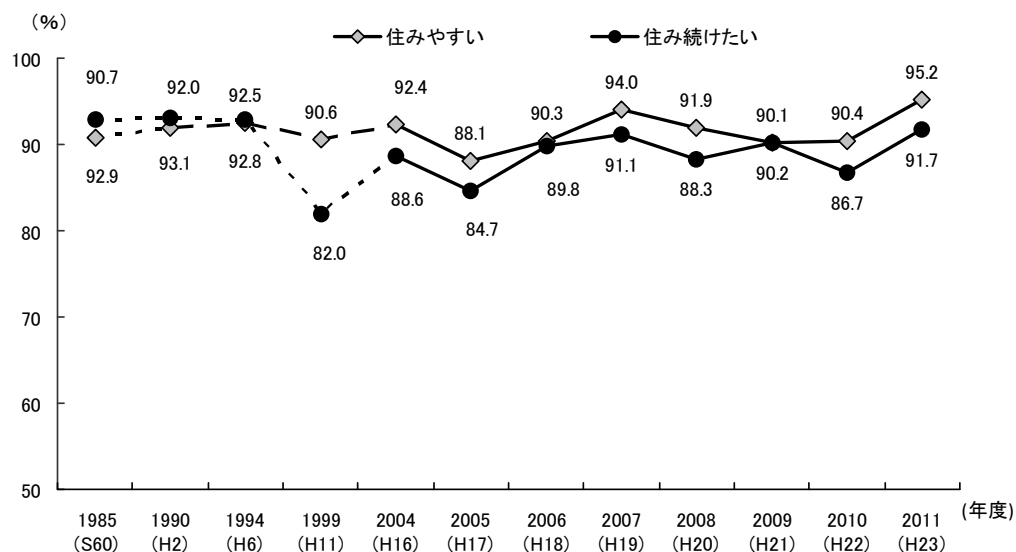
福岡市の都市環境に対する満足度



資料：福岡市「市政に関する意識調査」(平成 23 年度)

全体 (N=2,588)

福岡市住みやすさ評価・定住希望割合推移(1985年度～2010年度)
* 福岡市民アンケート調査



資料:福岡市「市政に関する意識調査」の該当設問のある年度から抽出

(n=2,588 ※2011年)

＜世界における福岡の住みやすさ評価＞
イギリスのグローバル情報誌 Monocle(モノクル)
「世界で最も住みやすい都市 25」ランキング

○福岡市の順位

2008年：17位

2009年：16位

2010年：14位

2011年：16位

2012年：12位

＜外部の状況＞

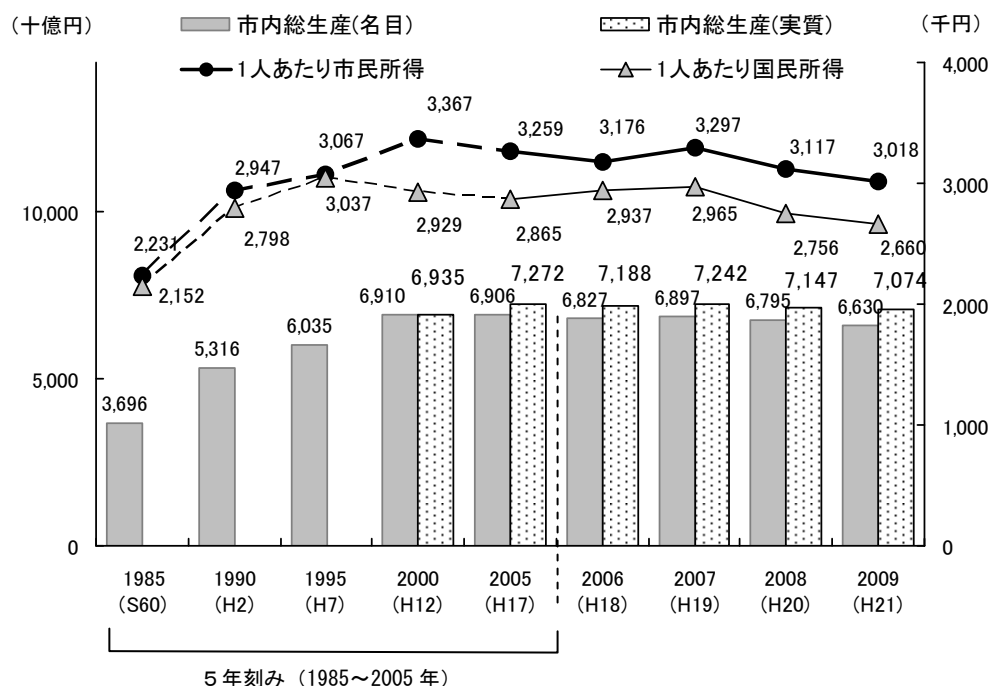
- ・世界人口の増加による消費の増大に伴い、化石燃料資源や食料等の需給逼迫化が見込まれ、我が国への影響が懸念されています。
- ・また、アジア諸国を中心とした人口増加や経済発展に伴う化石燃料資源の消費増大は、温室効果ガス放出量の増加など環境への影響も懸念されています。

④経済

○福岡市の市内総生産（実質）は、10年ほど前からほぼ横ばいとなっています。また、その多くは卸売業・小売業・サービス業によるものですが、情報化の進展により、卸売における中抜きや小売におけるインターネット販売の増加など、卸売業・小売業などにおける構造変化が急速に進んでいます。

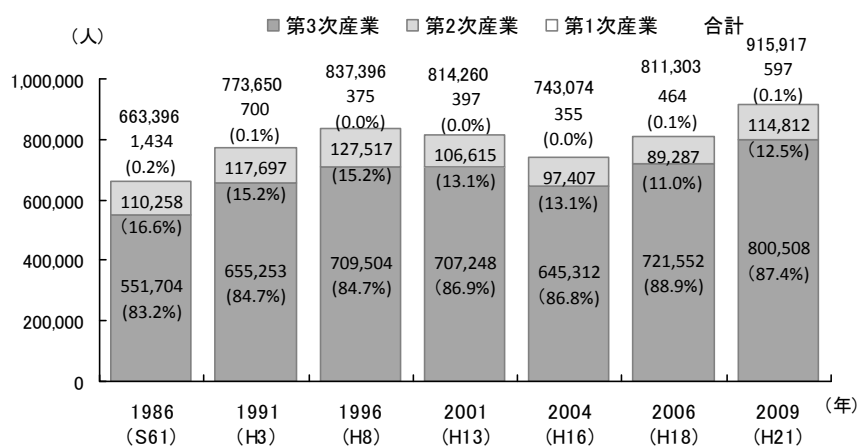
○一人あたり市民所得は、近年は一人あたり国民所得を上回っていますが、近年の日本の厳しい経済状況を反映しており、下落傾向となっています。

福岡市の市内総生産および市民所得推移



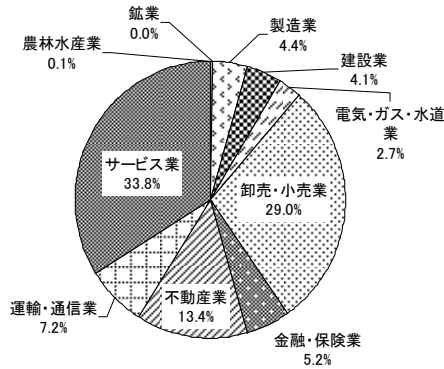
資料：福岡市総務企画局「福岡市民経済計算」 注：市内総生産（実質）は連鎖方式（平成12暦年連鎖方式）による
内閣府経済社会総合研究所「国民経済計算年報」

福岡市の従業者数推移

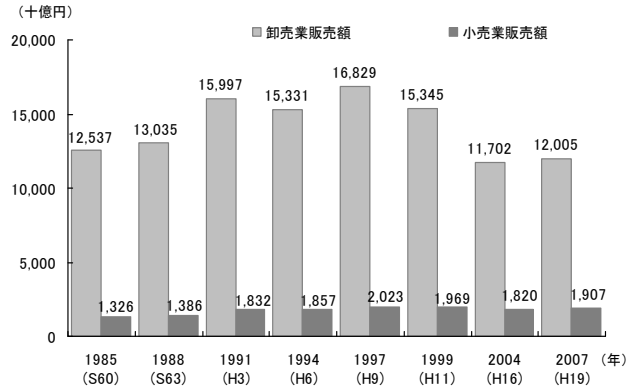


資料：事業所・企業統計調査、平成21年経済センサス基礎調査
（注）平成21年経済センサスより調査手法が変更されているため、2006年以前との比較は参考程度

福岡市の市内総生産（名目）
（産業大分類別構成比）
2009 年



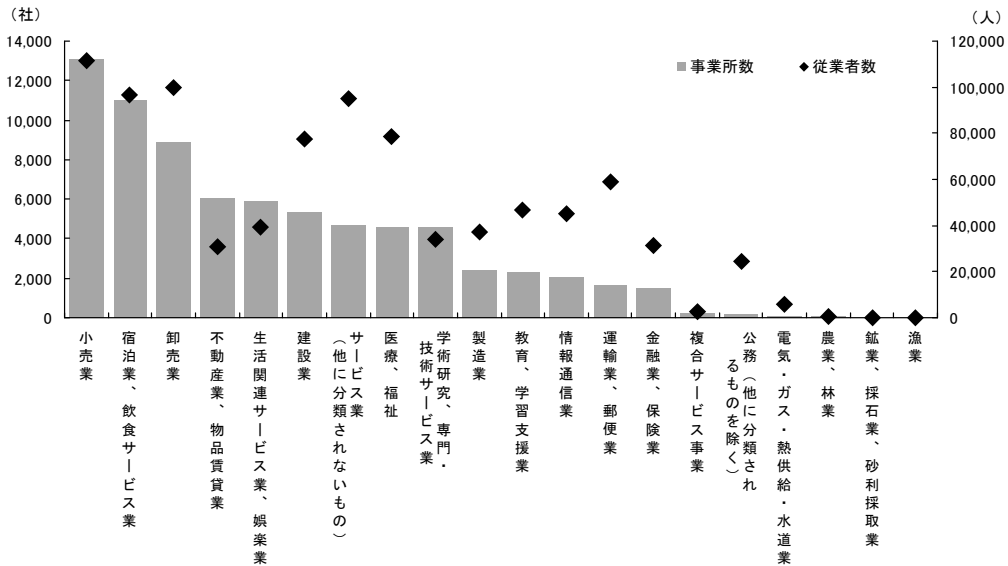
福岡市内の卸売業・小売業の年間販売額推



資料：福岡市総務企画局「福岡市民経済計算」

資料：経済産業省「商業統計調査」

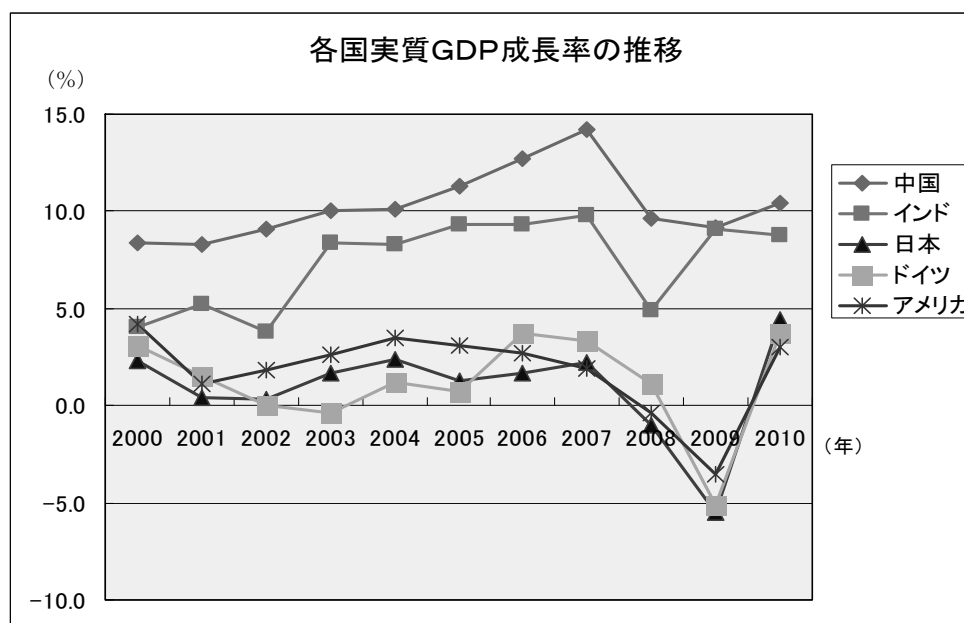
福岡市の産業別事業所数と従業者数（2009年）



資料：総務省総務局「平成21年経済センサス基礎調査」

<外部の状況>

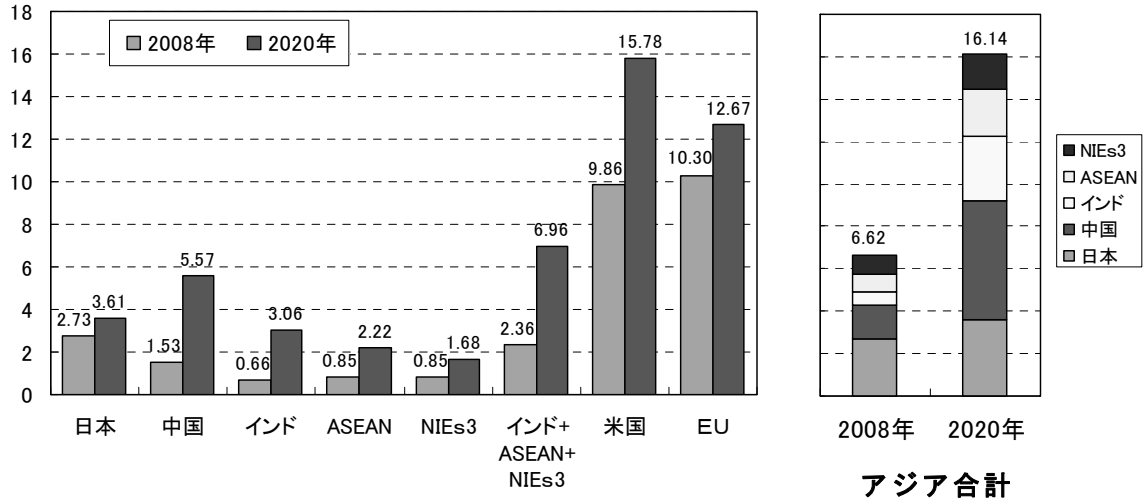
- ・ 20 世紀前半までの世界経済は欧米諸国中心の時代でしたが、20 世紀後半には日本が、そして 1990 年以降は韓国、台湾、シンガポールなどが飛躍する時代となり、21 世紀に入ってから、中国やインド、タイ、インドネシア、ベトナムなどが急速に躍進するなど、世界経済の中心はアジアにシフトしています。
- ・ 中国やインド等のアジアの個人消費額は、近年増加しており、更なる経済成長や耐久消費財の普及等に後押しされ、今後とも増加し続けると考えられています。2020 年には、アジア全体の個人消費額は欧州を抜き、アメリカに並ぶ見込みであり、アジア地域が「世界の消費市場」となることが見込まれています。
- ・ 日本においては、内閣府の試算によると、慎重シナリオベースで 2011～2020 年度の平均実質成長率が 1 % 強となっており、何も手を打たなければ国際社会における我が国の相対的地位の更なる低下が懸念されます。



資料：総務省統計局資料「UN,National Accounts Main Aggregates Database(2011 年 12 月ダウンロード)」より作成

アジア各国・地域の個人消費額の実績と予測

(兆ドル)



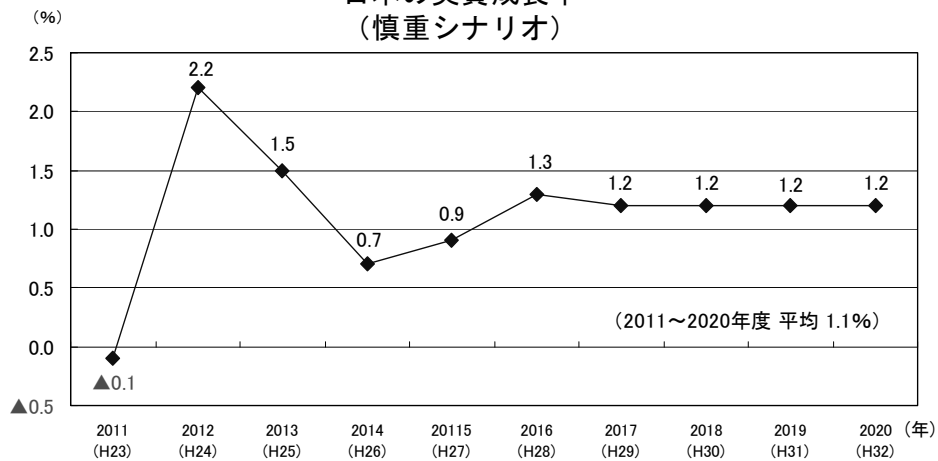
備考: 名目ベース、ドル換算。ASEANは、タイ、フィリピン、インドネシア、マレーシア、シンガポール、ブルネイ、ベトナム、ミャンマー、カンボジアの10カ国を指す。

NIEs3とは、韓国、台湾、香港のこと。

資料: Euromonitor International2010から作成。

出典: 「2010 年通商白書」(経済産業省)

日本の実質成長率 (慎重シナリオ)



資料: 内閣府「経済財政の中期試算」

（３）福岡市の広域的な役割

＜都市圏の母都市＞

福岡市は、1市のみで、福岡都市圏9市8町の人口の約6割、域内総生産はおよそ4分の3を占めている、都市圏の母都市です。多くの福岡都市圏住民の就業場所、通学場所となっているほか、こども病院や文化施設など、都市圏住民の生活のためのさまざまな機能を提供しています。

福岡都市圏は、同一の経済圏や生活圏として、これまで一体的に発展してきた圏域です。昭和 53 年に「福岡都市圏広域行政推進協議会」を設置し、道路交通基盤整備や水、医療、環境などの都市圏に共通する課題解決などに取り組んできました。今後もこれまで進めてきたハード整備などの生活インフラをより一層充実させながら、各地域の特色を生かしたソフト施策の充実や、九州、国内各都市やアジアとの交流・連携の取組みを進めていくこととしており、福岡市はその実現に向けた中核となっています。



＜九州の中核＞

福岡市は1市のみで、九州の人口の約11%、大学・短大学生数の約31%、域内総生産の約16%、事業所数の約12%、従業者数の約15%、卸売業の年間販売額の約45%、小売業の年間販売額の約14%を占めています。また、多くの官公庁の行政機関や全国企業の支社などが置かれ、大学などの高等教育機関や、報道機関なども立地しています。商業・業務等の高度な都市機能や陸・海・空の広域交通機能の集積もあり、行政、経済、文化、交通のいずれにおいても、九州の中核管理機能を有して発展しています。

九州地域の一体的な発展に貢献する中核としての役割を担いつつ、九州の背骨とも言える新幹線の駅所在市である、北九州市（福北連携）、熊本市、鹿児島市（３都市連携）などと連携を強化し、九州全体を牽引しています。

＜アジアとの充実したネットワーク＞

福岡市は、福岡空港から飛行機で釜山まで 50 分、上海まで 90 分で結ばれ、博多港から高速艇で釜山まで 3 時間を切る時間で結ばれる、日本で一番アジアに近い大都市です。

一方、福岡は高速道路や J R などの鉄道、新幹線、飛行機により九州の主要都市を始め全国各地と直接結ばれているほか、アジアからの日本各地への陸上、海上、航空輸送の中継地点としても重要なハブ機能を有しています。

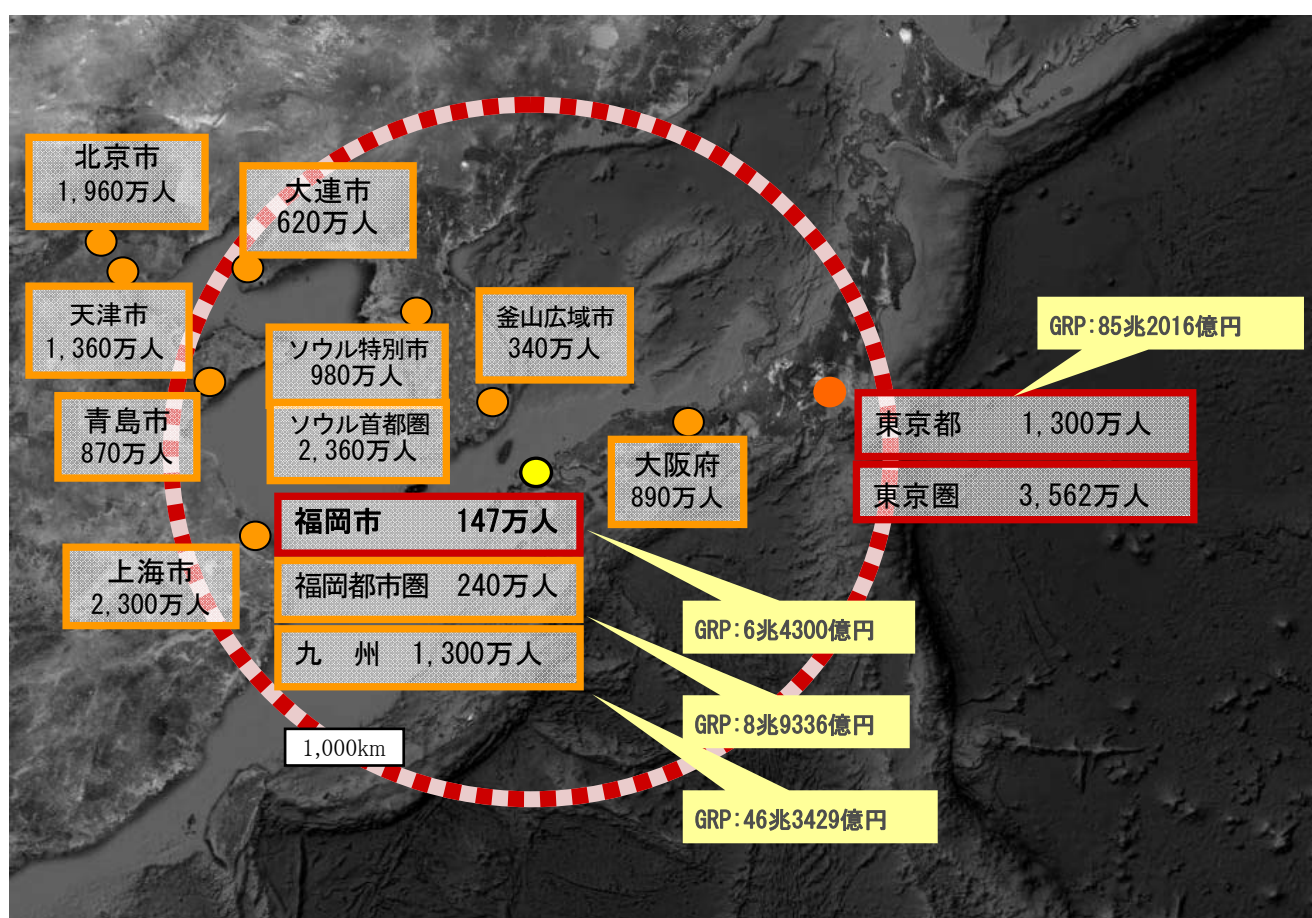
アジアの主要都市と航空路線の直行便で結ばれている福岡空港は、国内外の乗降客数及び貿易額がいずれも国内 4 位と、九州を始め西日本を支える重要な国際空港となっています。

また、博多港は、市民生活や産業・経済活動を支える重要な基盤であり、日本海側で唯一、北米航路や欧州航路といった基幹航路が就航しているほか、近年は中国、東南アジア諸国との航路開設が相次いでいるなど、充実した航路ネットワークを有しています。

取扱量では、輸出入コンテナ貨物が国内 6 位であるほか、国際乗降客数は 19 年連続日本一（2011 年現在）で、近年は外航クルーズ客船の寄港回数も増加しています。

さらに、「福岡アジア文化賞」や「アジア太平洋子ども会議・イン福岡」など、アジア施策のソフト事業も継続的に実施してきており、20 年を超える交流の積み重ねにより、アジアとのネットワークの充実が進んでいます。

《福岡市を中心とした 1,000km 圏内とその周辺都市》



（※GRP は平成 21 年度、東京圏は東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）

第2章 計画各論

1 分野別目標と施策

分野別目標では、「都市経営の基本戦略」のもと、「目標」ごとに「めざす姿」を示し、「現状と課題」を整理するとともに、めざす姿を実現するための取り組みである「施策」を示しています。

<構成>

1 めざす姿

「目標」を具体的にわかりやすく示したもので、計画の目標年次である2022年に実現していることをめざす都市の姿です。

定性的な文章を補完する定量的な数値として、「めざす姿をあらわす指標」を掲げています。

2 現状と課題

福岡市における現状と、「めざす姿」を実現するにあたっての課題を整理しています。

3 施策及び成果指標

課題を解決し、めざす姿を実現するために、市が取り組む「施策」を示し、その「施策」により実現をめざす水準を示すもの、および達成状況を把握していくための指標として「成果指標」を掲げています。

1 分野別目標と施策

○目標1：一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている

1 めざす姿

- ユニバーサルデザインの理念によるまちづくりが進み、誰もが思いやりを持ち、すべての人にやさしいまちになっています。一人ひとりが互いに人権を尊重し、国籍や年齢、性の違い、障がいの有無などに関わらず、共に参画し、多様性を認め合いそれぞれの舞台でいきいきと輝いています。
- 多くの市民が、元気に歳を重ねながら知識や経験を生かし、社会の担い手、支え手として意欲的に社会参加し、活躍しています。
- 多くの市民が心豊かに文化芸術を楽しんでおり、また、生涯にわたりスポーツやレクリエーションに親しむなど、充実した生活を送っています。
- 支援を必要とする人々が適切な福祉サービスを受け、誰もが安心し快適に、笑顔で暮らしています。
- 多様な保育サービスが充実したゆとりある子育て環境の中、安心して子どもを生み、育てています。
- 子どもたちが、自ら学ぶ意欲と志を持ち、将来に夢や希望、目標を抱きながら、いろいろな世代の人とのふれあいや、さまざまな経験、学習を通じ、心豊かにたくましく成長しています。

めざす姿をあらわす指標

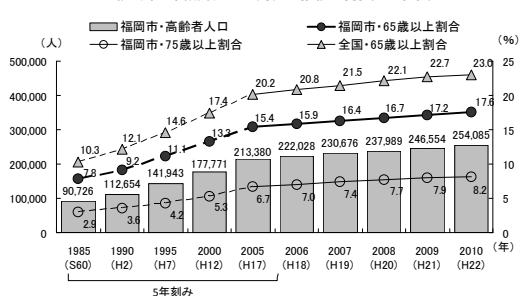
健康で普通に生活している（※）60歳以上の市民の割合 2010年度 44.0%

※ 健康状態について、「健康で普通に生活している」「何らかの病気等はあるが、日常生活は自立、外出も一人でも可」「家中では自立、外出要介助」「日中もベッドの上が主体」「1日中ベッドの上」の中から回答。

2 現状と課題

- ① 福岡市には多様な人々が生活しています。「どこでも、誰でも、自由に、使いやすく」というユニバーサルデザインの理念に基づき、ハード、ソフトの両面からのまちづくりに取り組み、誰もが思いやりを持ち、すべての人にやさしいまちを実現する必要があります。
- ② 人権尊重意識が暮らしの隅々に十分に浸透していません。お互いの個性や違いを理解し合い、すべての人が支えあうまちを実現する必要があります。また、性別による固定的な役割分担意識を解消し、さまざまな意思決定過程への女性の参画を進めるとともに、男女が共に家庭や仕事、地域活動に参画していく環境づくりが求められています。
- ③ いつまでも健康でいきいきと暮らしていくために、生活習慣病予防をはじめ、健康づくり・予防対策が不可欠です。また、高齢化が進む一方、歳を重ねても健康で、社会参加に意欲的な高齢者も増えています。高齢者が自分の持つ力を生かし、活躍できる社会づくりが必要となっています。
- ④ 文化芸術は、暮らしや人生の豊かさを高め、人々の創造性を育む重要な要素であるとともに、都市的な楽しみとしての集客の要素でもあります。このため、より多くの人が文化芸術を楽しみ、参加しやすい環境をつくることが重要です。
- ⑤ スポーツ・レクリエーションは、子どもから高齢者、障がいのある人など、誰もが楽しむことができ、心身の健康や体力維持に寄与するほか、生きがいや自己実現の場としての期待も高く、気軽に親しめる場や環境の充実が求められています。

福岡市の高齢者人口・割合の推移（1985年～2010年）

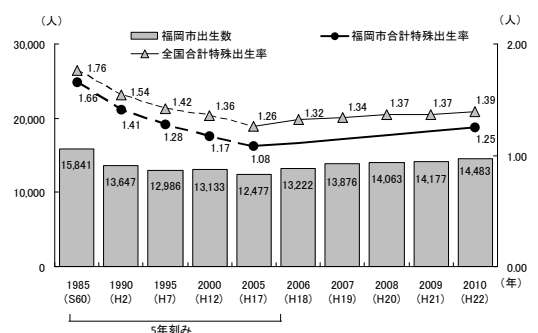


資料：国勢調査

(注) 2006年～2009年は、推計人口（各年10月1日現在）

(注) 構成の算出に当たっては総数から年齢不詳を除いている

福岡市の出生数・合計特殊出生率推移（1985年～2010年）



資料：厚生労働省「人口動態統計」、福岡市子ども未来局

(注) 合計特殊出生率：一人の女性が、その年の年齢別出生率で一生の間に産むとしたときの子どもの数（政令指定都市は5年おきの調査）

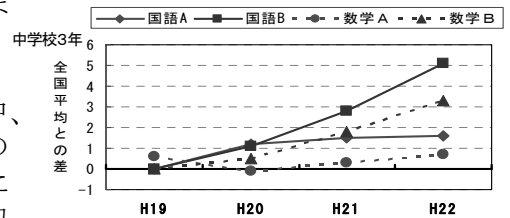
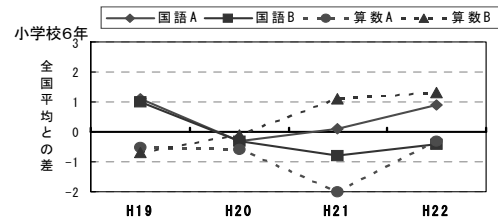
⑥ 社会情勢の変化や高齢化の進展に伴い、支援や介護を必要とする市民は今後ますます増加することが予測されます。また、障がい者数が増えているほか、ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯も増加しており、さまざまなニーズに応じた福祉サービスの充実が必要です。

⑦ 出生数は将来的に減少傾向となることが見込まれています。子育てに負担感や不安感を抱く親が増えているほか、働き方の変化などに伴い保育ニーズが多様化しています。安心して働き、子どもを生み、育てられるよう、子育て環境の充実やワークライフバランスの推進を図る必要があります。

⑧ 子どもを取り巻く環境が変化し、教育課題が多様化する中、子どもの学力・体力の向上や、人との交流、体験の機会の確保が課題となっています。将来の福岡市を担う子どもたちが、自ら学ぶ意欲と志をもち、心豊かにたくましく生きる力を身につけることができるよう、教育環境を整備するとともに、家庭や学校、地域をはじめ、社会全体で育んでいくことが必要です。

⑨ ニートやひきこもりなど、社会生活を営む上で困難を抱える若者への支援が課題となっています。一人ひとりが将来に夢や希望、目標をもって輝けるよう、社会参加の支援などにより、自立心や社会性の醸成と健全な育成を図ることが重要です。

全国学力・学習状況調査結果の全国平均正答率との差
(単位：ポイント)

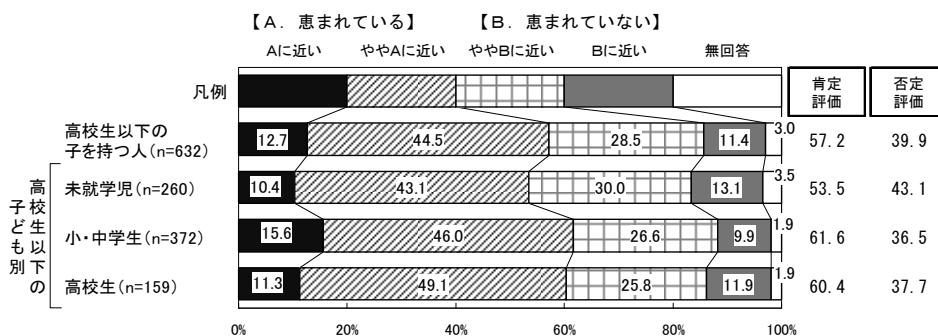


A…主に「知識」に関する問題 B…主に「活用」に関する問題

資料：福岡市教育委員会

地域の小中学生が、さまざまな遊びや体験学習をする場や機会についての評価

(高校生以下の同居家族別)



総務企画局「福岡市新・基本計画の成果指標に関する意識調査 (平成 23 年度)」

3 施策及び成果指標

施策 1-1 ユニバーサルデザインの理念によるまちづくり

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
ユニバーサルデザインの概念の理解度	44.9% (2011 年度)	70%
ユニバーサルデザインの取組みが進んでいると思う市民の割合	30.5% (2011 年度)	65%

施策 1-2 すべての人の人権が尊重されるまちづくりと男女共同参画の推進

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
一人ひとりの人権が尊重されていると感じる市民の割合	68.0% (2011 年度)	75%
「男は仕事、女は家庭」という考え方を持たない市民の割合	男性 59.9% 女性 64.0% (2008 年度)	男性 75%、女性 80%

施策 1-3 一人ひとりが健康で、生涯元気に活躍できる社会づくり

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
毎日の健康づくりの実践度	65.4% (2011 年度)	75%

施策 1-4 心豊かで楽しい文化芸術の振興

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
過去 1 年間に 1 回以上文化芸術の鑑賞をした市民の割合	68.4% (2011 年)	80%
過去 1 年間に 1 回以上文化芸術活動を行った市民の割合	15.9% (2011 年)	25%

施策 1-5 スポーツ・レクリエーションの振興

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
身近なスポーツ環境への満足度	47.4% (2011 年度)	70%
スポーツを「する」活動を週 1 回以上継続的に実施している市民の割合	49% (2007 年)	60% (2019 年)

施策１－６ すべての人が安心して暮らせる福祉の充実

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
介護保険在宅サービスを受けている人の（介護保険制度に関する）満足度	53.9% (2010 年度)	60%
福岡市は障がいのある人が暮らしやすいまちだと感じる市民の割合	新規	

施策１－７ 安心して子どもを生み育てられる環境づくり

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
子育て環境満足度	64.7% (2011 年度)	75%
保育所入所待機児童数	893 人 (2012 年 4 月 1 日現在)	0 人

施策１－８ 自ら考え、学び、行動する子ども・若者の育成

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
児童生徒の授業内容に関する理解度	71.9% (2011 年度)	75%
地域の小中学生は、さまざまな遊びや体験学習をする場や機会に恵まれていると感じる市民の割合	57.2% (2011 年度)	65%

○目標2：さまざまな支え合いとつながりができている

1 めざす姿

- 市民が身近な地域の課題やまちづくりに関心を持ち、主体的に考え、地域コミュニティが活発に活動しています。
- 公民館などが地域コミュニティの拠点として活用され、多く市民が集い、さまざまな活動を行っています。
- 地域で人と人とのつながりが生まれ、さまざまな人々が、共に支え合いながら元気に安心して暮らしています。
- 地域コミュニティ、NPO、ボランティア、企業、行政などさまざまな主体が、それぞれの知恵やノウハウを持ち寄って共働り、個人や地域、社会の課題を解決するとともに、それぞれの長所や資源を生かした相乗効果が生まれています。

めざす姿をあらわす指標

地域住民の連帯感の強さに対する満足度 2011年度 48.1%

2 現状と課題

- ① 自治協議会の設立から一定期間が経過し、校区での主体的な取組みが見られるようになった一方で、住民の自治意識やコミュニティへの帰属意識の希薄化、地域での活動の担い手の不足・固定化、自治会・町内会加入率の低下などが問題となっています。

そのため、自治協議会や自治会・町内会などのコミュニティの基盤強化や活性化、住民の自治意識の醸成を図ることが求められています。

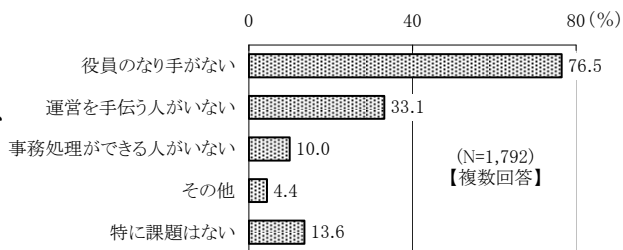
- ② 公民館などの施設は、世代間交流や、子育て支援、高齢者の活動をはじめ、地域でのさまざまな活動や交流の拠点として重要な役割を果たしており、地域コミュニティ活動の支援の充実や、必要な整備が求められています。

- ③ ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯が増加しているほか、地域や社会から孤立しがちとなっている子育て世代も増えています。住み慣れた地域で安心して暮らすために、地域コミュニティでの多様な主体による支え合いや助け合い活動が不可欠です。

- ④ 地域の課題は多様化しており、行政だけでは解決が困難になっています。柔軟かつ迅速に地域課題に対応するNPOやボランティアの役割が大きくなっています。また、ソーシャルメディアなどを媒体とした新たなコミュニティの活動が、今後、支え合いやつながりをつくり維持する役割を担うことを期待されています。

- ⑤ 価値観が変化し多様化する中、市民、企業の自主的・自発的な公益活動や社会貢献活動が広がっています。また、市民や企業が主体となった、ビジネスの手法を活用した社会課題の解決が重要となっています。そのことは、市民がより多様なサービスを受けられる一方で、新たな起業や雇用の創出を通じた地域の活性化にも寄与するものとして期待されます。

平成22年度自治会等アンケート（福岡市市民局）



福岡市の活動分野別NPO法人数(2012年)
※複数分野登録

1	保健・医療・福祉	372
2	社会教育	310
3	市民活動支援	290
4	まちづくり	265
5	子ども	264
6	職業能力・雇用	206
7	学術・文化・芸術・スポーツ	205
8	環境保全	173
9	国際協力	168
10	経済活動の活性化	136
11	人権擁護・平和推進	97
12	情報化社会	83
13	地域安全	63
14	消費者保護	55
15	男女共同参画	47
16	科学技術	35
17	災害救援	28
18	観光	4
19	農山漁村・中山間	3
20	条例で定める活動	0

資料：福岡市内に事務所を置くNPO法人数769法人（福岡県所管を含む）
2012年5月31日現在・福岡市市民局

3 施策及び成果指標

施策２－１ 支え合いの基盤となる地域コミュニティの活性化

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
地域活動に参加したことがある市民の割合	56.2% (2010 年度)	70%

施策２－２ 公民館などを活用した活動の場づくり

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
公民館を利用した市民の割合	26.8% (2011 年度)	50%

施策２－３ 支え合いや助け合いによる地域福祉の推進

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
ふれあいサロンの箇所数	292 箇所 (2011 年度)	370 箇所
地域での支え合いにより、子育て家庭や高齢者が暮らしやすいまちだと感じる市民の割合	新規	

施策２－４ NPO、ボランティア活動の活性化

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
NPO・ボランティアセンター年間利用者数	34,506 人 (2011 年度)	40,000 人
NPO等と市との共働の取組件数	150 件 (2011 年度)	200 件

施策２－５ ソーシャルビジネスなど多様な手法やつながりによる社会課題解決の推進

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
コミュニティビジネス起業者数	30 人 (2011 年度)	70 人

○目標3：安全・安心で良好な生活環境が確保されている

1 めざす姿

- 災害に強い都市基盤が整備され、消防・救急医療体制が充実しています。また、地域において自主防災組織を中心として共助の仕組みが作られ、災害への即応体制が強化されています。
- 地域の自主的な防犯活動が盛んに行われ、安全で安心して暮らせるまちに誰もが誇りをもっています。
- 水・交通・住環境などの都市基盤整備は、環境負荷の小ささ、災害への強さ、ユニバーサルデザインなどを踏まえて進められています。
- 安全・安心な暮らしのために必要な情報発信や啓発により、市民の認識が高まり、多くの市民がモラルやマナーを大切にしています。子どもたちは社会のルールを守る事の大切さを学び、思いやりの心や規範意識が育まれています。また、良好な生活衛生や豊かな消費生活が実現しています。

めざす姿をあらわす指標

犯罪の少なさに対する満足度 2011年度 26.8%

2 現状と課題

- ① 複雑化、多様化、広域化する災害に備え、防災意識や危機管理対応能力の向上を図るとともに、公共施設等の耐震化や、住民避難、緊急支援物資の輸送等に必要な幹線道路の整備など、防災・危機管理の体制を整える必要があります。また、来街者に対しても適切な災害情報を提供する必要があります。

また、高齢化が進む中で、災害発生時の「共助」がより重要なことから、自主防災活動への参加を促進するなど、地域の防災力強化を図ることが必要です。

- ② 安全・安心のまちづくりのため、通学路の歩車分離や歩道のフラット化などの道路整備や、浸水被害防止に向けた、河川改修や下水道整備を進める必要があります。

また、橋梁や下水道施設の耐震化など災害に強い都市基盤整備を進める必要があります。

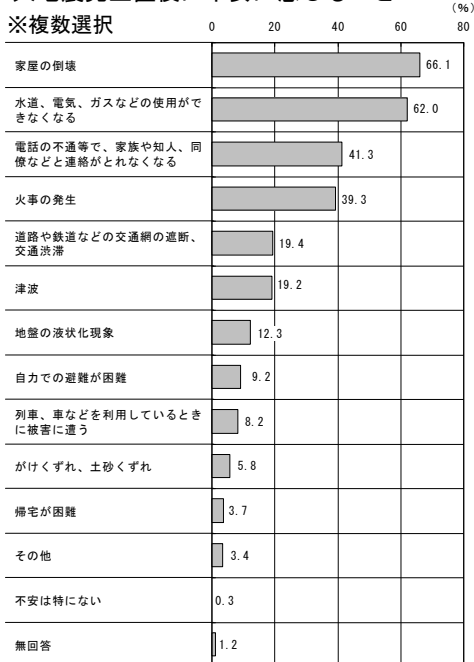
- ③ 耐震性・耐久性などの基本的性能を備えた良質な住宅ストックの形成と、安全性・快適性などが確保された良好な住環境の形成を図る必要があります。

また、高齢者・障がい者など、近年多様化している住宅困窮者の居住の安定を確保するため、住宅セーフティネットの構築を進めることが求められています。

- ④ 天神、博多駅周辺等の歩行喫煙率や自転車放置率は減少傾向にありますが、引き続き指導や啓発が必要です。また、無許可の屋外公告物や、路上違反公告物の存在も課題となっています。

また、交通事故発生件数が多いほか、飲酒運転事故も未だ後を絶たず、自転車の危険運転による対歩行者事故も増加しています。

大地震発生直後に不安に感じること

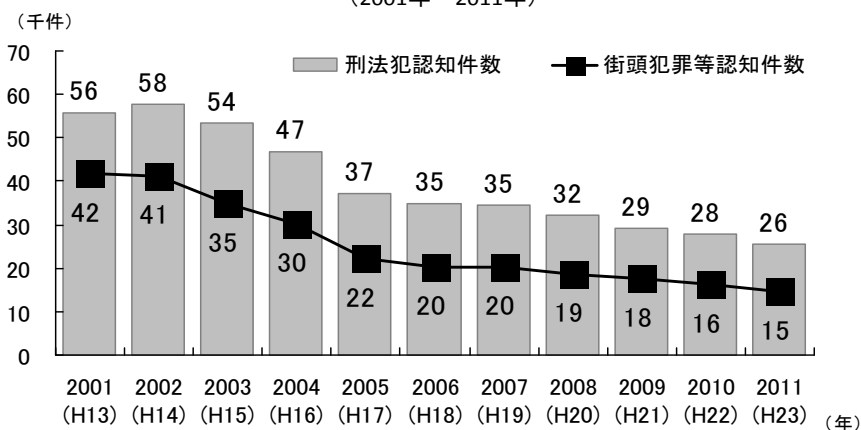


全体 (N=2,588)

資料：平成23年度市政に関する意識調査

- ⑤ 福岡市の刑法犯認知件数は減少傾向にあります。性犯罪、ひったくり、自転車盗などは依然として厳しい状況にあります。地域の防犯力を高めるために、まちの美化をはじめ、地域社会全体で防犯活動等に取り組むことが重要です。
- ⑥ 近年、不安定な降雨状況により、安定的な取水が課題となっています。老朽化した浄水場や配水管など、水道施設を計画的かつ効率的に更新改良し、その機能を長期的に維持していく必要があります。また、市民からは安全でおいしい水の提供が求められており、更なる水質向上に向けた取り組みが必要です。
- ⑦ 消費生活の複雑化により、消費者被害が多発しており、消費者啓発と事業者への指導強化が必要です。また、飲食等に起因する健康被害も発生しており、暮らしの衛生確保が求められています。

福岡市の刑法犯認知件数と街頭犯罪等認知件数推移
(2001年～2011年)



資料：福岡県警察本部

(注) 刑法犯認知件数・・・凶悪犯(殺人、強盗、放火、強姦)、粗暴犯(暴行、脅迫、恐喝等)、窃盗犯(空き巣、自転車盗、車上ねらい等)、知能犯(詐欺、横領、通貨偽造等)、風俗犯(賭博、強制わいせつ、公然わいせつ等)、その他(占有離脱物横領、器物破損等)の合計

(注) 街頭犯罪等認知件数・・・刑法犯の中の「車上ねらい」、「自転車盗」、「オートバイ盗」、「自動販売機ねらい」、「部品ねらい」、「強制わいせつ等」、「強盗」、「空き巣」、「居空き」、「忍び込み」、「自動車盗」、「ひったくり」などの街頭等で発生する犯罪の合計

3 施策及び成果指標

施策３－１ 災害に強いまちづくり

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
住んでいる地域の防災対策が充実していると感じる市民の割合	新規	
自主防災活動に参加している市民の割合	5.5% (2011 年度)	25%
災害時要援護者情報が活用されている地域の割合	65.1% (2011 年度)	100%

施策３－２ 安全で快適な生活基盤の整備

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
通学路における安全な歩行空間の確保（歩車分離率）	55.0% (2011 年度)	70%
下水道による浸水対策の達成率 ※	64.2% (2011 年度)	90.7%

※福岡市雨水整備緊急計画に基づき浸水対策が必要な地区のうち、整備が完了した地区の面積割合

施策３－３ 良質な住宅・住環境の形成

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
住んでいる住宅に満足している世帯の割合	68% (2008 年度)	75%
高齢者人口に対する高齢者向けの住まいの割合	3.2% (2011 年度)	4 %

施策３－４ ルールが守られ、人に優しい安全なまちづくり

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
普段からモラルやマナーを大切にして行動している市民の割合	新規	
交通事故発生件数	12,700 件 (2011 年)	9,000 件 (2022 年)

施策３－５ 犯罪のない安全で住みよいまちづくり

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
住んでいる地域が犯罪の少ない安全なまちだと感じる市民の割合	新規	
刑法犯認知件数	27,974 件 (2010 年)	15,000 件 (2022 年)

施策３－６ 安全で良質な水の安定供給

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
防食管 ※1 延長比率	70.3% (2011 年度)	81%
残留塩素濃度目標達成率 ※2	74.5% (2011 年度)	85%

※1 ポリエチレンスリーブを装着する腐食防止処理がなされている水道管

※2 水道水のカルキ臭の原因となる残留塩素が、おいしい水の目安である一定の基準を満たした箇所の割合。

施策３－７ 日常生活の安全・安心の確保

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
消費者被害に遭わないよう、日頃から注意を心がけている市民の割合	新規	
食の安全認識度 「安心」「どちらかといえば安心」を感じる市民の割合	55.6% (2011 年度)	50%以上

○目標 4：人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている

1 めざす姿

- 再生可能エネルギーの導入や省エネルギーの推進、公共交通機関の利用促進などにより、「創エネ・省エネ・蓄エネ」型のまちづくりが進むとともに、ごみの排出抑制やリサイクルなどが進んだ循環型社会になっています。
- 生物多様性がもたらす恵みの持続可能な利用とその保全が行われるとともに、水と緑豊かな都市環境が形成されています。
- 魅力ある都心や質が高く快適に暮らせる住環境と自然が近接し、美しい街並みや地域の特性に応じた魅力ある景観が形成されています。また、交通ネットワークが充実しており、コンパクトに暮らせる低炭素型のまちづくりが進んでいます。
- 都市の既存ストックが上手に長く活用され、魅力的な都市環境が形成されています。

めざす姿をあらわす指標

自然環境の豊かさに対する満足度 2011年度 78.0%

2 現状と課題

- ① 福岡市では、家庭及び業務部門からの温室効果ガス排出量は近年まで高水準で推移しています。排出量削減に向けた省エネルギー化や電気自動車の普及等を一層推進することが不可欠です。

また、エネルギー消費量や電力消費量は増加傾向にあり、再生可能エネルギーの導入やエネルギーの効率的な利用が課題となっています。

- ② 地下鉄七隈線延伸事業や幹線道路の整備などが進む一方、自転車の利用環境の向上や、依然として都心部などで生じている交通渋滞への対応が必要です。

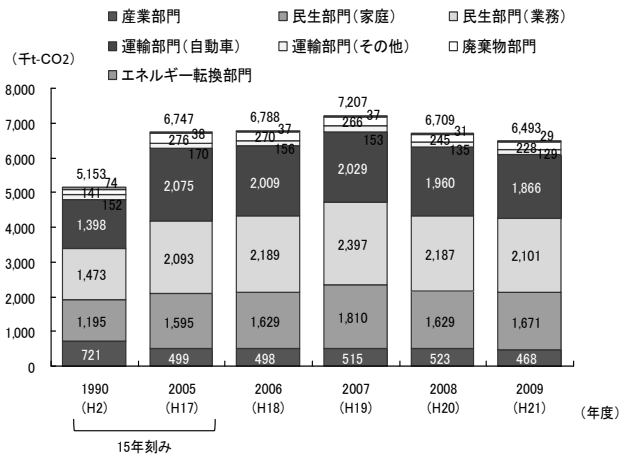
また、環境負荷の少ない公共交通機関への利用転換が重要ですが、近年、公共交通の利用者数は伸び悩んでいます。さらに、郊外部を中心として、必要な生活交通の確保が課題となっています。

- ③ 平成17年度の家庭ごみの有料化などを契機に、ごみ処理量は着実に減少していますが、更なるごみ減量やリサイクル推進に向けた啓発が必要です。

- ④ 都市の個性や魅力は、その多くが生物多様性から受ける恵みによって支えられており、その持続可能な利用と保全に向けた取り組みが必要です。

また、身近な緑に対する市民の満足度は、十分とは言えない状況が続いています。

福岡市の部門別二酸化炭素総排出量推移
(1990年度・2005年度～2009年度)

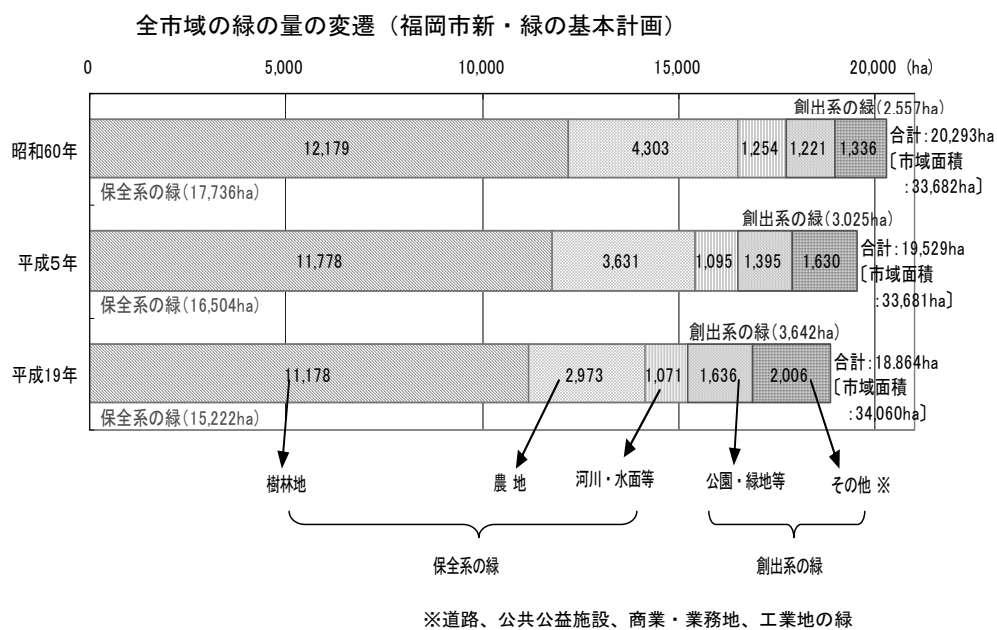


資料：福岡市環境局

- ⑤ 福岡市はこれまで、市街地の拡大を極力抑える中、計画的な市街地整備に取り組んできたことから、コンパクトな都市として評価を得ています。一方で、量から質の時代へ変化する中、自然や歴史、文化と都市機能が調和した、福岡らしい質の高い都市景観の形成も課題となっています。

また、日常生活圏域では、高齢化の進行や市民意識の変化などにより、利便性が高く良好な居住環境の形成が求められており、市街化調整区域では、人口減少などにより、コミュニティの維持が次第に困難な状況になっています。

- ⑥ これまで整備されてきた公共空間や民有空間については、持続的な維持管理や利活用の工夫など、既にある都市の財産を最大限に活かしながら、良好な都市環境の維持やさらなる魅力の向上が求められています。



3 施策及び成果指標

施策４－１ 自律分散型エネルギー社会の構築

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
1 世帯あたりの電力消費量	5,304KWh (2009 年度)	3,300 KWh
再生可能エネルギーの設備導入量	26,600KW (2011 年度)	100,000KW (2020 年度)

施策４－２ 公共交通を主軸とした総合交通体系の構築

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
1 日あたりの鉄道・バス乗車人員	108.5 万人 (2010 年度)	117 万人
福岡市は鉄道やバスなどの公共交通が便利だと感じる市民の割合	新規	

施策４－３ 循環型社会システムの構築

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
ごみ処理量	56.4 万トン (2010 年度)	50 万トン
リサイクル率	29.9% (2010 年度)	34% (2020 年度)

施策４－４ 生物多様性の保全とみどりの創出

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
生物多様性を理解し、その保全を意識して行動している市民の割合	新規	
身近な緑への満足度 (身近な地域において緑が豊かになっていると感じる市民の割合)	35.3% (2011 年度)	55% (2020 年度)

施策４－５ まちと自然が調和した福岡型のコンパクトな都市づくり

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
住んでいる地域が生活しやすく住みよい地域だと感じる市民の割合	新規	

施策４－６ 地域や場所のマネジメントによる都市の価値の向上

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成34）年度
都心部は賑わいがあり、訪れたくなる魅力 があると感じている市民の割合	新規	

○目標5：磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている

1 めざす姿

○海をはじめとする自然、歴史、文化、食、スポーツ、商業施設などの多彩な資源が磨きあげられ、回遊性の高さやおもてなし等の観光のしやすさなどにより、アジアの交流拠点として、世界中から人々が集まっています。

○都心に近い大濠公園、舞鶴公園一帯が、市民の憩いの場としての機能と歴史、文化、観光の発信拠点としての機能を兼ね備えており、都市の顔として、その魅力の向上に重要な役割を果たしています。

○MICE（※）の拠点都市や国際スポーツ大会の開催都市として国際的に認知されています。

○福岡都市圏や九州各都市と連携した戦略的なプロモーションにより、九州全体の集客力が高まっています。

めざす姿をあらわす指標

入込観光客数

2010年度

1,642万人

2 現状と課題

① 博多港は平成22年には外航クルーズ船寄港回数が日本一となるなど、国内のクルーズ拠点港として存在感を高めており、また、中国や韓国などからの来街者が大幅に増大していますが、今後、観光産業における都市間競争は、さらに激しさを増すと見られており、成長著しいアジア地域を中心とした諸外国からいかに観光客を取り込んでいくかが重要な課題となっています。

② 九州新幹線鹿児島ルートの特快全線開通などにより、九州における集客力はさらに高まっています。また、特に天神・博多の二大商業地域には、九州だけでなくアジアからも、多くの人が観光や買い物などに訪れています。

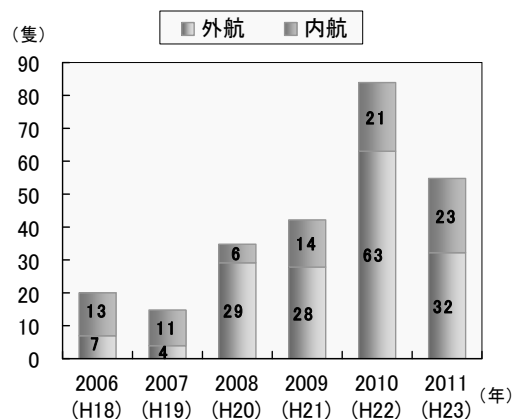
しかし、今後の都市間競争を勝ち抜いていくためには、豊かな自然や歴史的遺産などの観光資源をさらに磨き上げ、九州各都市や民間事業者と一体となったプロモーション活動、回遊性の向上などによる観光しやすい環境づくりなどを、戦略的に推進していくことが必要です。

③ 都心に近い貴重な緑地空間として広く市民に親しまれている大濠公園・舞鶴公園の一体的な活用を図り、市民の憩いと集客の拠点づくりを進めていく必要があります。特に舞鶴公園については、「鴻臚館跡」「福岡城跡」の二つの史跡を主要な観光・集客資源として活用する必要があります。

④ MICE誘致の推進は、世界の都市との競争が激しさを増しており、経済波及効果や集客効果の高いコンベンションや展示会、見本市、インセンティブツアーなどの開催件数をいかに増やしていくかが課題となっています。

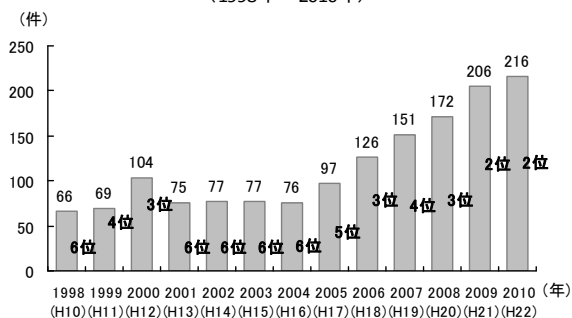
※MICE（マイス）とは、企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字のこと。多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。

◆博多港のクルーズ客船入港隻数の推移



資料：福岡市港湾局

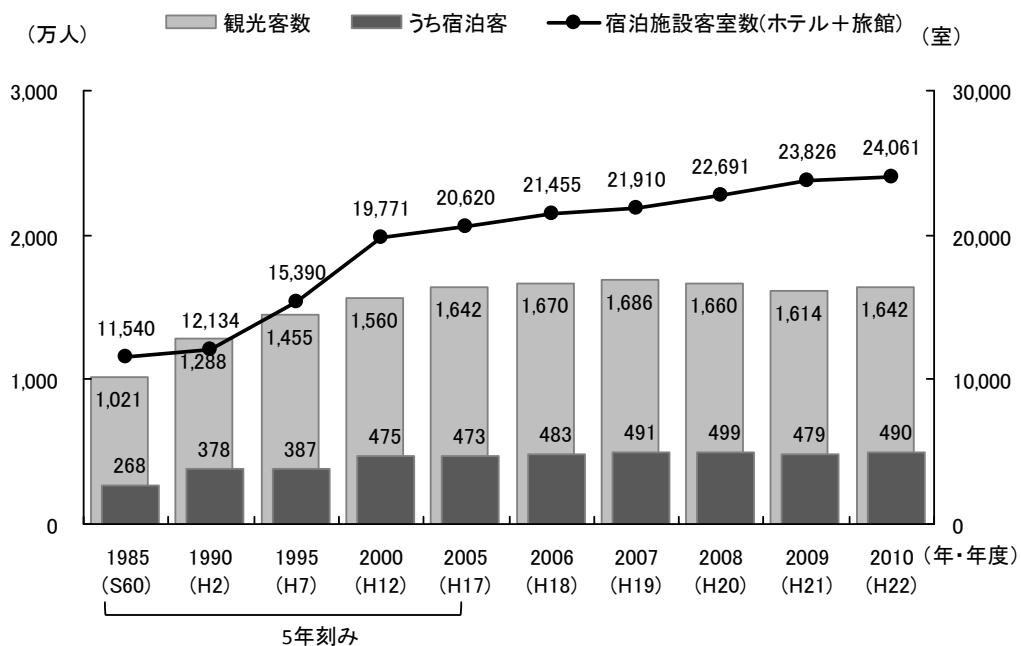
福岡市の国際会議開催件数推移と国内都市における順位 (1998年～2010年)



資料：日本政府観光局「国際会議統計」
(注)統計新基準による1998年以降の値

- ⑤ 福岡は「福岡国際マラソン」をはじめとした国際スポーツ大会や大相撲九州場所が毎年開催されるとともに、野球、サッカー、バスケットボールなどのプロスポーツチームも有しています。人々に夢と感動を与え、まちに対する誇りと活力をもたらすスポーツの魅力を、都市の魅力としてさらに活用し、推進していく必要があります。

福岡市の入込観光客数・ホテル客室数推移(1985年～2010年)



資料:福岡市観光統計(年)

3 施策及び成果指標

施策５－１ 観光資源となる魅力の再発見と磨き上げ

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
入込観光客数（日帰り）	1,152 万人 (2010 年度)	(増加)
入込観光客数（宿泊）	490 万人 (2010 年度)	(増加)

施策５－２ 緑と歴史・文化の賑わい拠点づくり

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
鴻臚館跡展示館年間入館者数	23,768 人 (2011 年度)	50,000 人

施策５－３ 情報アクセスや回遊性など、来街者にやさしいおもてなし環境づくり

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
観光案内ボランティアの案内人数	6,940 人 (2011 年度)	15,000 人

施策５－４ 交流がビジネスを生むMICE拠点の形成

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
国際コンベンション開催件数	216 件 (2010 年)	(増加)
国内コンベンション誘致件数	138 件 (2011 年度)	(増加)

施策５－５ 国際スポーツ大会の誘致やプロスポーツの振興

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
福岡市を活動拠点とするプロスポーツチーム等（福岡ソフトバンクホークスを除く）の主催試合観客数	298 千人 (2011 年度)	390 千人
福岡はスポーツ観戦の機会に恵まれた都市だと思う市民の割合	新規	

施策５－６ 戦略的なプロモーションの推進

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
福岡市への外国人入国者数	76 万人 (2010 年)	(増加)
外航クルーズ客船の寄港回数	63 回 (2010 年)	250 回 (2022 年)

○目標6：経済活動が活発でたくさんの雇用が生まれている

1 めざす姿

- 福岡都市圏の大学や企業、行政が協力・連携し、IT、健康、医療、福祉産業など、成長分野の企業活動が活発であるとともに、多くの国内外企業の立地が進み、働く場が充実しています。
- 地場中小企業等でイノベーションが活発に行われ、特徴ある商品やサービスが生み出され、地場中小企業の競争力が高まっています。
- 新たな担い手づくりや新鮮な農水産物の地産地消、特産品開発が進み、農林水産業を含むさまざまな産業で付加価値が向上し、九州が一体的に発展しています。
- 福岡都市圏全体の経済が活性化しており、成長分野の企業のみならず、既存産業の中小企業等においても多くの雇用の場が創出され、若者、女性、高齢者、障がい者がいきいきと働いています。

めざす姿をあらわす指標

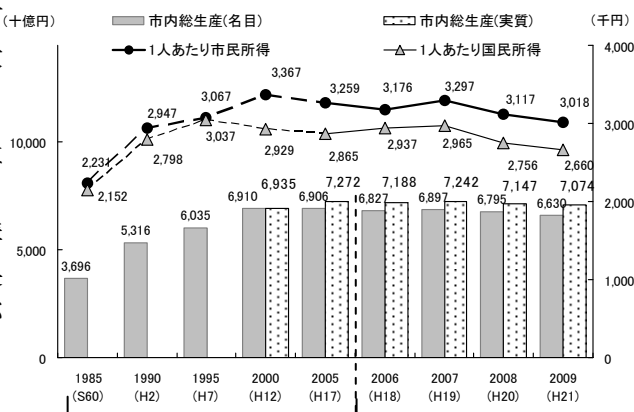
市内総生産額（実質）

2009年度 7兆740億円

2 現状と課題

- ① 国内景気の足踏み局面が続く中、福岡市においても厳しい経済・雇用状況が続いています。また有効求人倍率は低迷し、生活保護世帯が急増しています。
- ② 長く福岡市の基幹産業であった卸売業・小売業は事業所・従業者数とも減少する傾向にある中、医療・福祉、情報通信業が増加するなど、福岡市の産業構造は変化しています。地場産業のイノベーションを促進するとともに、雇用基盤を確保・強化していく必要があります。
- ③ 福岡市の強みである大学等研究機関の集積を生かし、大学等が有する「知」を活用して産学連携を基盤に、地場企業の研究開発力の向上や、新事業・新技術の創出につなげていく必要があります。
- ④ 新たな企業の立地は即効性のある雇用創出策であり、地域経済活性化策ですが、企業誘致をめぐる地域間競争は、国内外を問わず激化しており、福岡市の強みを生かした企業立地を促進していく必要があります。
- ⑤ 需要の低迷、受注単価の低下、円高の進行などが地場中小企業等の経営に大きな影響を及ぼしています。
- ⑥ 農林水産業は、高齢化の進行などによる従事者の減少、遊休農地や荒廃森林が顕在化しています。また、農林水産物価格の低迷や生産資材、燃油価格の高騰等により、農林水産業の経営は厳しい状況にあります。安全な生鮮食料品の安定的供給とともに、広域流通の拠点的役割を担っている青果部3市場について、施設の老朽化・狭あい化や、西部・東部両市場の機能低下などの課題を解消する必要があります。

福岡市の市内総生産および市民所得推移



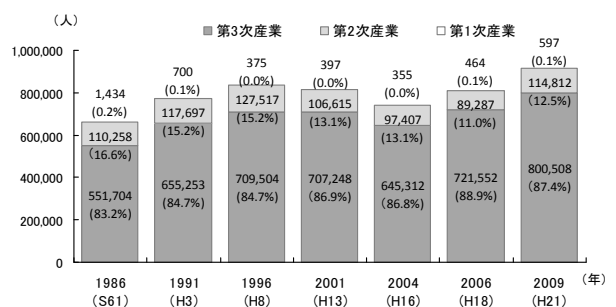
5年刻み（1985～2005年）

資料：福岡市総務企画局「福岡市民経済計算」

内閣府経済社会総合研究所「国民経済計算年報」

注：市内総生産（実質）は連鎖方式（平成12暦年連鎖方式）による

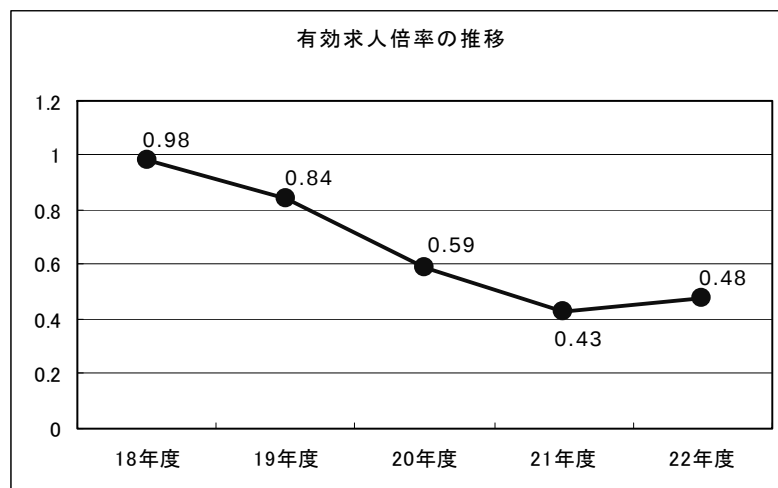
福岡市の産業構造別従業者数・構成比推移(1986年～2009年)



資料：事業所・企業統計調査、平成21年経済センサス基礎調査

(注)平成21年経済センサスより調査手法が変更されているため、2006年以前の比較は参考程度

- ⑦ 働くことは自立することであり、社会に参加することですが、新卒者の就職内定率が低迷する一方で、中小企業では人材確保が課題となるなど、雇用のミスマッチが生じています。また、障がい者や高齢者の就労支援の充実も、重要な課題となっています。



※福岡地区 出典：福岡労働局雇用失業情勢

3 施策及び成果指標

施策 6－1 産学官連携による、知識創造型産業の振興

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
情報通信業の従業者数	44,910 人 (2009 年度)	54,300 人
(財)九州先端科学技術研究所における国等 公募プロジェクトに共同提案した企業数	141 社 (1996～2011 年度)	208 社 (1996～2022 年度)
市内大学の民間企業等との共同研究件数	699 件 (2010 年度)	1,000 件

施策 6－2 成長分野の企業や本社機能の立地の促進

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
成長分野・本社機能の進出企業数	30 社 うち外国企業等 ※ 8社 (2008～2011 年度平均)	330 社 うち外国企業等 100 社 (2013～2022 年度累計)
誘致した企業による雇用者数	2,501 人 (2008～2011 年度平均)	25,000 人 (2013～2022 年度累計)

※ 外国企業数とは、外国企業及び外資系企業をいう。

施策 6－3 地域経済を支える地場中小企業等の競争力強化

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
中小企業従業者数の全国シェア	1.449% (2009 年度)	1.480%

施策 6－4 農林水産業とその関連ビジネスの振興

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
農業生産額	10,742 百万円 (2010 年度)	10,939 百万円
漁業生産額	3,521 百万円 (2010 年度)	3,521 百万円
食関連産業の従業者数	精査中	検討中

施策 6－5 就労支援の充実

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
市の施策による就労者数	910 人 (2011 年度)	1,442 人

○目標 7：創造的活動が活発で、多様な人材が新しい価値を生み出している

1 めざす姿

- 創業など新たな挑戦をしようとする、創造的で先鋭的な人材や企業が世界中から福岡に集まっており、新たな価値を生み出し、福岡市の開業率が全国トップレベルになっています。
- 創造性あふれる感性や技術、才能を持った人材や企業が集積する中で、起業家や新進芸術家、クリエイターなどの先鋭的で創造的な人材や企業が活躍し、新しい価値を生み出しています。ゲーム、映画、音楽や、ファッション、デザインなどのクリエイティブ産業が集積・拠点化しており、都市の成長の原動力となっています。
- 文化芸術活動を行う人が多く集まり、福岡を拠点として活躍しています。
- 都心を中心とした創造的な空間に人材が集積し、活発に交流しており、福岡を拠点に活躍する女性、若者、学生、留学生が数多く生まれ、チャレンジする人材が活躍しやすいまちになっています。

めざす姿をあらわす指標

有業者数※に占める起業者の割合

2007 年度 8.9%

※自営業主、家族従業者、雇用者

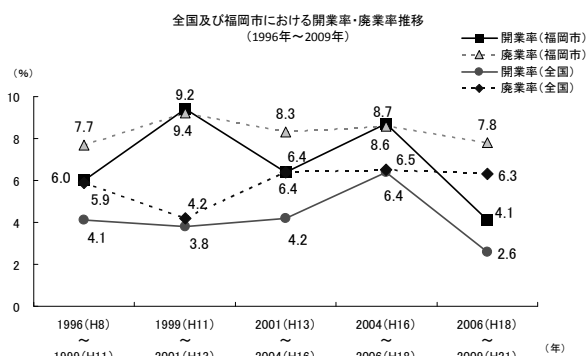
福岡市の大学生、大学院生等※の数

2011 年度 106,016 人

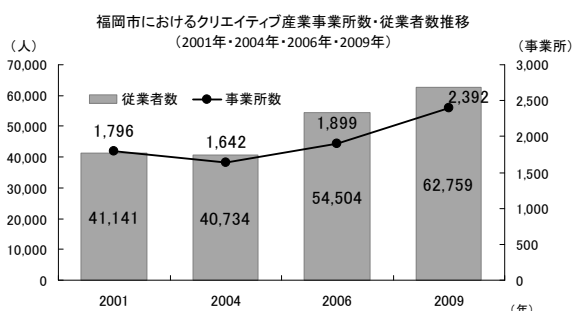
※大学、大学院、短期大学、専修学校

2 現状と課題

- ① 新たな価値の創出が必要とされている現代では、人間個々人が有する創造性あふれる感性やアイデアが重要であり、創造性に富んだ文化や産業を有し、多様な人材が集まり、活発な交流が行われる都市づくりが求められています。新たな価値を創造していく先鋭的な人材や企業が挑戦できる都市(スタートアップシティ)となるため、まち全体が実験の場となり、挑戦を支援していく必要があります。
- ② 文化芸術は、魅力ある都市づくりや都市の個性を形成する面においても重要なものです。文化芸術活動を行う人が活躍しやすい環境をつくり、都市の魅力を向上させていく必要があります。
- ③ 個人の創造性や技術、才能に起源を持ち、知的財産の創造と開発を通して、財と雇用を生み出す創造産業(クリエイティブ産業)は、新たな成長産業としても注目されています。福岡が強みを有するゲームやファッションなどのクリエイティブ産業をさらに発展させていくために、産学官民連携の推進や、関連企業や人材の誘致、集積を進める必要があります。
- ④ 女性、若者、学生、留学生が多いという福岡市の強みを生かしながら、自ら目標を持って行動し、新たな道を切り開いていく多様な人材を発掘、育成、支援をしていくことが都市の活力向上には不可欠です。また、シニアを含め福岡に関わりを持った経験があり、キャリアやネットワークを有する人材の活用を進める必要があります。
- ⑤ 福岡市には大学が集積しているほか、ゲーム、デザイン、ファッションなど多様なジャンルの専門学校があります。今後若者の数が減少する中、経済や文化を支える人材や新たな価値を生む教育機関の機能強化が求められています。



資料：2006年までは事業所・企業統計調査、2009年は経済センサ基礎調査



資料：平成 18 年事業所・企業統計調査、平成 21 年経済センサ基礎調査
 (注) 日本標準産業分類(第 11 回平成 14 年 3 月改定)に基づき集計
 (注) クリエイティブ産業：大学・研究機関等、情報通信業、デザイン業
 (注) 平成 21 年経済センサより調査手法が変更されているため、2009 年と以前の比較は参考程度
 (注) 2006 年は新産業分類(平成 19 年 11 月改定)による再集計値

3 施策及び成果指標

施策 7-1 新たな価値を生むスタートアップシティづくり

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
インキュベート施設卒業企業の雇用者数	390 人 (2011 年度)	700 人

施策 7-2 創造的活動の基盤となる文化芸術の振興

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
福岡で独自性のある創造的な文化芸術活動が行われていると感じる人の割合	新規	

施策 7-3 個人の才能が成長を生む創造産業の振興

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
ゲーム関連産業の従事者数	900 人 (2011 年度)	1,800 人
クリエイティブ関連産業事業所数	1,374 事業所 (2009 年度)	1,500 事業所 (2021 年度)

施策 7-4 多様な人が集まり交流する創造的な場所づくり

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
博多区・中央区のクリエイティブ産業従業者数	48 千人 (2009 年度)	52 千人 (2021 年度)

施策 7-5 女性や若者、留学生など多様な人材の活躍の場づくり

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
将来の夢や目標を持っている子ども（※1）の割合	72.5% (2011 年度)	75%
起業者に占める女性の割合	24.3% (2007 年度)	30%
福岡市の人口に占める若者（※2）率の全国平均との乖離	+4.0% (2010 年度)	+5%

※1 中学校3年生

※2 15 歳～29 歳

○目標 8：国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている

1 めざす姿

- 豊かな自然に囲まれ、高度な都市機能が充実し、博多港や福岡空港、交通体系の整備が進んだ福岡都市圏で交流が盛んに行われ、学術や文化、経済など、あらゆる活動が活性化しています。
- 海外経験等を持つ日本人や留学生、外国人が、福岡市を舞台にさまざまな分野で活躍しています。
- 地場企業が、活力あるアジアに積極的に展開し、国際競争力が強化されているとともに、地域の経済を活性化しています。
- アジアの中の成熟都市として蓄積した知識や経験を生かし、アジア地域が抱える社会課題の解決や生活環境の向上に寄与しています。
- 制度、習慣、言語などを超え、互いに海を挟んで向き合う福岡市と釜山広域市とが、日常生活圏を超えて一つの経済圏を形成しています。

めざす姿をあらわす指標

福岡空港・博多港の貿易額

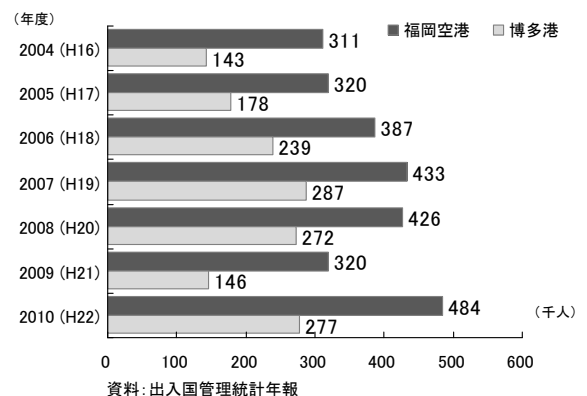
2011 年度 3 兆 1,870 億円

2 現状と課題

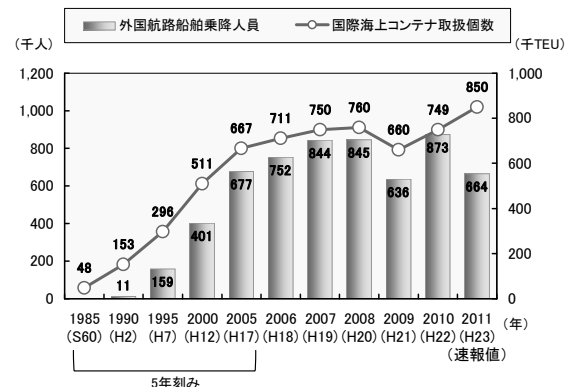
- ① 福岡市のみならず都市圏および九州の経済を牽引していくには、都心部の機能強化が重要であり、今後あらゆる人の活動を支えていくために、都市機能に磨きをかけていく必要があります。
- ② 市全体のより一層の活性化のために、アイランドシティや九州大学学術研究都市など、都心部以外にも地域特性や財産を生かし、新たな活力を生み出す拠点を形成していく必要があります。
- ③ 人口減少局面を迎え国内市場の拡大が見込みにくい中、市内の事業者は市場を海外に求めており、海外展開のためのビジネス支援を強化していく必要があります。
- ④ 国際海上コンテナ取扱個数増やクルーズ客船の寄港増、国際RORO船などアジアとの物流網の充実、新規航空路線の就航などにより、人の移動や経済活動が活発化すると見込まれることから、国内外の人流・物流の増加に対応した、港湾・空港機能の一層の強化が必要です。
- ⑤ 福岡ではこれまでもアジアを中心とした地域との人の交流が活発に行われてきましたが、今後、都市としての国際競争力において優位性を発揮していくためには、国際情勢に関する情報の把握能力を高めるとともに、グローバル感覚をもった人材の育成などにより世界とつながるグローバル人材を集積していく必要があります。

また、外国人やその家族にとって暮らしやすいまちであることが重要であり、教育や医療、情報アクセスなどの環境づくりが必要です。

福岡空港・博多港の外国人入国者数推移
(2004年度～2010年度)



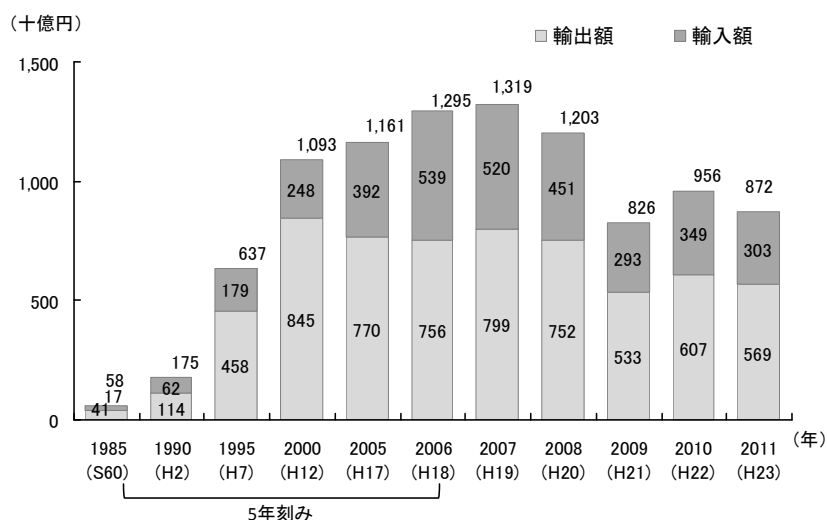
◆博多港における外国航路船舶乗降人員数と国際海上コンテナ取扱個数推移



⑥ アジア諸国が経済発展の一方でさまざまな課題を抱えている中、福岡市がアジアとともに発展していくためには、環境、水、道路下水、交通などの分野で、国際貢献していく必要があります。

⑦ 釜山広域市は、福岡市と地理的に近接するという利点から日常生活圏になりつつありますが、経済文化交流をさらに推し進めるなど、次の展開につなげていく必要があります。

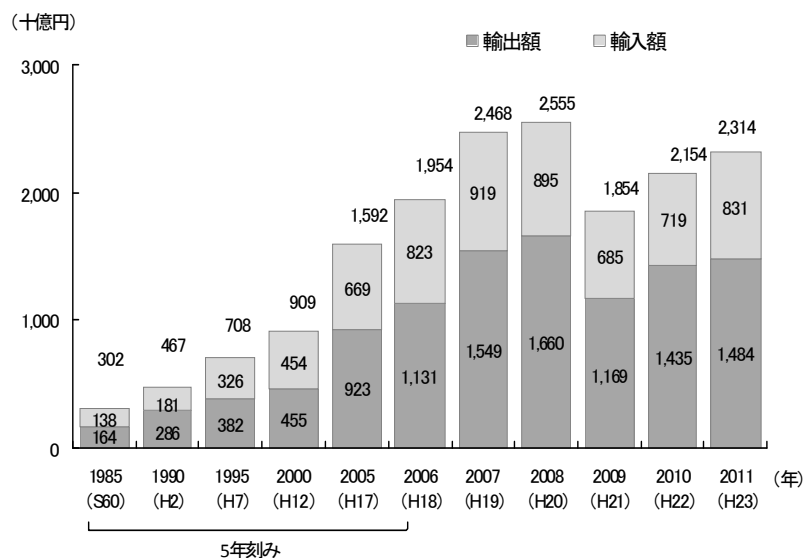
福岡空港の貿易実績(1985年～2011年)



資料: 門司税関「外国貿易年表」

(注) 四捨五入しているため、合計値の合わないところがある

博多港の貿易実績(1985年～2011年)



資料: 門司税関「外国貿易年表」

(注) 四捨五入しているため、合計値の合わないところがある

3 施策及び成果指標

施策 8－1 都市の活力を牽引する都心部の機能強化

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
都心部の従業者数	365 千人 (2009 年度)	396 千人 (2021 年度)
都心部の 1 日あたりの歩行者交通量	41 千人 (2011 年度)	44 千人

施策 8－2 活力創造拠点づくり

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
アイランドシティ・九州大学学術研究都市（※1）・シーサイドももち（SRP 地区）の従業者数	13,127 人※2 (2009 年度)	29,700 人

※1 九州大学学術研究都市は、元岡・桑原地区等の伊都キャンパス周辺エリア

※2 アイランドシティみなとづくりエリアを除く

施策 8－3 国際的なビジネス交流の促進

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
博多港・福岡空港における貿易額	3 兆 1,870 億円 (2011 年度)	3 兆 9,626 億円

施策 8－4 成長を牽引する物流・人流のゲートウェイづくり

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
博多港国際海上コンテナ取扱個数	85 万 TEU ※ (2011 年)	130 万 TEU ※ (2022 年)
外国航路船舶乗降人員	87 万人 (2010 年)	210 万人 (2022 年)
福岡空港乗降客数	1,635 万人 (2010 年)	1,839 万人 (2022 年)

※ TEU〔Twenty-foot Equivalent Unit〕:20 フィートコンテナに換算してコンテナ個数を数える単位

施策 8－5 グローバル人材の育成と活躍の場づくり

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
外国語で簡単な日常会話ができると思う生徒の割合	35.9% (2011 年度)	60%
就労目的の在留資格を持つ外国人の数	2,696 人 (2011 年度)	4,183 人

施策 8－6 アジアの諸都市への国際貢献の推進

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
視察・研修受入人数	602 人 (2011 年度)	1,700 人

施策 8－7 釜山広域市との超広域経済圏の形成

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
福岡・釜山間の定期航路の船舶乗降人員	69 万人 (2010 年)	90 万人 (2022 年)

施策 8－8 アジアをはじめ世界の人にも暮らしやすいまちづくり

指標項目	現状値	目標値
		2022（平成 34）年度
福岡市は住みやすいと感じる在住外国人の割合	92.5% (2011 年度)	95%
福岡市に住んでいる外国人の数	精査中	検討中

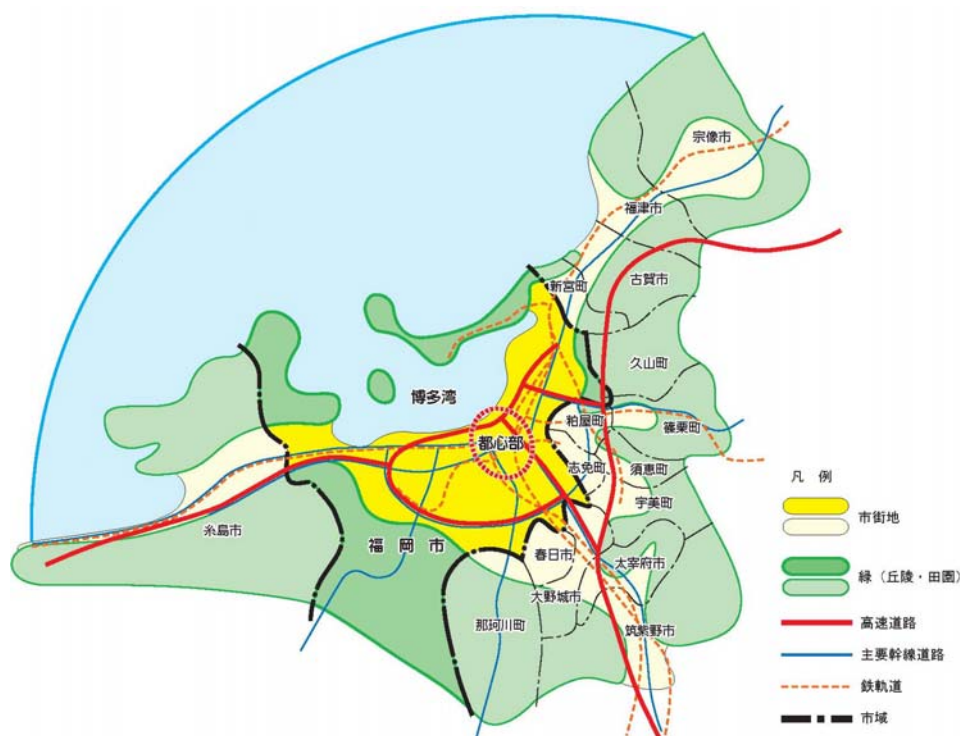
2 空間構成目標

2 空間構成目標

空間構成目標は、市民生活や都市活動の場となる都市空間を、どのように形成し、どのように利用する空間とするかを目標として示したものです。都市空間の形成にあたっては、長期の視点に立って、まちづくりを進める必要があります。本計画の目標年次である2022年度（平成34年度）までの今後10年間、この目標に向かってまちづくりを進めていきます。

1 現状と課題

- 福岡市では、都心部を中心にY字形に伸びる広域的な都市軸に沿って都市機能が集積してきましたが、都市高速道路や外環状道路などの幹線道路網や地下鉄などの鉄道網の整備により、放射環状型の都市軸が形成され、都市の骨格がより明確になってきました。
- 陸海空の広域交通ネットワークや都市機能の充実により、ビジネスや観光などによる交流が活発化し、九州・日本各地はもとより、アジア・世界へ向けた国際交流軸が形成されつつあります。
- 経済社会がグローバル化し、国や地域を越えて経済活動が活発に行われるようになり、国際的に魅力のある都市に人や投資が集中するようになり、国際競争力のある都市づくりが必要になっています。
- 一方、高齢化が進むなか、身近なまちの利便性や誰にでも分かりやすく使いやすい公共交通の確保など、市民の日常生活の質の向上を図る必要があります。
- また、東日本大震災など度重なる災害の教訓をふまえ、災害に強い安全・安心な都市づくりが必要になっています。
- 福岡都市圏は、豊かな自然環境に囲まれるなか、利便性の高い都市交通ネットワークのもと、福岡市都心部を中心に市域を越えた一体的な都市空間を形成しています。



2 めざす姿

- 海や山に囲まれた地形的な特徴を生かし、都心部を中心に、まとまりのある空間的にコンパクトな市街地が形成され、都市的魅力と豊かな自然環境が調和し、安全・安心な暮らしのもと、市民が日常的にそれを享受しています。
- 福岡市の成長のエンジンである都心部を中心に、都市の成長を推進する活力創造拠点や、市民生活の核となる東部・南部・西部拠点、地域拠点などに、拠点の特性に応じて多様な都市機能が集積し、市民活動の場が提供され、交通基盤のネットワークにより移動の円滑性が確保された「福岡型のコンパクトな都市」が実現しています。

<都心部>

福岡市の成長のエンジンである都心部には、福岡都市圏や九州の中核を担う広域的な都市機能とともに、国際競争力を備えた高度な都市機能が集積しています。

<地域の拠点>

東部・南部・西部の広域拠点や地域拠点といった市民生活の核となる拠点には、まちの成り立ちや生活圏域、交通結節機能などの拠点の特性に応じて、市民生活に必要な都市機能が適正に集約されています。

<日常生活圏>

日常生活圏では、小学校区単位を基本とし、公民館を拠点として、自治協議会を中心に地域コミュニティが形成されています。また市民の日常生活に必要な基本的な生活利便性が確保されています。

<活力創造拠点>

アイランドシティ、九州大学伊都キャンパス及びその周辺、シーサイドももちの活力創造拠点には、拠点の特性に応じて、物流、情報、研究開発など、福岡市の成長を推進する多彩な都市機能が集積しています。

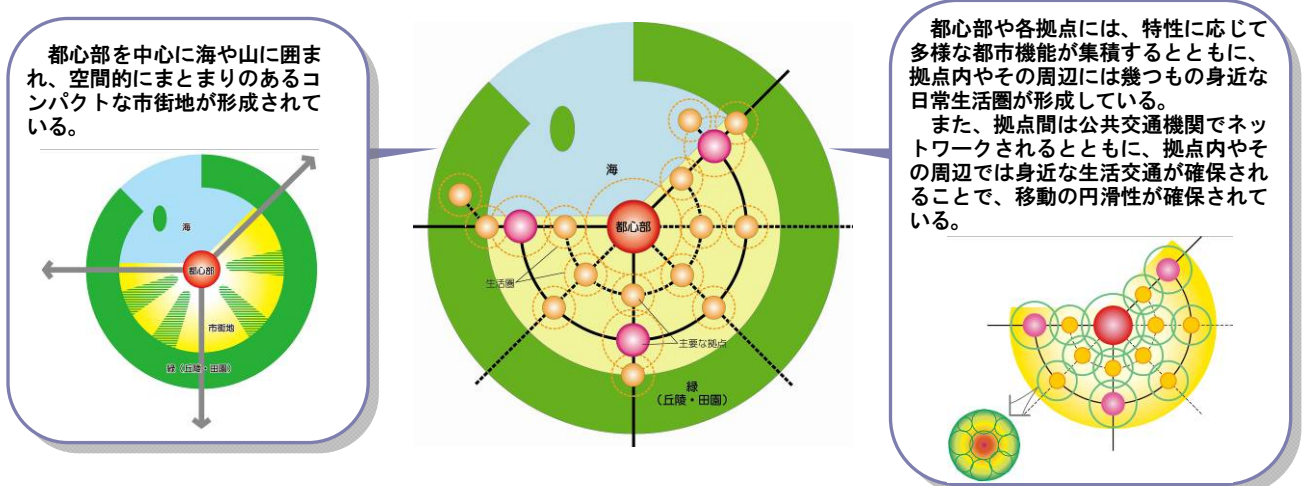
<機能を充実・転換する地区>

九州大学箱崎キャンパス地区では、新たなまちづくりがすすみ、舞鶴公園・大濠公園地区は、多くの市民の憩いの場となり、また、多くの観光客を集めています。

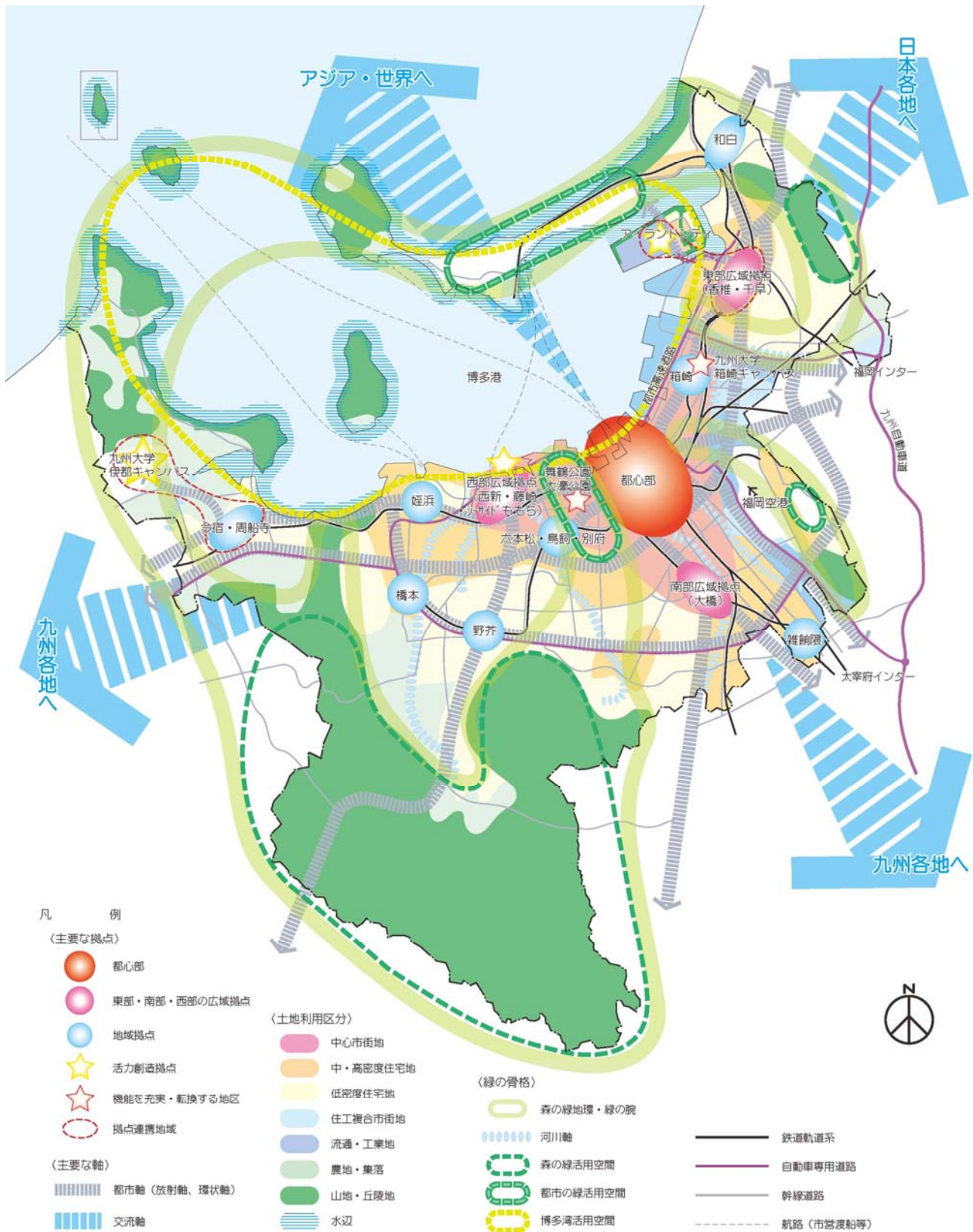
<交通ネットワーク>

陸海空の広域交通ネットワークを備える都心部を中心に、それぞれの拠点間は公共交通機関でネットワークされるとともに、拠点内やその周辺では身近な生活交通が確保されることで、多様な都市活動や市民生活を支える移動が円滑に行われています。

福岡市における「コンパクト」な都市の概念



【都市空間構想図】



【主要な拠点】

主要な拠点は、「都市の成長」と「質の高い生活」を両立させ、両者の好循環を図るため、都市活動や市民生活にとって重要な拠点となる地区です。

○都心部

- ・都市活力の中心及び国際交流のゲートウェイとして、国際競争力を備えた、商業・業務、コンベンション、文化、港湾などの高度な都市機能、広域交通機能が集積した地区

○東部・南部・西部の広域拠点

- ・交通結節機能の高さを生かし、都市活力を担いつつ、行政区・市域を超えた広範な生活圏域の中心として、商業・業務機能やサービス機能など諸機能が集積した地区

○地域拠点(和臼、箱崎、雑餉隈、六本松・鳥飼・別府、野芥、姪浜、橋本、今宿・周船寺)

- ・区やそれに準ずる生活圏域の中心として、日常生活に必要な商業機能やサービス機能など諸機能が集積した地区

○活力創造拠点

- ・都市の成長を推進する高度な都市機能が集積した地区
「アイランドシティ」は、環境と共生し、快適な居住環境や新しい産業集積拠点を形成する先進的モデル都市づくりを進めるとともに、アジア・世界と繋がる最先端のコンテナターミナルと一体となった国際物流拠点の形成を図る地区

「九州大学伊都キャンパス」及びその周辺は、糸島半島を圏域とする九州大学学術研究都市の核として、学生や研究者などが、新たな知を創造し、発信する、研究開発拠点の形成を図る地区

「シーサイドもち」は、本市の基幹産業である情報関連産業等の拠点形成を図る地区

○機能を充実・転換する地区

「舞鶴公園・大濠公園地区」は、緑と歴史・文化が調和した魅力ある空間づくりを行い、集客・交流を強化する地区

「九州大学箱崎キャンパス地区」は、市街地内の貴重な大規模活用可能地として、大学の移転進捗をふまえ、新たな都市機能の導入等を検討する地区

○拠点連携地域(東部拠点地域(アイランドシティ～東部拠点)・西部拠点地域(九州大学伊都キャンパス～今宿・周船寺))

- ・拠点間の連携を図りながら、一体的な拠点地域の形成を図る地区

【主要な軸】

○都市軸

都市軸は、福岡市の骨格となる重要な交通ネットワークを受け持つ道路であるとともに、都市活動や市民生活を営む上で必要な機能が連続する沿道の市街地を示します。また、市内の各拠点の機能分担や連携を図るために重要な軸です。

- ・「放射軸」は福岡市と周辺都市等を放射状に結ぶ軸
- ・「環状軸」は中心市街地を取り巻き、東部、南部、西部の連携を強化する軸

○交流軸

福岡都市圏や九州・西日本への都市間交流を図る Y 字型都市軸とともに、アジア・世界へ向けた国際交流の主要な骨格となる軸

【緑の骨格】

緑の骨格は、福岡らしい風景をつくるほか環境保全や市民の憩いの場としても大きな役割を果たしています。

○森の緑地環・緑の腕

- ・市街地と博多湾を環状に囲む森林で構成される森の緑地環と、そこから市街地に伸びる丘陵地の樹林や大規模公園で構成される緑の腕により、緑の骨格を形成し、快適な都市環境や美しい都市の景観形成の軸となる地域

○河川軸

- ・市街地を貫流する主要な河川と河川沿いの緑で構成される軸

○森の緑活用空間

- ・山や森林などの自然を活用し、市民が身近に自然をふれあい楽しめる空間

○都市の緑活用空間

- ・都市の中の貴重な緑を活用し、レクリエーションやスポーツなどを通じて市民や来街者が集い憩える空間

○博多湾活用空間

- ・自然海岸や干潟などにより海側の緑の骨格を形成するとともに、人流・物流や、レクリエーション・スポーツ・歴史・水産業などの多様な場として活用する空間

【土地利用区分】

地域特性に応じて市域を大きく8つのゾーンにまとめて示します。福岡市の中心である都心部に近いほど多様な都市機能が密度高く、遠いほど密度が低く豊かな自然環境が身近に感じられるようなゾーン配置としています。

○中心市街地

- ・都心部、東部・南部・西部拠点を補完する諸機能をもつゾーン

○中・高密度住宅地

- ・中心市街地の外側に広がる中高層住宅を主とし、低層住宅も共存する住宅地

○低密度住宅地

- ・中・高密度住宅地の外側に位置する戸建住宅を主とし、豊かな緑に包まれ、身近に自然が楽しめるゆとりのある住宅地

○住工複合市街地

- ・空港西側や幹線道路沿いに位置する住宅、流通・工業施設、商業・業務施設等、住む場所と働く場所が複合した市街地

○流通・工業地

- ・空港周辺や博多港等に位置する流通施設や工場からなるゾーンで、生産・物流機能を担う地域

○農地・集落

- ・農林水産業の振興を図るとともに、緑地空間の保全など、自然や歴史的資源を生かした地域づくりを図るゾーン

○山地・丘陵地

- ・市域を取り囲む山や森林などにより緑の骨格が構成され、緑の保全を進めていく地域

○水辺

- ・自然海岸や豊かな干潟環境を保全するとともに、市民が身近にふれあい憩えるゾーン

3 空間構成目標の実現に向けた土地利用の方向性

◆土地利用の基本的な方向性

- 無秩序な市街化を防止し、計画的な市街化を図るため、都市計画区域を市街化を促進する区域である市街化区域と、市街化を抑制すべき区域である市街化調整区域に区分する、いわゆる「区域区分」について適切な運用を図ります。
- 市街化区域の拡大を必要最小限に抑え、市街化調整区域の自然環境や農地並びに市街化区域内に残る良好な緑地を保全します。また、既存の社会資本を最大限に活用できる既成市街地や現在の計画的開発区域を中心に人口や必要な都市機能の受け入れを図ります。
- 標高概ね80メートル以上の樹林地、和白・今津干潟など都市の貴重な自然を保全するとともに、市街地内に残る山すそ緑地や水辺空間についても極力保全に努め、山地から市街地へ伸びる「緑の腕」や海とつながる河川空間を生かした水と緑のネットワークを形成するなど、生物多様性の保全を図ります。

◆市街化区域の土地利用の方向性

- 計画的な市街地整備を図る「市街化区域」については、用途地域などの地域地区や地区計画制度などの適切な運用により、都心部等からの近接性や交通の利便性、都市基盤の状況などをふまえ、都心部から市街地周辺部にかけて段階的な密度構成により、メリハリのきいた、ゆとりと潤いのある市街地形成を図ります。
- 都市活力の中心となる都心部など、高度な都市機能の集積を図るエリアにおいては、質の高い高度利用された市街地の誘導を図るとともに、市民生活の核となる拠点や都市の骨格を形成する都市軸など、市民生活に必要な都市機能の誘導を図るエリアにおいては、鉄道駅周辺や幹線道路沿道など、都市基盤のストックを最大限に活用し、適切な高度利用や土地の有効利用を図ります。
- 市民生活の基盤となる住宅地においては、日常生活に必要な機能の充実など、利便性の高い生活環境の形成を図るとともに、地域の特性に応じた良好な住環境の保全・形成を図る必要があるエリアにおいては、地域の主体的なまちづくりの取り組みを支援し、きめ細かな土地利用の誘導を図ります。

◆市街化調整区域の土地利用の方向性

- 市街化を抑制する「市街化調整区域」については、自然環境や農地、林地など保全すべき区域を明確化し、その保全に努めるとともに、農林漁業や観光などの産業振興、集落コミュニティの維持など、既存集落の活性化を図ることが必要な区域については、農林漁業等との調整を図りながら、地域の主体的なまちづくりの取り組みを支援します。
- 市街化調整区域のうち、鉄道駅周辺や幹線道路沿道など、良好な市街地整備が確実に実施される地区については、農林漁業等との調整を図りながら周辺環境を十分に勘案し、市街化区域への編入などにより、計画的なまちづくりを誘導します。

4 空間構成目標の実現に向けた交通体系の方向性

◆交通体系の基本的な方向性

○都心部を中心に市民生活の核となる拠点をつなぐ都市軸を骨格として、公共交通機関や幹線道路のネットワークの充実・強化を図ります。

○既存の交通基盤や新たな技術などを生かしながら、利便性の高い公共交通機関相互の連携や交通結節機能の充実・強化を図り、鉄道やバスなどの公共交通を主軸として、多様な交通手段が相互に連携した総合交通体系の確立をめざします。

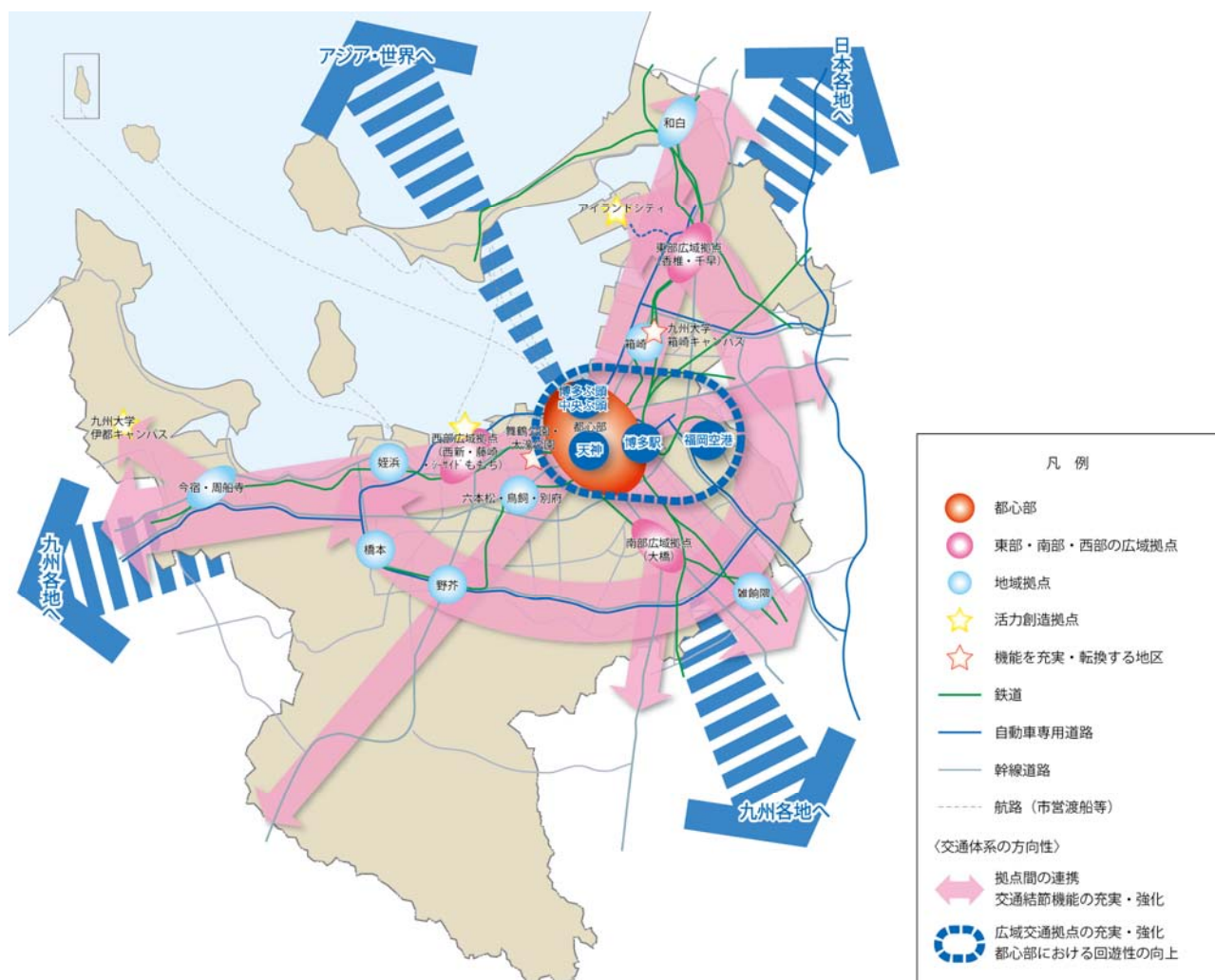
◆「都市の成長」を支える交通体系の方向性

○九州・アジアなどとの広域的な交流を促進するため、陸海空の広域交通拠点の充実・強化や、都心部における回遊性の向上を図ります。

○都心部・活力創造拠点等へのアクセス性の向上を図ります。

◆「質の高い生活」を支える交通体系の方向性

○快適で生活しやすい居住環境を形成するため、市民生活の核となる拠点へのアクセス性の向上を図るとともに、市、市民等及び公共交通事業者の協力と連携のもと、日常生活を支える生活交通の確保を図ります。



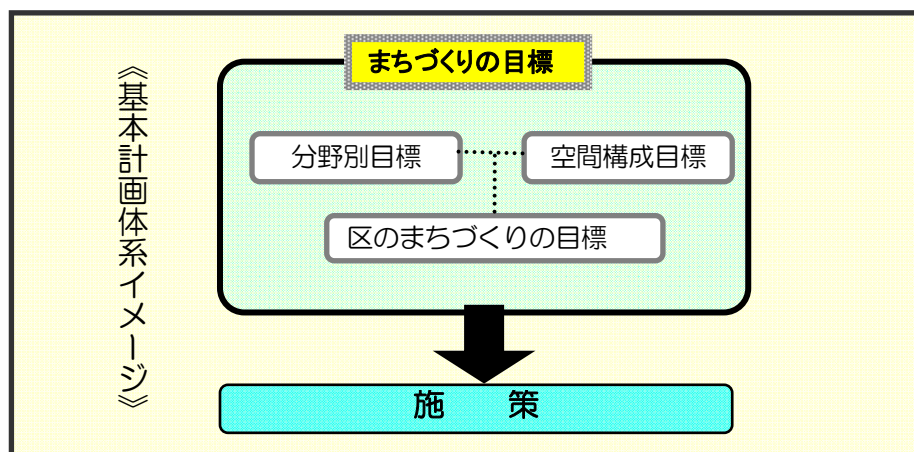
3 区のまちづくりの目標

3 区のまちづくりの目標

経済のグローバル化が進展し福岡市の広域的な役割が重要になる一方、市民の暮らす地域においては、人口の集中による生活環境上の問題や高齢化による地域活力の低下など、地域ごとに異なる様々な課題があります。

福岡市が生活の質を向上させ、都市の成長にもつなげていくためには、このような地域の課題を的確に把握し、解決するとともに、地域の資源を生かしてさらに地域の魅力を高める必要があります。

そこで、市民及び様々な主体が地域のまちづくりに取り組むために共有する目標として、区のまちづくりの目標を定めるものです。



1 めざす姿

○自治と多様な共働により区ごとの目標が実現している

- ・市民生活に身近な地域の課題の解決に向けた取り組みが進んでいます。
- ・地域の資源が活用され、個性的な地域づくりが進んでいます。
- ・福岡市における拠点となっている地域については、全市における役割を適切に果たしています。

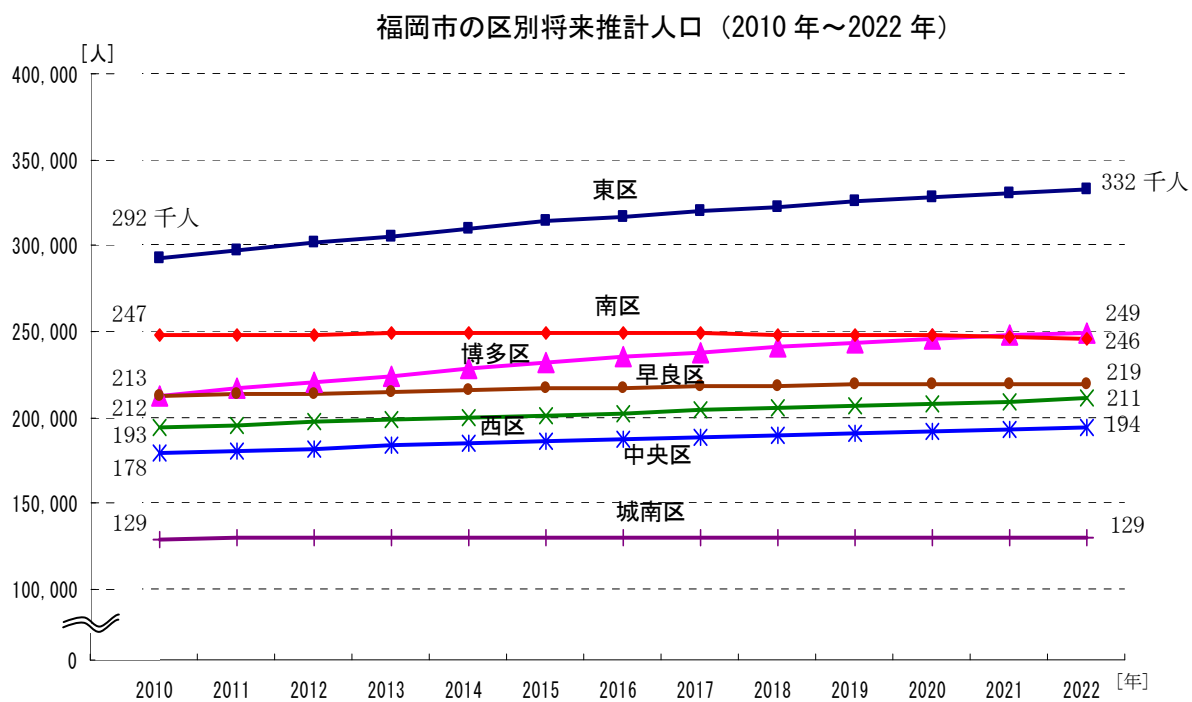
2 各区の概要

<区別面積・人口>

東区	292,199 人	68.36 k m ²	博多区	212,527 人	31.47 k m ²
中央区	178,429 人	15.16 k m ²	南区	247,096 人	30.98 k m ²
城南区	128,659 人	16.02 k m ²	早良区	211,553 人	95.88 k m ²
西区	193,280 人	83.83 k m ²	（「平成 22 年国勢調査」）		

＜人口推計＞

○ 区別人口は、2022 年までの推計において、東区・博多区・中央区・早良区・西区は増加、南区・城南区はほぼ横ばいとなる見込みです。



資料：福岡市総務企画局（2012 年 3 月推計）



東 区



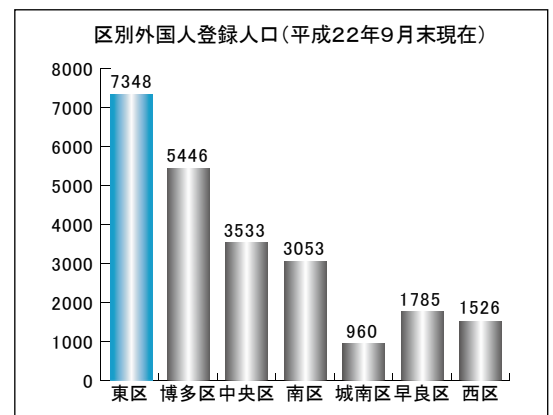
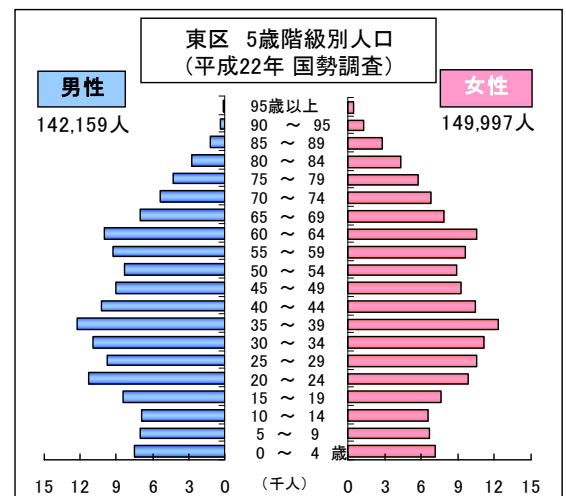
<東区のまちづくりの目標>

1 区の特徴

- 国宝金印「漢委奴国王」が発見された志賀島は、古代に大陸との交易で活躍した海の民「阿曇族」発祥の地として注目されています。また、舞松原、宮前などの古墳、名島城、立花城などの城址、香椎宮、筥崎宮をはじめとする神社・仏閣など、貴重な財産が数多く残っています。
- 玄海国定公園に指定されている志賀島、海の中道、渡り鳥の飛来地として有名な和白干潟、シロウオが遡上し、絶滅危惧種クロツラヘラサギが越冬する多々良川、緑豊かな立花山、三日月山など自然の魅力にあふれています。
- 多くの市民が利用する雁の巣レクリエーションセンターは、市内で最多の球技場、野球場等が整備されており、プロスポーツチームの練習場としても使われています。また、隣接する国営海の中道海浜公園は、レクリエーションの一大拠点として、市民の憩いの場となっています。
- 九州大学、福岡女子大学、九州産業大学、九州造形短期大学、福岡工業大学など、特徴のある多くの大学・短期大学が立地しています。
- 箱崎埠頭、香椎パークポートやアイランドシティなどの臨海部では、国内外の海上物流機能が集積しており、隣接するJR貨物ターミナルとも一体となり、地域経済を支える物流拠点を形成しています。

2 現状と課題

- 集中豪雨による水害を経験し、警報が発表された際の地域への連絡体制を強化しています。また、東日本大震災を契機として、地域における防災意識も高まっており、災害発生時の助け合いの仕組みづくりなど、地域における防災力を充実していく必要があります。
- 犯罪や交通事故の発生件数は減少傾向にありますが、より暮らしやすいまちづくりの実現のため、地域防犯力の向上や交通ルール・マナーが守られるまちづくりを地域と行政が共働して進めていく必要があります。
- 大規模なスポーツ、レクリエーション施設に近接する雁の巣、和白周辺では、休日を中心に交通渋滞が発生しており、その影響が市民生活に及んでいます。また、区域を南北に走る幹線道路のバイパス整備も急がれています。高齢化や自転車利用の増加に伴い、車いす利用者、歩行者、自転車利用者それぞれが安全に利用できる環境づくりが求められています。
- 多くの子育て世代が暮らす東区では、子育て家庭の孤立化や児童虐待の予防・早期発見への取り組みが求められています。また、高齢化が顕著な地域では、介護や健康づくり、コミュニティの維持、公共交通機関の確保などの課題が生じています。



- 東区は7区の中で最も多くの外国人が暮らししており、地域住民との交流、多言語表記による日常生活の支援など、異文化への理解や外国人が暮らしやすい環境づくりが必要となっています。
- アイランドシティ整備事業や香椎駅周辺土地区画整理事業など、新しいまちづくりも進んでいます。また、九州大学箱崎キャンパスが移転した後のまちづくりの検討も始まっています。

3 まちづくりの目標と取組みの方向性

歴史と自然の魅力にあふれ、人が活躍し、活力を創造するまち・東区

～住みやすいあんしんなまちづくりをめざして～

○安全で安心して暮らせるまち

災害、犯罪や交通事故などに対して、市民が「あんぜん」「あんしん」に暮らしやすいまちづくりを進めるため、地域における防犯や防災への活動や仕組みづくりを支援するとともに、みんなが気持ちよく暮らせるためのモラル・マナーの向上に取り組んでいきます。

また、交通ネットワークを整備して区内や区域外へも移動しやすい便利なまちづくりに取り組むとともに、人、自転車などが安全に利用できる環境の整備を進めます。

○子どもが健やかに育つまち

子育て家庭の孤立化や児童虐待の予防・早期発見のため、地域における見守りなどの子育て支援を進めるとともに、子どもが安心して遊べる環境づくりやスポーツなどの新しい体験ができる機会を提供します。

○人を大切にし、みんなが生き生きと活躍できるまち

人と人をつなぐ自治協議会などの地域活動を支援するとともに、NPO・ボランティア、大学、企業、行政などさまざまな主体が、地域の課題を解決するために知恵を出しあい、地域が主体的に共働きのまちづくりに取り組み、ひとが「つながり、さんかする」まちづくりを進めます。

○新しい都市機能を担い、活力を創りだすまち

土地区画整理事業が進む香椎駅・千早駅周辺とアイランドシティは、連携を図りながら、新しい都市機能を担うとともに、一体的な拠点地域の形成に取り組めます。

香椎駅・千早駅周辺は、広範な生活圏の中心となる東部広域拠点として、新東市民センターを核に、にぎわいにあふれ、多くの人びとがひかれ、文化芸術を感じられるまちづくりを進めます。

アイランドシティは、都市の成長を推進する活力創造拠点として、環境と共生し、快適な居住環境の整備と新しい産業集積拠点が形成されたモデル都市づくりを進めるとともに、アジア・世界と繋がる国際物流拠点の形成を図ります。

○歴史・文化、自然の魅力を生かし、新しい可能性を生み出すまち

東区のシンボルとなる行事や歴史・文化的な資産の魅力を磨き、海・川・山の水辺や緑などの自然環境を守り、これらの地域の魅力、特色を生かしたまちづくりを進めます。

また、九州大学の移転に伴う箱崎キャンパス跡地は、将来の都市活力の一端を担うポテンシャルを有しており、既存施設の活用、土地利用の転換による新たな都市機能の導入などの検討を進めます。

東区地図概要



博 多 区



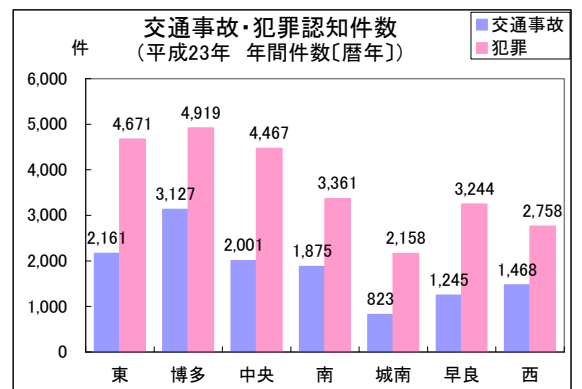
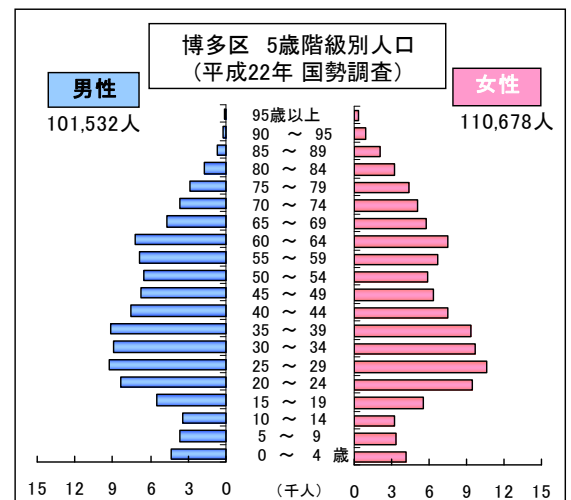
<博多区のまちづくりの目標>

1 区の特徴

- 単身世帯が7区中最も多く、その割合は全世帯の約6割を超えています。
- 事業所数が7区中最も多く、博多駅周辺にその半数が集積しています。
- ウォーターフロント地区の会議・展示施設、博多駅周辺の複合商業施設、東平尾公園のスポーツ施設など多くの集客交流施設が立地しています。
- 主要な幹線道路に加え、市営地下鉄、J R鹿児島本線、西鉄天神大牟田線が走り、雑餉隈駅周辺では連続立体交差事業が行われ、また、地下鉄七隈線の天神南～博多間の延伸事業が進んでいきます。
- 博多の総鎮守の櫛田神社、日本最初の禅寺である聖福寺、うどん・そば・饅頭を日本に伝えた承天寺、空海が日本で初めて建立した密教寺院である東長寺などの神社・仏閣、また、最古の稲作集落跡のひとつである板付遺跡や弥生時代の甕棺（かめかん）を発見されたままの状態で開催している金隈遺跡など文化財も豊富です。
- 博多祇園山笠や博多松囃子など伝統的な祭りや文化も豊かで、地域の生活にとけ込み受け継がれています。
- 駅、港、空港の拠点性の高まりから、今後、国内外の人流・物流の増加や産業のさらなる集積が期待されます。

2 現状と課題

- 都心部では単身世帯が増加し、居住者の移動が多いことから、地域の昔ながらの連帯感が薄れつつあります。今後とも、住民のまちづくり活動への参加を促し、コミュニティの活性化を図る必要があります。
- 全市的に少子化、高齢化が一段と進み、児童虐待や高齢者の孤立化などが深刻となっています。お互いが支え合い、みんなが健やかに安心して生活できるまちづくりを進める必要があります。また、厳しい経済情勢の中、若年層も含め雇用問題が深刻となっています。
- 近年、集中豪雨による浸水被害や竜巻など多様な自然災害の発生が見られます。また、犯罪・交通事故の発生件数や市街地及び駅周辺を中心として放置自転車数が依然多い状態です。防災や防犯に係る都市基盤の整備や地域等との連携による危機管理体制の強化が必要となっています。
- 福岡市の陸・海・空の玄関口を擁し、多くの神社、仏閣や遺跡などがあり、地域の生活にとけ込んだ全国有数の伝統ある祭りも盛んであることから国内外からの来街者が多く、歴史と伝統を生かした回遊性の向上など地域の魅力づくりや集客機能の強化が課題です。



3 まちづくりの目標と取組みの方向性

お互いが支え合い、安心して人が暮らし、歴史と伝統が息づくまち・博多区

○お互いが支え合い、交流し、健やかに暮らせるまち

地域住民、ボランティア、企業、NPO、行政などが一体となり、お互いを思いやり、温かく支え合う活発なコミュニティづくりを進めます。

地域の支え合いを軸に、子どもや高齢者、障がいのある人の見守りが行われるなど、子どもが健やかに成長し、全ての人が、住み慣れた地域で安心して生活できる環境づくりを進めます。また、就労支援など、生活の安定に向けた取り組みも進めます。

みんなが自分に合ったスポーツ、レクリエーションを気軽に楽しみ、健康に暮らせるまちづくりを進めます。

○安全で安心して暮らせるまち

高齢者や障がいのある人をはじめ全ての人が快適に日常の活動や生活ができるユニバーサルデザインによるまちづくりをめざします。

河川改修や雨水管整備など、災害に強い都市基盤の整備とともに、浸水、地震、竜巻など様々な自然災害に対する地域の自主防災活動を支援します。

市民、地域、警察、行政が連携し、駐輪場整備や啓発事業の強化によって交通マナーや自転車利用、喫煙など、モラル・マナーの向上をめざすとともに、安全な歩行空間の整備や夜間照明の充実、自主防犯活動の支援などによって、事故や犯罪が少ない安全なまちづくりを進めます。

市民、地域、企業が一体となって、緑豊かな環境や水辺環境を守るとともに、ごみの排出抑制やリサイクル活動の推進など、環境にやさしいまちづくりを進めます。

○歴史と伝統を生かしたにぎわいのあるまち

歴史的景観を有する寺社等の資源を生かした道路整備などのまちづくりを地域と連携してさらに推進するとともに、地域・企業と一体となったイベントの開催など、歴史や伝統の魅力を広く発信し、集客力や回遊性を高めていきます。

また、古くから伝わる博多祇園山笠や博多松囃子など、地域の伝統行事について、次世代への継承や活気を保ち続ける取り組みを進めその振興を図ります。

あわせて、博多駅周辺から天神方向への回遊性や利便性など都心部のネットワーク強化を図ります。

福岡・九州の玄関口である博多駅、博多港、福岡空港と、国際会議場や東平尾公園のスポーツ施設などの集客交流施設について、国内外から人をひきつけ、快適に利用できるよう、周辺環境の整備を行います。

博多区地図概要



中 央 区



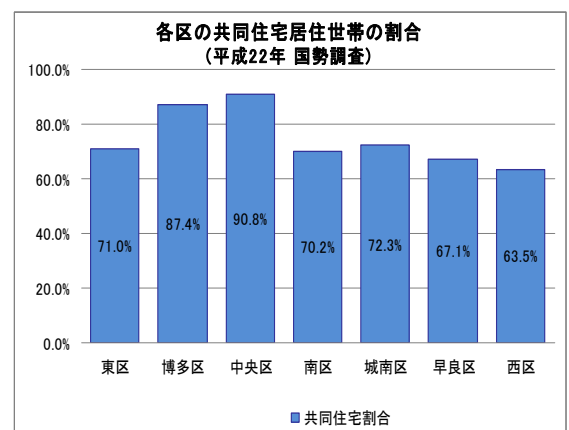
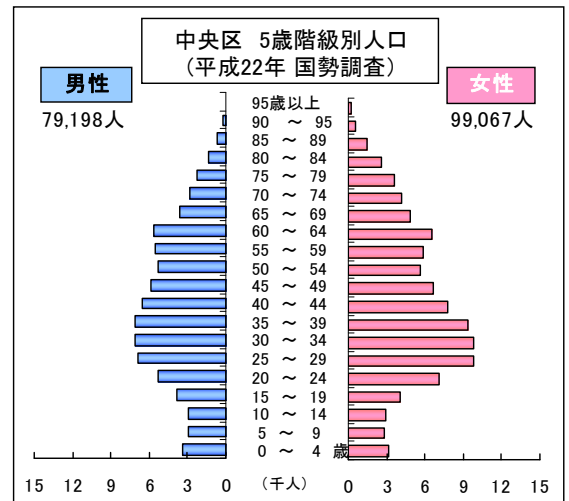
<中央区のまちづくりの目標>

1 区の特徴

- 九州、福岡における屈指の商業集積地である天神を擁し、百貨店をはじめ専門店など数多くの商業施設が立地しており、こうした集積を背景に小売業は市内最大の販売額を誇っています。
- 天神地区は、鉄道やバス網の起点となる交通の要衝であり、九州はもとより国内外から訪れる人で活気があふれています。また近年は外航クルーズ船の寄港による来街者も増加するなど、“大陸との玄関口・福岡”の顔としての役割を担っています。
- 都心でありながら、西公園から大濠公園・舞鶴公園、動植物園のある南公園、鴻巣山と豊かな水と緑に恵まれ、貴重な歴史的文化遺産である国史跡の鴻臚館跡、福岡城跡や幕末の勤王歌人野村望東尼の平尾山荘など歴史にふれあえる場所も身近にあります。
- 市美術館、アクロス福岡などの文化施設が点在し、外国公館、国際機関や新聞社、放送局などの報道機関も集積しています。また、ヤフードームなどのスポーツ・エンターテインメント施設があり、プロ野球をはじめスポーツ・音楽などのイベントが数多く開催されています。
- 単身世帯は、全世帯の約6割に上がっており、博多区に次いで高い割合となっています。生産年齢人口の割合は7区で最も高く、一方15歳未満の年少人口及び65歳以上の高齢者人口の割合は、7区で最も低い状況です。また9歳以下の年代を除き、各年代層とも女性の人口が男性を上回っており、特に20代、30代の女性が多いという特徴が見られます。

2 現状と課題

- 都心部のにぎわいを創出するため、地域の住民・企業等との共働によりまちづくりを進める必要があります。九州新幹線鹿児島ルート全線開通等により来街者が増加しており、にぎわいの創出とともに都心部の回遊性の向上が課題となっています。また、数多く存在する歴史・文化資源が市民等に十分に知られておらず、まちの資源として有効に活用していく必要があります。
- 中央区は約9割の住民がマンション等の共同住宅の居住者で、人口の流動も大きいことから、地域コミュニティの希薄化や地域の中で子育て家庭の孤立化などが懸念されており、地域コミュニティの形成支援や子育て支援に関する施策の充実が必要となっています。
- 放置自転車については、駐輪場の整備や撤去による効果でかなり改善されてきていますが、人と自転車の共生をめざし、今後も継続して取組みを進める必要があります。また、交通事故件数のうち自転車事故の占める割合は、中央区が全市で一番高く、自転車の歩道における安全走行が課題となっています。



都心部では、自動車交通の集中により依然として生じている交通渋滞や、ひったくり、落書きなどの犯罪の増加が課題となっています。

3 まちづくりの目標と取組みの方向性

人が集い、人が輝き、人がやさしいまち「中央区」
～にぎわい・元気・安心がつながるまちをめざして～

○自然、歴史、地域の魅力を生かした、にぎわいのあるまち

本市の活力の源である都心部において、地域の住民や企業と共働して、活気あふれるまちのにぎわいづくりや、景観・環境美化活動に取り組むとともに、博多駅地区との回遊性の向上など、都市の価値や魅力を高めるまちづくりを進めます。

また、九州大学六本松キャンパス跡地においても、地域拠点にふさわしいまちづくりを進めます。

さらに、市民の憩いの場である舞鶴公園については、鴻臚館跡や福岡城跡の貴重な史跡をランドマークとした魅力づくりを進めるとともに、そのほかの歴史、文化、食など、地域の魅力ある資源を、観光資源として十分に活用するなど、人をひきつけるまちづくりを進めます。

○思いやりの心で人がつながり、元気に暮らせるまち

地域の人々がお互いに支え合い、助け合いながら、行政やコミュニティ・NPO・ボランティアなどとの共働を通じて、主体的に地域づくりに取り組めるような活動支援を進めます。

また、地域での子どもの見守りを充実させ、安心して子どもを生み育てることができる環境づくりを進めるとともに、個性や価値観などの違いを理解し、誰もがいきいきと元気に暮らせる取組みを進めます。

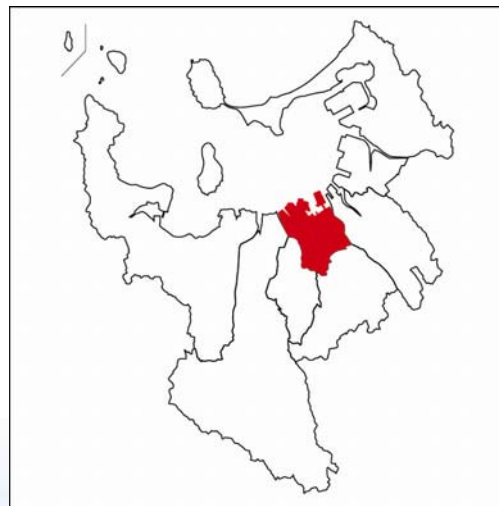
○誰もが安心して暮らせるまち

自転車の放置や事故件数の多い天神地区等において、地域住民、事業者などと共働して、自転車の放置防止や適正利用を推進し、「乗りやすい・とめやすい・歩きやすい」人と自転車が共生できるまちづくりを進めるとともに、公共交通を主軸とした交通体系の構築など、都心部の交通円滑化に向けた取組みを進めます。

また、地域住民の防犯意識の高揚と地域の自主防犯活動に対する支援を行い、犯罪が起これにくい環境づくりを進めるとともに、災害時に備えた地域自主防災組織の活動の支援など災害対策の取組みを進めます。

さらに、市民生活の基本である食とくらしの安全安心を確保するための取組みを進めます。

中央区地図概要



南区



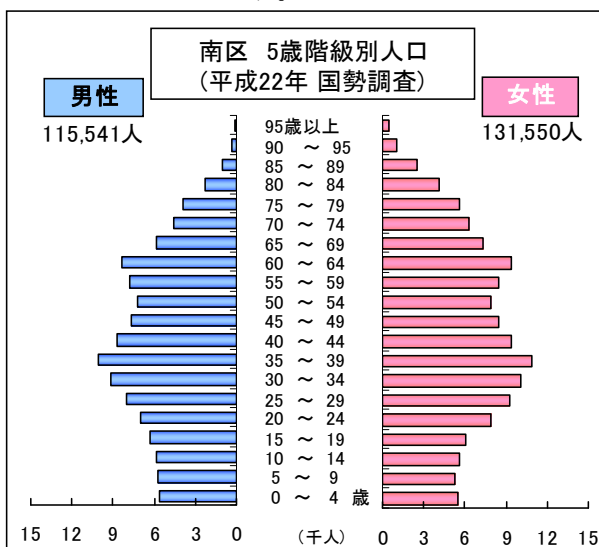
<南区のまちづくりの目標>

1 区の特徴

- 面積は7区中5番目（全市の9.1%）ですが、人口は東区に次いで2番目（全市の16.9%）、人口密度は中央区、城南区に次ぐ3番目で、昼間人口に比べて夜間人口が多い「くらしのまち」です。
- 南西にそびえる油山や南北に流れる那珂川、鴻巣山などの身近な自然環境に恵まれています。中でも、野多目大池、老司大池、野間大池をはじめ56箇所を数える「ため池」は、南区の景観の大きな特色となっており、地域のオアシスとして散策コースなどに活用されています。
- 全体的に丘陵地などを開発したため坂が多く、谷間の部分に道路がつくられまちが発展してきました。昭和30年代半ば以降に急速に住宅開発が進められ、区内全域に戸建て住宅や、長住団地、弥永団地、若久団地などの大規模団地が広がっています。また、九州大学芸術工学部、香蘭女子短期大学、純真学園大学、純真短期大学、第一薬科大学、福岡女学院大学などの特色ある大学・短大が立地する文教地区でもあります。
- 大橋駅から高宮駅の周辺にはマンションや商業施設、区役所、市民センター、男女共同参画推進センターアミカスなどの公共施設が立地しており、ここから区の西部・南部地域などへ道路交通網が伸びて、バス路線を中心に区全体を結んでいます。

2 現状と課題

- 人口は、近年は概ね横這いで、今後も2022年まではほぼ横這いで推移すると予測されます。その中で、少子化、高齢化はさらに進行して、2022年には南区全体で65歳以上の人の割合（高齢化率）が4人にひとりになると予測されます。
- 高齢化の現状は校区によって異なっており、区の西部・南部地域を中心にして、高齢化率が既に20%を超えている地域が全25小学校区のうち13校区あり、うち5校区は25%以上となっています。（図参照／住民基本台帳平成24年6月末現在）
- 近年、全国的に地震や集中豪雨などの自然災害が増加しており、災害直後の行政の支援が届きにくい段階での住民による主体的な取組みが一層重要になっており、身近な地域での安否確認や救助の仕組みの構築や体制の確保などが課題となっています。
- 7区の中で唯一地下鉄がない南区で、西鉄天神大牟田線からも遠い区の西部・南部地域では、高齢化とも相俟って、バスの路線網や運行本数の充実など利便性の向上が求められています。また、他の地域も含めて丘陵地にはバスが通ることができない狭い道路も多く、今後さらに高齢化が進行する中で地域を循環するバスなどの導入、そのための制度の研究などの対応策が求められています。



3 まちづくりの目標と取組みの方向性

いきいき南区 暮らしのまち

～身近な自然とふれあい みんながつながり支え合う～

○人のつながりや交流が大切にされ、地域で支え合い・助け合う暮らしやすいまち

南区には、大規模な公共施設・企業・商業施設・工場などは少なく、早くから地域活動が盛んな『人と地域コミュニティ』が財産のまちです。

身近な地域コミュニティの人や組織が、人々の日々の暮らしを支え、行政はそのネットワークづくりや公民館をはじめとする活動の場づくりを支援します。

そして、住民と行政が一緒になって、地域の支え合いによる子育てや高齢者への支援、健康づくりや福祉の向上などに取り組み、暮らしやすいまちづくりを進めます。

○みんなにやさしい、安全で安心して住み続けられるまち

安全で安心して健やかに暮らしたいというのは、みんなの願いです。

そのため、防犯・防災や交通安全などの取組みを行政と住民との共働で進めます。

商業施設などが多い校区では、都市型の犯罪や交通量の多さなど、住宅が中心の校区などでは、高齢者や子どもの見守りなど、地域ごとに異なる課題に応じて工夫しながら、『安全・安心』なまちづくりを進めていきます。

また、歩道のフラット化や歩行部分のカラー化など、人にやさしいみちづくりを進めるとともに、高齢化が進む南区での日常生活を支えていくため、主要な公共交通機関であるバスの利便性の向上や、自転車などの利用の促進とそのために必要な整備を図ります。

○那珂川やため池、油山などの自然がさらに身近に感じられるうるおいとやすらぎのあるまち

那珂川やため池などの水辺や、油山や鴻巣山、花畑園芸公園、も～も～らんど油山牧場などの緑がさらに身近に感じられ、心と身体健康づくりなどにも役立つ取組みを進めるとともに、地域での環境を守り育む活動や、自然とふれあう活動を支援します。

また、将来の水辺や緑の望ましい姿や必要な整備・活用方法についても検討するなど、自然に親しむことのできる『うるおいとやすらぎ』のあるまちづくりを進めます。

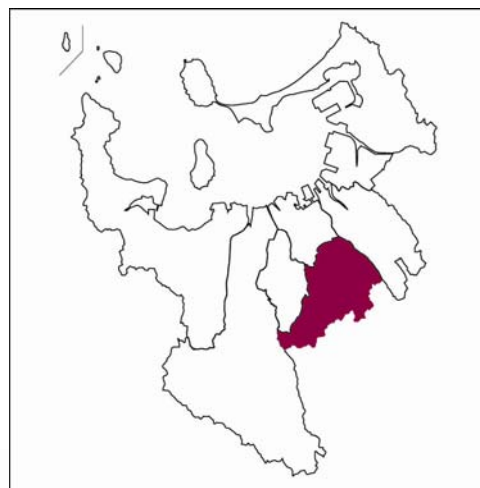
○大学や隣接地域との連携・交流や文化活動などが盛んで、活気あふれるまち

南区にある大学・短大の持つ情報や専門的知識を子育てや高齢者の健康など、住民の暮らしの課題解決に生かす取組みを進めるとともに、学生が地域コミュニティと関わりを持ち、まちづくりに携わることができるよう、学生と地域との交流を促進します。

また、隣接する那珂川町と行政区域を越えた住民同士の交流を深めます。

そして、市の南部広域拠点と位置づけている大橋エリアと区の西部・南部地域を結ぶ道路交通網の強化や公共交通の利便性向上などにより、より多くの人が行き交い、商業も活性化するなど、南区全体が活気あふれる『暮らしのまち』となることをめざします。

南区地図概要



城南區



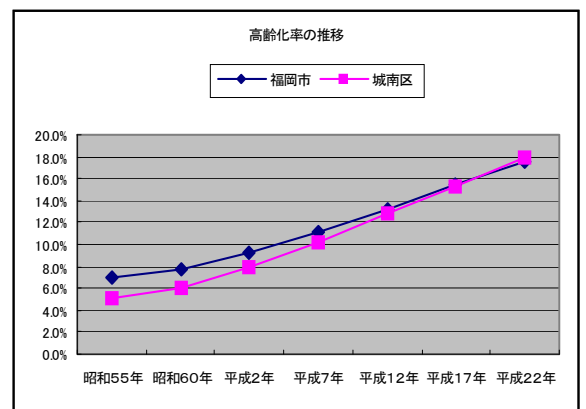
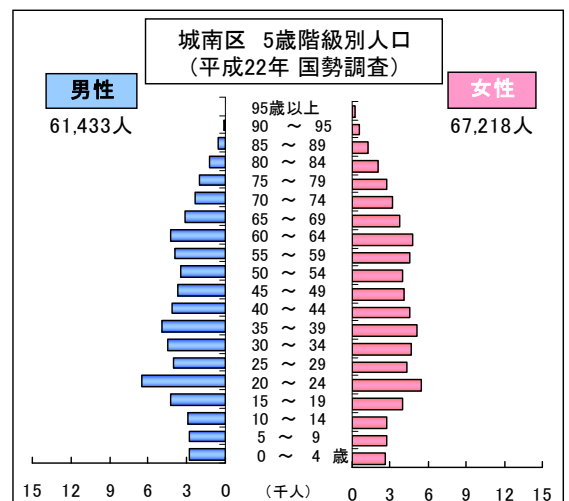
<城南区のまちづくりの目標>

1 区の特徴

- 北部はマンション建設などで都市化が進み、人口移動が激しい住宅街で、行政サービス機能や文化施設、学校等が集積する文教地区を形成しています。一方、南部に広がる油山や区内を南北に流れる樋井川、多くのため池など、豊かな自然環境が市街地のすぐ近くにあります。また、梅林古墳や菊池神社、友泉亭公園などの歴史的な文化資源にも恵まれています。
- 区内を縦貫する地下鉄七隈線や横断する福岡外環状道路及び福岡高速5号線などの整備により、交通利便性の向上が図られています。
- 昭和30年代中頃から大規模な住宅団地が建設されるなど急速に市街地化が進んだため、市街化区域に占める住宅地の割合が高くなっています。
- 区内に福岡大学、中村学園大学の二つの大学があり、大学の公開講座開設や施設の地域利用が進められるとともに、両大学の学生は地域活動に積極的に参加するなど、まちづくりの大きな活力となっています。

2 現状と課題

- 集中豪雨による樋井川水系の河川の氾濫や地震などの自然災害、街頭犯罪や交通安全などへの対策について、住民の関心が高まっています。
- 近年は全市平均を上回るスピードで高齢化が進んでおり、独居・閉じこもりや認知症などの高齢者問題への取組みが急務となっています。また、安心して子どもを生み育てられる環境づくりを進める必要があります。
- 福岡大学、中村学園大学の学生数約2万5千人は、区人口の約2割に相当し、両大学の教育・研究機能や若い学生の活力は、区の大きな資源と言えます。
- 油山や樋井川、ため池など身近にある豊かな自然環境を次世代に継承することや、住みやすい環境保全に向けた取組みが求められています。



3 まちづくりの目標と取組みの方向性

豊かな暮らしがあるまち・城南区

～大学・自然と共生し、地域で支え合う安全で安心なまちづくり～

○安全で安心して暮らせるまち

樋井川水系の河川の氾濫や地震などの自然災害に対する備えを充実するとともに、街頭犯罪の防止や交通安全施設を整備するなど、安全で安心して暮らせる環境を整えます。

また、市民生活における食と暮らしの安全確保や、誰もが安心して子育てできる環境の充実を図るなど、みんなにやさしいまちをめざします。

○地域で支え合う、ぬくもりのあるまち

福祉や子育て、環境、まちづくり活動など、地域の課題解決に向けて地域が主体的に取り組むコミュニティ活動を支援します。

また、思いやりと助け合いの心で、高齢者や障がいのある人などを支え合う体制や生きがいをもって社会活動に参加できる環境を整えます。

○地域に開かれた大学のあるまち

多様な分野で学生の新鮮な知恵と活力を生かし、地域と学生が出会い、交流し、共にまちづくりに取り組む環境やしくみを整えます。

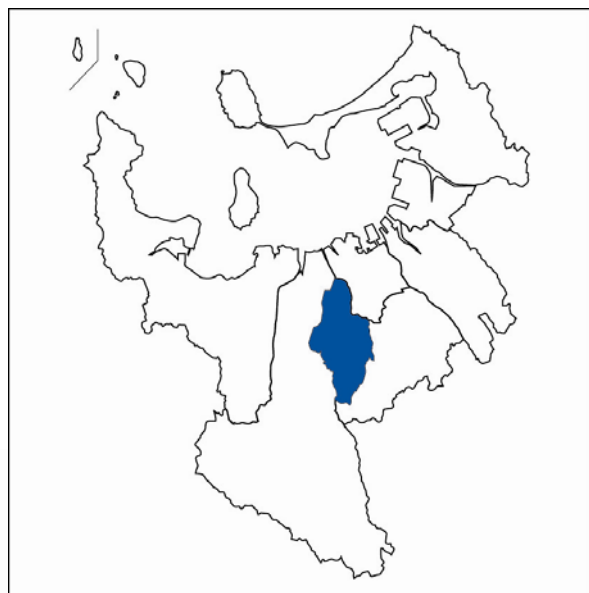
また、大学の高い教育・研究機能を地域社会に還元し、大学との交流、学生とのふれあいを通じて、地域固有の文化を醸成します。

○自然環境を大切にするまち

油山や樋井川など豊かな自然を次世代に継承するため、市民自らが自然環境を守り育てる活動などを支援します。

また、自然を大切に守り育てる活動の継続により、生活の中に季節の変化を感じられる緑豊かな潤いのあるまちを形成します。

城南区地図概要



早良区



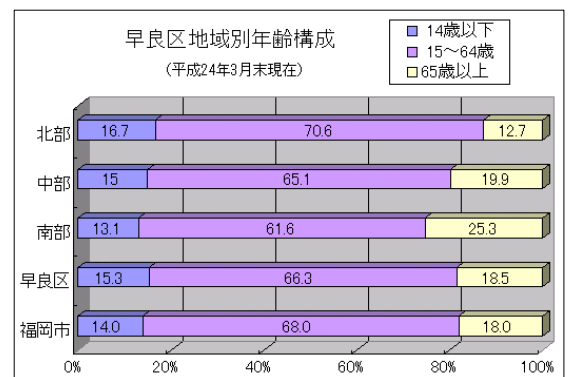
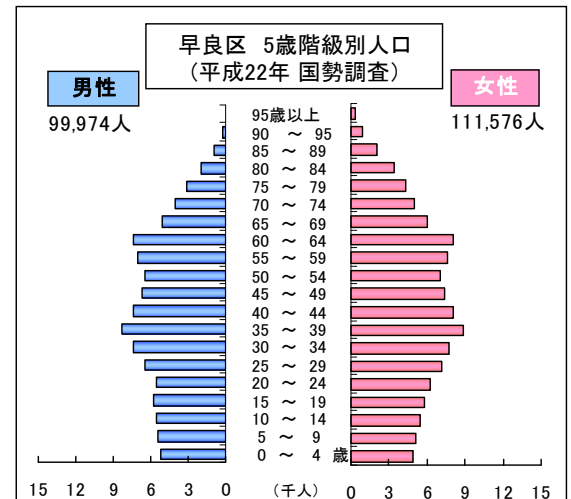
<早良区のまちづくりの目標>

1 区の特徴

- 早良区は南北に長く、山、川、海と豊かな自然に恵まれた多様な魅力にあふれたところです。北部は、商業・文教・交通の拠点として近代的な街並みを有し、中部は、閑静な住宅地域が広がり、南部は、緑と自然が豊かな農業・住宅地域です。
- また、蒙古来襲に備えて築かれた元寇防塁や黒田藩の御用窯だった高取焼など歴史的な資産が多い地域です。
- 早良区は、昭和 47 年の政令指定都市昇格に伴い設置された西区が、昭和 50 年の旧早良町との合併を経て、昭和 57 年に早良、城南、西の 3 区に分区され、誕生しました。
- 区内に、西南学院大学や福岡歯科大学などがあり、その知的資源を生かした公開講座や地域交流拠点としての大学施設の提供、また、子育て支援のための西南子どもプラザの運営受託など、大学、地域、行政の連携が進んでいます。

2 現状と課題

- 区北部の地下鉄沿線の西新・藤崎は、活気あふれる商業地域として発展を遂げ、高校、大学、インターナショナル・スクールなどの文教施設のほか、区役所、市民センターや警察署、税務署などの行政機関も多く集中している地域です。
- また、都市の成長を推進する活力創造拠点であるシーサイドももちでは、福岡タワーや近代的な建物がある住宅地と博物館、総合図書館、ソフトリサーチパークや放送局などの文化・情報技術関連施設が集積しており、西新・藤崎とともに本市の西部拠点となっています。
- この地域は隆盛期から成熟期を迎え、一層の活性化が課題となっており、そのためには、西新、藤崎地区とシーサイドももち地区の一体感、回遊性の向上などにより、さらなる拠点形成が望まれています。
- 区中部の原や飯倉、有田などは、昭和 40 年代に大規模な住宅団地が建設され、幹線道路の沿道には商業施設や集合住宅が多く立地しています。近年、団地住民の高齢化や人口の減少により、地域コミュニティづくりに支障を来す状況も見受けられます。
- また、野芥・賀茂・次郎丸などでは、地下鉄七隈線や福岡外環状道路、福岡都市高速道路の完成に伴い人口が増加しており、新たなまちづくりが進んでいます。
- 区中南部地域における区レベルの行政サービスを補完する施設として、地域交流センターの早急な整備が望まれています。
- 豊かな自然に恵まれた区南部地域は、脊振山系の豊かな清流を生かした市内でも貴重な農業地域であり、また、林業地域であります。一方で、高齢化、過疎化による農林業の後継者不足のため、森林の荒廃や耕作放棄地の問題が発生しています。また、野河内溪谷、花乱の滝、坊主ヶ滝など豊かな自然を生かした市民の憩いの場としての環境整備や市民の日常生活に必要な移動手段である公共交通機関の維持が課題となっています。



3 まちづくりの目標と取組みの方向性

ひと・みず・みどりが光り輝く「早良区」 ふれあいと交流のあるまち

○お互いが支え合い安心して暮らせるまち

保健、福祉、子育て支援が充実し、高齢者や障がいのある人をはじめ、すべての市民が尊重され健康でいきいきと暮らし、子どもが夢を持って健やかに成長できる環境づくりを進めます。また、就労支援など、生活の安定に向けた取り組みも進めます。

地域社会を担う人材を育成すると共に、地域コミュニティと行政が共働で、誰もが参画し、活躍できるまちづくりを進めます。

更なるごみ減量やリサイクル推進など、資源を大切にした環境に優しいまちづくりを進めます。

地域の防災活動の支援や、災害時の被害の最小化を図る減災対策を推進するなど、地震や風水害などの災害に強いまちづくりを進めます。

市民、地域、警察、行政が連携し、犯罪や交通事故を未然に防ぎ、市民が安全安心に暮らせるまちづくりを進めます。

○早良区の特性を生かした魅力あるまち

郷土の歴史や伝統文化、脊振山系や室見川などの豊かな自然を保全し、郷土に誇りと愛着を持ち、次世代へ継承していきます。

地域の特産品、歴史や史跡などの地域資源を生かした地域ブランドを育てていきます。

山、川、海などの豊かな自然と地域の歴史や美しい街並みなど、四季折々の多様な魅力を観光資源として磨き、育てることで、多くの人が訪れ交流が生まれる魅力あるまちづくりを進めます。

○地域の魅力を生かしたまち

早良区は南北に長く北部、中部、南部が異なる特性を持っています。それぞれが持つ地域性や魅力を生かしながら一体感のあるまちづくりを推進します。

◆～活力と賑わいのあるまち～ 北部

文教・行政・商業・交通機能を有する西新・藤崎地区と観光・情報技術関連施設や文化・教育施設を有するシーサイドももち地区とが回遊性を高め、一体となった活力と賑わいのある拠点の更なる形成を進めます。

また、大学や企業・商店街などと連携した活力あるまちづくりを進めます。

◆～地域の新しい拠点となるまち～ 中部

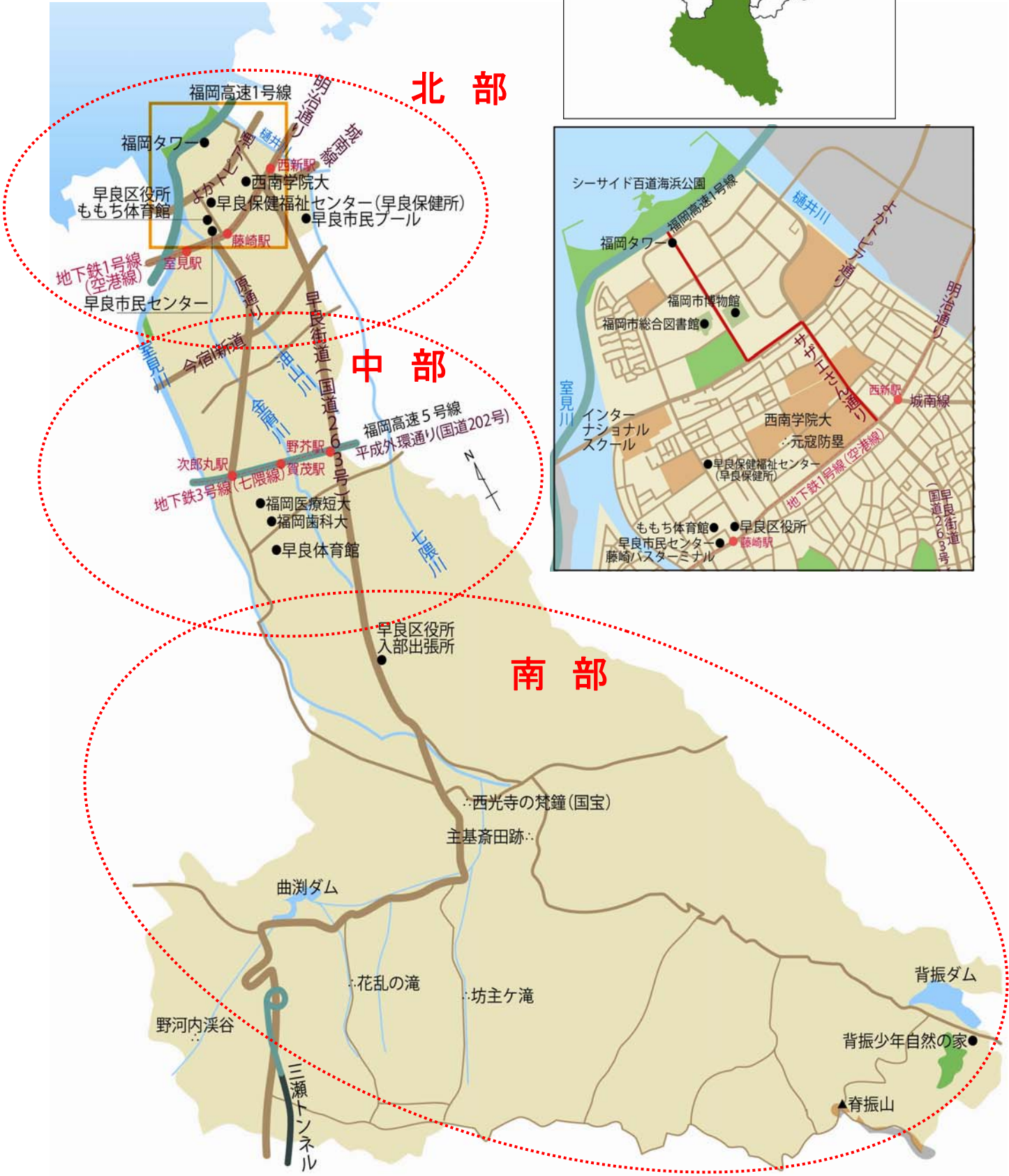
地下鉄七隈線や福岡外環状道路の沿線を中心に新たなまちの形成が進み、商業施設や住宅が融和した便利で快適に暮らせるまちづくりを進めます。

また、地域交流センターを中心に、文化・スポーツ活動や市民交流が広がり、市民がお互いに支え合う自律したコミュニティがあるまちづくりを進めます。

◆～豊かな自然を生かした市民の憩いのまち～ 南部

脊振山系や野河内溪谷などの自然の中でのやすらぎを求めて人々が集う憩いのまちづくりを進めます。また、集落営農などによる農業の活性化や、体験農園、特産品販売所などを通して、地元との交流が生まれるまちづくりを進めます。

早良区地図概要



西 区



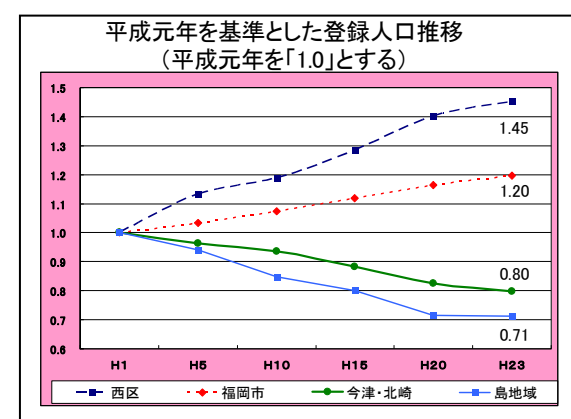
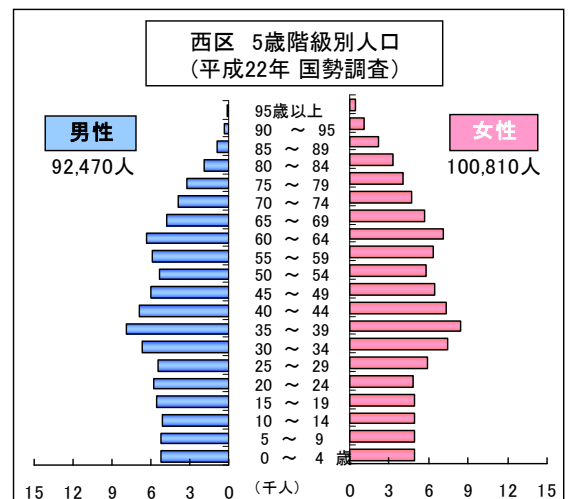
<西区のまちづくりの目標>

1 区の特徴

- 土地利用は長垂山を境に異なり、西部地域の山林と農地、東部地域の住宅市街地と大きく二分されています。
- 今津人形芝居や元岡獅子舞などの民俗行事が今日まで多く受け継がれており、無形民俗文化財が豊富です。
- 史跡も数多く残っており、生の松原、今津などの元寇防塁、吉武高木遺跡、大塚古墳・丸隈山古墳をはじめとする今宿古墳群や今山遺跡などが国の史跡に指定されています。
- 九州大学の伊都キャンパスへの移転も進んでおり、学生と地域との交流の輪が広がっています。
- 平成 23 年 4 月に「福岡外環状道路」の全面供用が始まり、「地下鉄七隈線橋本駅周辺・ＪＲ筑肥線九大学研都市駅周辺のまちづくり」も着実に進められており、平成 24 年には「都市高速道路の福重～石丸間の接続」による環状化や「かなたけの里公園」がオープンするなど、自然環境と共存し都市機能が充実した活気あふれるまちへ変わろうとしています。

2 現状と課題

- 豊かな自然をもつ西区では、都市と自然の近接という特性を生かしたまちづくりとともに、リサイクル運動やエコライフの実践などを通し、持続可能な社会を構築していくことが期待されています。
- 市内で最も農地・漁港が多く、生鮮食料品供給地として農・水産業が盛んですが、後継者不足で農漁業従事者の減少が続いています。
- 少子化・高齢化の急速な進展により、家庭、学校、地域が連携した子育て環境づくりや高齢者を地域で支え合う仕組みづくり、高齢者の自己実現の支援など多くの課題が生じています。
- 都市化が進むことで青少年の非行件数の増加が懸念されることから、治安体制の充実・強化を図るとともに、地域、警察、行政などの共働により、社会全体で防犯に取り組む環境づくりが必要になっています。
- 九州大学の移転事業や土地区画整理事業が進み、人口の増加や新たな開発など、地域を取り巻く環境が変化していく中で、市街化調整区域では、人口減少や少子高齢化、公共交通機関の減少などの問題が顕著に生じている地域もあり、地域の格差が現れてきています。
- 地域コミュニティの自律を促すとともに、それらの市民活動を支援し、さまざまな地域課題の解決に向けて市民と行政が共働で取り組む必要があります。
- 九州大学の伊都キャンパスは、平成 31 年度の移転完了後には、学生・教職員合わせて、約 18,700 人が通う九州大学最大のキャンパスです。そこで、大学の知識や多彩な人材を地域の人材育成やまちづくりに生かすため、大学と地域との連携・交流をより一層促進する必要があります。



3 まちづくりの目標と取組みの方向性

自然と大学の知を生かし、安全で安心して、生き生きと暮らせるまち・西区

～「自然・市民・大学」の3つの宝を磨きあげる～

○自然を生かし、環境にやさしいまち

山、川、海、干潟、島など、西区の宝（魅力）である「身近にある多様な『自然』」を保全・活用し、水と緑の豊かな都市環境づくりを進めます。

○賑わいと楽しさがあり、地域が支え合う、生き生きと暮らせるまち

地域コミュニティで活躍する「温もりのある『市民』」が、自らの知恵と発想をもとに責任ある取組みを行う、自律したコミュニティづくりを支援します。また、西区の資源である歴史や伝統を生かした魅力づくりや生活のペースにあわせて楽しみながら行う健康づくりを地域とともに推進し、賑わいと楽しさのあるまちづくりを進めます。

○大学の知と人材をとり込んだ創造性に富むまち

平成17年10月の開校以来、順調に整備が進んでいる、九州大学伊都キャンパスの知と人材を西区のまちづくりの新しい「宝」と位置づけ、『大学』と地域の連携・交流事業を促進し、『大学』の知識と多彩な人材を地域の人材育成やまちづくりに生かします。

○子どもから高齢者まで、安全で安心して暮らせるまち

安心して子育てができる環境の充実を図るとともに、高齢者の知識や経験、自己実現意欲などを生かすしくみづくりや安心して生活できる体制づくりを進めます。

また、自主防災・防犯活動や交通安全など安全・安心に向けての取組みを、市民、警察、行政が一体となって、連携・共働しながら進め、市民生活のルールを守るモラル・マナーのまちをめざします。

西区地図概要

